

# 令和 5 年度 行政評価結果報告書



一宮市

令和 5 年 10 月

## 目次

1	一宮市の行政評価	1
2	ねらい	1
3	評価対象	1
4	評価方法	2
5	施策評価の結果	4
6	事業評価の結果	7
7	市民から見た評価	8
8	施策評価シート	10
参考	アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について	86
参考	指標数値の算出方法	87

## 1 一宮市の行政評価

複雑・多様化した市民ニーズや地域特有の課題、社会潮流の変化に対応するために、本市の目指す方向性と取組を施策として明示した「第7次一宮市総合計画」が平成30年度からスタートしました。

本市の行政評価は、この「第7次一宮市総合計画」の進捗管理を行い、計画の目標を達成することを主な目的とし、計画に掲げられた施策および施策に関連する事業の評価を行います。

これらの評価結果に基づき、必要な改善策を検討・実施し、PDCAサイクルを運用していくことで、「第7次一宮市総合計画」を効果的かつ効率的に実現していきます。

## 2 ねらい

### (1) 効果的かつ効率的な市政の追求

限られた財源のもとで、第7次一宮市総合計画を実現するため、業務の手段や進め方を絶えず点検・改善し、効果的かつ効率的な行政経営を行います。

### (2) 説明責任の向上

成果をできる限り客観的かつ論理的にわかりやすく検証することにより、市政の透明性を高めます。

### (3) 職員の意識改革

職員一人一人が、自分の仕事の目的と成果を常に念頭に置き、コスト意識を持って仕事を行います。

## 3 評価対象

第7次一宮市総合計画の施策と、施策に関連する事業を対象とします。

### (1) 施策評価

第7次一宮市総合計画に掲げられた全35施策を対象とします。

### (2) 事業評価

各施策に関連する事業として、令和4年度実施計画に掲載した493事業（延べ数）を対象とします。

## 4 評価方法

### (1) 施策評価

施策の進み具合を測るために設定した「成果指標」と、市民アンケート調査等により市民の体感を問う「市民の体感指標」の現状値を毎年度把握し、その評価結果を組み合わせ「施策の評価結果」とします。

#### ア 成果指標による評価

前期基本計画における個々の成果指標の進捗状況を、基準値、令和4年度の現状値および目標値の3つの数値から算定し、「A」～「D」の6段階(※)で評価します。なお、基準値、現状値および目標値については次のとおりです。

※令和5年度は、「B」「C」評価については、含まれる値の範囲が広がるため、それぞれ「+」または「-」を付けた2段階に分けて表示します。

- 基準値：平成28年度中に把握した数値
- 現状値：計画の進捗管理のため、毎年度把握する数値
- 目標値：前期基本計画の最終年度である令和4年度の目標となる数値

施策に複数の成果指標がある場合は、個々の成果指標の評価結果に基づいて、施策の成果指標の評価結果「A」～「D」の4段階にまとめます。なお、成果指標が1つの施策は、その指標の評価結果をもって、施策の成果指標の評価とします。

#### 【成果指標による評価結果の内容】

A	目標値に向けて、良好に推移している
B	目標値に向けて、概ね良好に推移している
C	目標値に向けて、低調に推移している
D	目標値に対して、悪化している

#### イ 市民の体感指標による評価

前期基本計画における市民の体感指標の推移状況を、長期的推移（基準値との比較）と短期的推移（前年度現状値との比較）の関係から「a」～「d」の4段階で評価します。なお、長期的推移と短期的推移の把握においては、アンケート調査による標本誤差を考慮します。

##### 【市民の体感指標による評価結果の内容】

a	基準値および前年度現状値と比較して、良好に推移している
b	基準値および前年度現状値と比較して、概ね良好に推移している
c	基準値および前年度現状値と比較して、低調に推移している
d	基準値および前年度現状値と比較して、悪化している

#### ウ 施策評価

成果指標の評価結果「A」～「D」と、市民の体感指標の評価結果「a」～「d」を並べて「Aa」（最高評価）～「Dd」（最低評価）の16段階で評価します。さらに、成果指標の評価結果と、市民の体感指標の評価結果に乖離（「Da」または「Ad」）が生じていないかを確認します。

#### (2) 事業評価

以下の3つの観点に基づいて評価します。

観点	内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"><li>事業の性質からみて、市が関与する必要があるか</li><li>社会環境や市民ニーズ等から、事業を実施することが妥当か</li><li>施策目的から、事業を実施することが妥当か</li></ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"><li>事業活動の状況からみて、事業の目標を達成しているか</li></ul>
効率性	<ul style="list-style-type: none"><li>コストの状況からみて、前年度と比較して、効率的に事業を進めているか</li></ul>

必要性の評価結果は、「○」（必要性あり）、「要検討」のいずれかとなります。有効性の評価結果は、「★★★」（目標を達成）、「★★」（目標を概ね達成）、「★」（改善が必要）の3段階となります。また、実施できなかった事業など、評価できない事業は「-」（評価不能）としています。効率性の評価結果は、「★★★」（前年度と比較して効率が上がった）、「★★」（前年度と比較して概ね変わらなかった）、「★」（前年度と比較して効率が下がった）の3段階となります。また、実施できなかった事業や、前年度と内容が大きく変わった事業など、評価できない事業は「-」（評価不能）としています。

## 5 施策評価の結果

### (1) 概要

全 35 施策のうち、成果指標の評価結果は、全 35 施策のうち「A：良好」が 10 施策（28.6%）、「B：概ね良好」が 8 施策（22.9%）、「C：低調」が 11 施策（31.4%）、「D：悪化」が 6 施策（17.1%）という結果になりました（図1参照）。

また、市民の体感指標の評価結果は、「a：良好」が 5 施策（14.3%）、「b：概ね良好」が 28 施策（80.0%）、「c：低調」が 2 施策（5.7%）、「d：悪化」が 0 施策（0.0%）という結果になりました（図2参照）。

施策別の評価結果の一覧は、5頁「施策評価の結果一覧表」の通りです。

また、各施策の評価結果の詳細については、各施策評価シートに記載しています。

図1 成果指標

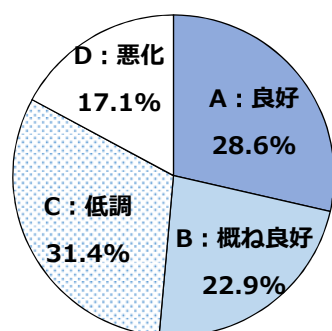
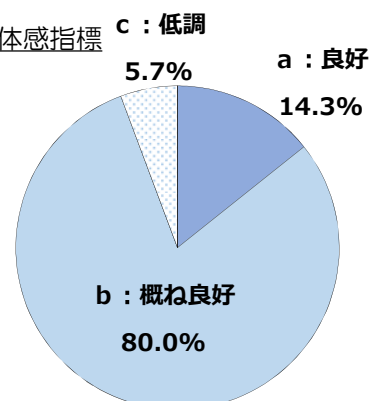


図2 市民の体感指標



### (2) 改善計画等

評価結果に応じて、施策の今後の方向性・改善計画を検討しました。特に、評価結果が「D：悪化」となった6つの施策については、成果指標の現状値の早急な改善を目指して、関係課全体で改善計画を検討・推進していきます。

施策の改善計画等は、各施策評価シート「10. 今後の方向性・改善計画」に記載しています。

## 施策評価の結果一覧表

Plan/ Management	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan 1	1	健康寿命の長いまちづくりに取り組みます	D	b	Db
	2	安心して子育てができる環境をつくります	B	b	Bb
	3	適切な医療を受けられる体制を整えます	A	b	Ab
	4	高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します	B	b	Bb
	5	障害者福祉の充実を図ります	A	b	Ab
Plan 2	6	ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します	B	b	Bb
	7	地球温暖化防止に取り組みます	C	b	Cb
	8	環境教育を推進します	C	b	Cb
	9	水と緑を活かしたまちをつくります	C	b	Cb
	10	良好な生活環境を確保します	C	b	Cb
	11	総合的な住宅対策に取り組みます	A	a	Aa
	12	公共交通網の整備を進めます	D	b	Db
Plan 3	13	歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します	A	b	Ab
	14	災害に強い社会基盤整備を進めます	B	b	Bb
	15	自主防災力の向上を図ります	C	a	Ca
	16	火災や救急に対する体制の強化を進めます	C	b	Cb
	17	交通事故を減らす取組を進めます	A	b	Ab
Plan 4	18	防犯対策を進めます	A	b	Ab
	19	既存産業や次世代産業の育成を支援します	B	b	Bb
	20	意欲を持って働けるよう就労支援を進めます	C	b	Cb
	21	女性の活躍できる環境をつくります	C	b	Cb
	22	魅力があり持続的発展性のある農業を支援します	A	b	Ab
	23	幹線道路の整備を進めます	B	b	Bb

Plan/ Management	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan5	24	子どもから青少年まで健全に育つ環境をつ くれます	C	b	Cb
	25	学校教育施設を整備します	A	b	Ab
	26	特色ある教育活動を実施します	C	b	Cb
	27	する・みる・ささえるスポーツ活動を支援 します	D	b	Db
	28	歴史・文化に親しめる環境を整えます	D	b	Db
Management 1	1	子育て世代に選ばれるまちをつくれます	C	c	Cc
	2	訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつ くれます	D	b	Db
Management 2	3	健全な財政運営に努めます	B	a	Ba
	4	公共施設の適切な維持管理に努めます	D	a	Da
	5	情報通信技術（ICT）を積極的に利活用し ます	A	b	Ab
	6	適切な情報発信を行います	A	a	Aa
	7	市民との協働を進めます	B	c	Bc



## 6 事業評価の結果

### (1) 概要

必要性については、評価対象となる493事業（延べ数）のうち、必要性ありが488事業（99.0%）、要検討が4事業（0.8%）、評価不能の事業が1事業（0.2%）という結果になりました。

有効性については、同493事業のうち、事業の目標を達成した事業（「★★★」）が237事業（48.1%）、目標を概ね達成した事業（「★★」）が208事業（42.2%）、目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）が40事業（8.1%）、評価不能の事業（「-」）が8事業（1.6%）という結果になりました。

効率性については、同493事業のうち、前年度と比較して効率が上がった事業（「★★★★」）が81事業（16.4%）、前年度と比較して概ね変わらなかった事業（「★★★」）が195事業（39.6%）、前年度と比較して効率が下がった事業（「★★」）が129事業（26.2%）、評価不能の事業（「-」）が88事業（17.8%）という結果になりました。

事業評価の結果は、各施策評価シートの「7. 施策実現に向けて実施した事業（実施計画に掲載した事業）」とその評価結果」に記載しています。

### (2) 改善計画

目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）について、原則として、次年度の評価結果を改善するための改善計画を検討・推進していきます。

また、事業の目標を達成した事業（「★★★★」）、目標を一部達成できなかった事業（「★★★」）であっても、施策の評価結果が悪い場合には、成果指標を改善するために必要に応じて改善計画を検討・推進していきます。

事業の改善計画のうち、成果指標の評価結果の改善に効果があるものは、各施策評価シート「10. 今後の方向性・改善計画」に記載しています。

## 7 市民から見た評価

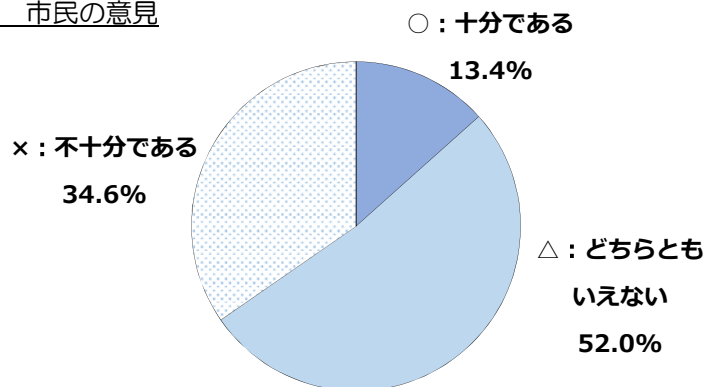
第7次一宮市総合計画の進み具合について、市民ワークショップを実施しました。

成果指標の評価結果が「C」「D」の施策について、関する市の取り組みが「十分である、どちらともいえない、不十分である」のいずれかで評価いただきました。

延べ回答数 306 件のうち、「○：十分である」が 41 件（13.4%）、「△：どちらともいえない」が 159 件（52.0%）、「×：不十分である」が 106 件（34.6%）という結果になりました（図3 参照）。

施策ごとの評価の割合と、ワークショップで出た意見の一部は、各施策評価シート「9. 市民の意見」に記載しています。

図3 市民の意見





# 8 施策評価シート

## (1) 施策評価シートの見方(次頁と見開き)

**第7次総合計画 令和5年度 施策評価シート**

**Plan 1 健やかにいきる**

**施策1 健康寿命の長いまちづくりに取り組みます**

各成果指標について、基準値、現状値、目標値を記載しています。  
また、各成果指標の状況が視覚的にわかるようグラフを記載しています。

市民の体感指標について、基準値、現状値を記載しています。  
また、市民の体感指標の状況が視覚的にわかるようグラフを記載しています。

施策に影響を及ぼしていると考えられる社会的な兆しや動向、本市以外の主体の動きや影響について記載しています。

各成果指標と市民の体感指標について、分析を記載しています。

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① がん検診受診率 (%)	↑	28.6	27.3	27.1	26.5	25.6	25.6	24.9	45.0	D
② 国民健康保険の特定保健指導の該当率 (%)	↓	11.2	11.1	11.3	11.3	11.1	11.1	11.1	10.9	C+

グラフ

①

評価結果

**D**

悪化

グラフ

②

評価結果

**b**

概ね良好

**2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)**

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
健康に暮らしていると感じている人の割合	74.6	75.7	73.9	77.5	74.7	74.2	76.8	<b>b</b>

グラフ

評価結果

**b**

概ね良好

**3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)**

新型コロナウイルス感染症の感染流行の波は、到来することによりその規模が拡大したことから感染のおそれにより受診を控える傾向であったこと。

**4. 指標の分析**

成果指標	① 新型コロナウイルス感染症の影響による医療機関への受診控えのため、前年度現状値から0.7ポイント減少しており、目標値から大きく乖離している。
	② 成果指標のR4現状値は、令和3年度実績による法定報告値であり、新型コロナウイルス感染症による医療機関への受診控えの影響を大きく受けているが、前年度現状値から横ばいであり、目標値から乖離しているが概ね順調に推移している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

**6. 進捗状況マトリクス**

A ↑ 成果指標 ↓ D				
	d ← 体感指標 → a			
	成果指標と体感指標の乖離	なし		

**5. 施策評価**

**Db**

各成果指標の評価結果を「A」から「D」の6段階で記載しています。  
※「B」「C」はそれぞれ「+」「-」の2段階

各成果指標の評価結果をまとめ、「A」から「D」の4段階で記載しています。

市民の体感指標の評価結果を「a」から「d」の4段階で記載しています。

成果指標と市民の体感指標の評価結果を合せて施策の評価結果を「Aa」から「Dd」の16段階で記載しています。

施策の評価結果を視覚的に明らかにするため、マトリクス上に、前回と今回の評価結果を表示しています。  
右上が目指す状態、左下が最低の状態です。

12

成果指標と体感指標の評価結果が乖離している場合(「Ad」または「Da」の場合)に「あり」と記載しています(乖離の要因や必要に応じた改善計画は「10. 今後の方向性・改善計画」に記載)。

(前頁と見開き)

令和3年度実施計画に掲載した事業について、「事業展開の方向性」「事業名」「担当課」を記載しています。

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
健康的な生活習慣づくりの推進	健康づくりサポーター事業	健康支援課	○	★★★	★★★
	健康づくり食生活改善推進事業	健康支援課	○	★★★	★★★
	健康相談事業	健康支援課	○	★★	★
成人保健の充実	国民健康保険特定健康診査・特定保健指導事業	保険年金課	○	★	★★
	後期高齢者医療健康診査受託事業	保険年金課	○	★★	★★
	人間ドック事業	保険年金課	○	★★	★★
	がん検診事業	保健総務課	○	★★	★★
	歯科健康診査事業	保健総務課	○	★★	★★
感染症対策の推進	新保健所整備事業	保健総務課	○	★	★
	予防接種事業	保健予防課	○	★★	★
	結核予防事業	保健予防課	○	★★★	★
	感染症予防事業	保健予防課	○	★	★★★
	新型コロナウイルス感染症対策行政検査等事業	保健予防課	○	★★	-
スポーツによる健康の増進	エコハウス138健康増進事業	施設管理課	○	★★	★
	ウォーキング講習会開催事業	スポーツ課	要検討	★★	-

実施計画に掲載した事業について、事業評価の結果を記載しています。  
必要性は「○」または「要検討」の2段階評価、有効性と効率性は「★」～「★★★」の3段階評価です。  
評価できない事業は「-」としています。

成果指標の評価結果が「C」「D」の施策について、総合計画ワークショップの結果として、ワークショップに参加した市民の評価結果(○、△、×の割合)と、評価の理由や施策を良くするために「私たちにできること」の意見を記載しています。

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)		
事業名	見直しの内容	
ウォーキング講習会開催事業	市事業としての役割を終えているため、廃止とした。	

必要性の評価結果が「要検討」の事業について、事業の見直しの内容を記載しています。

成果指標の評価結果が「C」「D」の施策について、総合計画ワークショップの結果として、ワークショップに参加した市民の評価結果(○、△、×の割合)と、評価の理由や施策を良くするために「私たちにできること」の意見を記載しています。

9. 市民の意見		
評価結果	割合	評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
○ 十分である	16.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診の受診率が上がっていない。</li> <li>周りの人にがん検診を推奨する。</li> <li>悪い所があれば早く検査する。</li> <li>自分に合った運動を見つける。</li> </ul>
△ どちらともいえない	61.1%	
× 不十分である	22.2%	

施策を推進していくための今後の方向性や改善計画について、施策に関連する主な事業の改善計画を含めて記載しています。

10. 今後の方向性・改善計画

新型コロナウイルス感染症の対応は、感染症法上の5類に移行したことから新たな生活様式での行動容が見込まれる。そこで生活習慣病の予防と早期発見のためには、「特定健康診査・特定保健指導」や「がん検診」などの定期的な医療機関への受診は有効であることを積極的に「保健所だより」、「市ウェブサイト」等で普及啓発、受診勧奨を行う。

主担当部・課	関係課
保健所 保健総務課	保険年金課、保健予防課、新型コロナワクチン接種推進室、健康支援課、施設管理課、スポーツ課

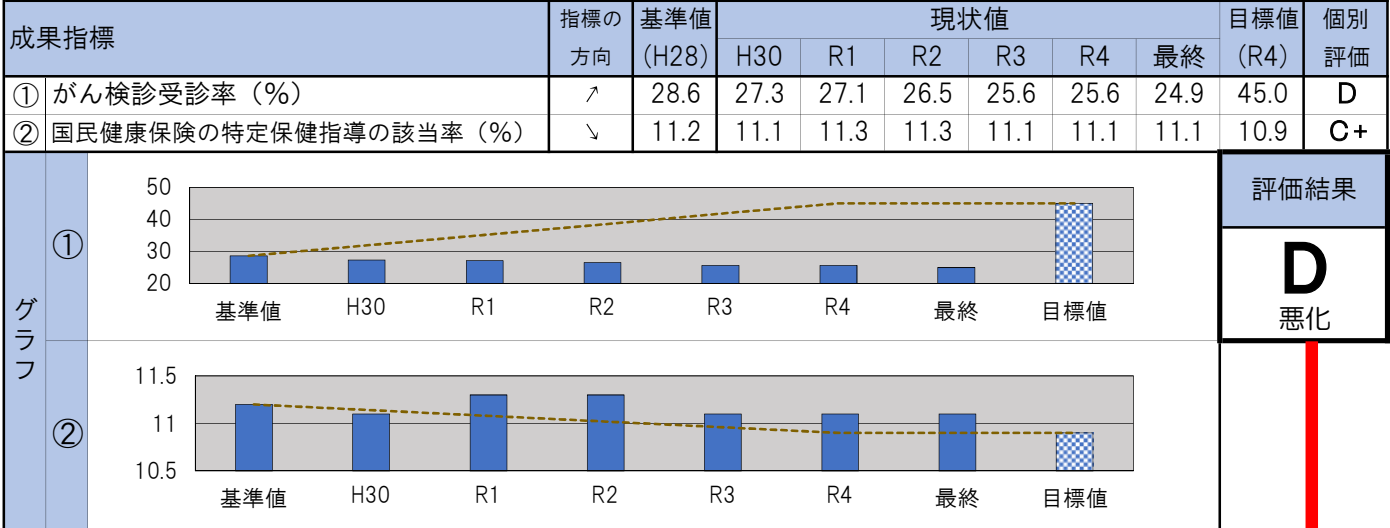
(2) 各施策の施策評価シート

全 35 施策の施策評価シートを次頁以降に掲載しています。

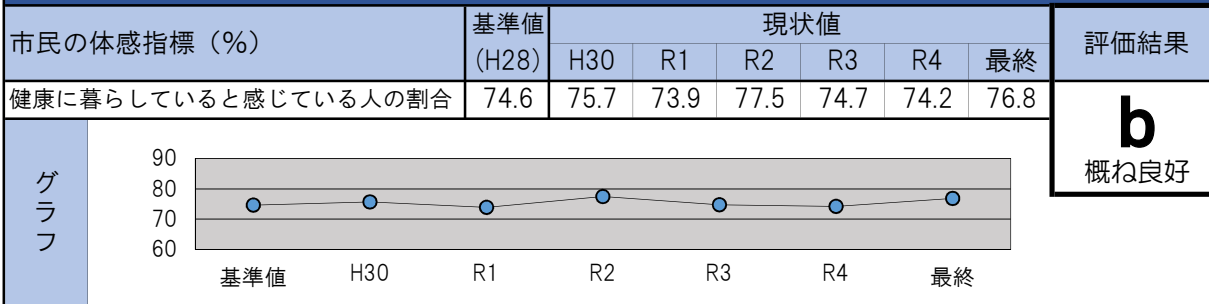
Plan 1 健やかにいきる

施策1 健康寿命の長いまちづくりに取り組みます

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

新型コロナウイルス感染症の感染流行の波は、到来するごとにその規模が拡大したことから感染のおそれにより受診を控える傾向であったこと。

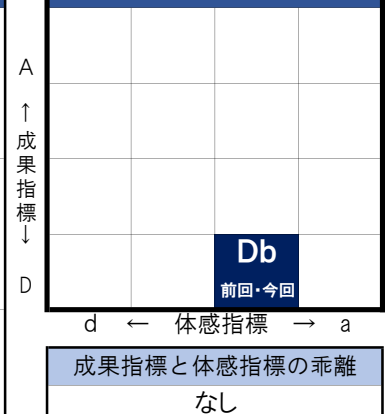
5. 施策評価

**Db**

4. 指標の分析

成果指標	① 新型コロナウイルス感染症の影響による医療機関への受診控えのため、前年度現状値から0.7ポイント減少しており、目標値から大きく乖離している。
成果指標	② 成果指標のR4現状値は、令和3年度実績による法定報告値であり、新型コロナウイルス感染症による医療機関への受診控えの影響を大きく受けているが、前年度現状値から横ばいであり、目標値から乖離しているが概ね順調に推移している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス



## 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
健康的な生活習慣づくりの推進	健康づくりサポーター事業	健康支援課	○	★★★★	★★
	健康づくり食生活改善推進事業	健康支援課	○	★★★★	★★
	健康相談事業	健康支援課	○	★★	★
成人保健の充実	国民健康保険特定健康診査・特定保健指導事業	保険年金課	○	★	★★
	後期高齢者医療健康診査受託事業	保険年金課	○	★★	★★
	人間ドック事業	保険年金課	○	★★	★★
	がん検診事業	保健総務課	○	★★	★★
	歯科健康診査事業	保健総務課	○	★★	★★
感染症対策の推進	新保健所整備事業	保健総務課	○	★	★
	予防接種事業	保健予防課	○	★★	★
	結核予防事業	保健予防課	○	★★★★	★
	感染症予防事業	保健予防課	○	★	★★★★
	新型コロナウイルス感染症対策行政検査等事業	保健予防課	○	★★	-
	新型コロナウイルスワクチン予防接種事業	新型コロナワクチン接種推進室	○	★★	★★★★
スポーツによる健康の増進	エコハウス138健康増進事業	施設管理課	○	★★	★
	ウォーキング講習会開催事業	スポーツ課	要検討	★★	-

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容
ウォーキング講習会開催事業	市事業としての役割を終えているため、廃止とした。

## 9. 市民の意見

	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	十分である	16.7%
△	どちらともいえない	61.1%	
×	不十分である	22.2%	

## 10. 今後の方向性・改善計画

新型コロナウイルス感染症の対応は、感染症法上の5類に移行したことから新たな生活様式での行動変容が見込まれる。そこで生活習慣病の予防と早期発見のためには、「特定健康診査・特定保健指導」や「がん検診」などの定期的な医療機関への受診は有効であることを積極的に「保健所だより」、「市ウェブサイト」等で普及啓発、受診勧奨を行う。

主担当部・課
保健所 保健総務課

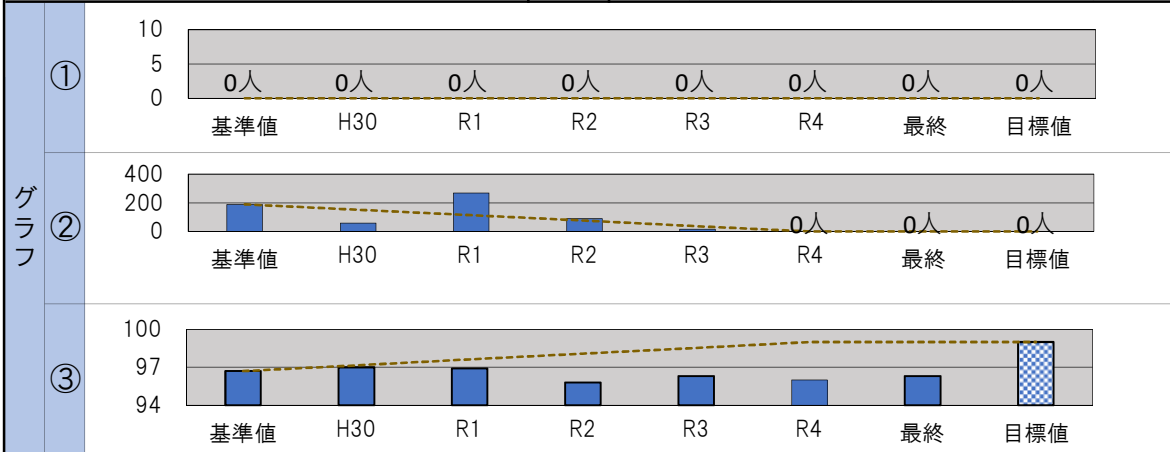
関係課
保険年金課、保健予防課、新型コロナワクチン接種推進室、健康支援課、施設管理課、スポーツ課

Plan 1 健やかにいきる

施策2 安心して子育てができる環境をつくります

1. 成果指標による評価

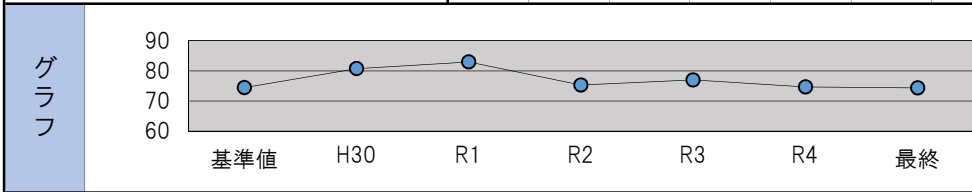
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 待機児童数(保育園)(人)	→	0	0	0	0	0	0	0	0	A
② 待機児童数(放課後児童クラブ)(人)	↘	189	58	268	90	17	0	0	0	A
③ 乳幼児健康診査の受診率(%)	↗	96.7	97.0	96.9	95.8	96.3	96.0	96.3	99.0	D



評価結果  
**B**  
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
安心して子育てができていると思う人の割合	74.4	80.7	82.9	75.3	77.0	74.7	74.3	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・「子育て支援」や「働き方改革」が国においてもメインテーマになっている。
- ・少子化の進行や核家族化など社会情勢の変化や、働く女性の増加、職業・就労形態の多様化などにより、仕事と子育てを両立できる環境整備の必要性が高まっている。
- ・地域のつながりの希薄化から子育てに孤立感や不安感、負担感を抱く人が増えている。
- ・身近で気軽に相談ができ、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備が求められている。

5. 施策評価

**Bb**

4. 指標の分析

①	保育園、認定こども園、小規模保育事業所などで定員を確保することにより、引き続き目標値を達成している。
②	施設整備工事により定員増を図ったため、目標値を達成している。
③	新型コロナウイルス感染症の規制・制限の緩和により受診控えが落ち着いたため、前年度現状値から0.3ポイント上昇しているものの、目標値から大きく乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	<b>Bb</b> 前回・今回
D	
d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離なし	



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
親と子どもの健康づくり	不妊治療費・不育症検査費補助事業	保健総務課	○	★★	★★
	小児慢性特定疾病医療給付事業	保健総務課	○	★★★★	★★
	未熟児養育医療給付事業	保健総務課	○	★★★★	★
	予防接種事業	保健予防課	○	★★	★
	妊産婦健康診査事業	健康支援課	○	★★	★★★★
	乳幼児健康診査事業	健康支援課	○	★★★★	★★
	こんには赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康支援課	○	★★★★	★★
	母子健康包括支援センター事業	健康支援課	○	★★	★★
	新型コロナウイルス感染症対策妊産婦総合支援事業	健康支援課	○	★★★★	★★★★
安心で楽しい子育ての推進	子ども医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	★★
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	健康支援課	○	★★★★	-
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	子育て支援課	○	★★★★	★
	児童手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	児童遊園・ちびっ子広場管理事業	子育て支援課	○	★★	★★
	児童館管理運営事業	子育て支援課	○	★★	★
	児童館の整備・充実事業	子育て支援課	○	★★★★	★
	子育て支援センター事業	保育課	○	★★	★★
	子ども一時預かり事業	保育課	○	★★★★	★★
	保育料減免事業	保育課	○	★★★★	★
	特別保育事業(一時保育)	保育課	○	★★★★	★★
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★
	公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	子育て支援ネットワーク事業	生涯学習課	○	★★	★
仕事と子育ての両立支援	放課後児童クラブ運営事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	ファミリー・サポート・センター事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	保育園の施設整備事業	保育課	○	★★★★	★
	私立保育園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★
	認定こども園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	保育事業	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★★★
	医療的ケア児保育モデル事業	保育課	○	★★★★	★★
	小規模保育改修費等支援補助事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	放課後子ども教室事業	青少年課	○	★★	★★★★
子ども・家庭の状況に応じた支援の充実	母子・父子家庭等医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	★★
	こんには赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康支援課	○	★★★★	★★
	地域福祉計画策定事業	福祉総務課	○	★★★★	★★★★
	児童扶養手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	一宮市遺児手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	一宮市遺児一時金支給事業	子育て支援課	○	★★	★★
	児童虐待防止推進事業	子ども家庭相談課	○	★	★★
	子ども悩みごと相談事業	子ども家庭相談課	○	★★	★★★★
	母子生活支援施設入所相談事業	子ども家庭相談課	○	★★★★	★★★★
	高等職業訓練促進給付事業	子ども家庭相談課	○	★	★
	母子父子寡婦福祉資金貸付事業	子ども家庭相談課	○	★★★★	★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★★★

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

## 9. 市民の意見

--

## 10. 今後の方向性・改善計画

引き続き、仕事と子育てを両立できる環境整備を進めるとともに、子育てに対する孤立感や不安感、負担感を抱く人が1人でも少なくなるよう、気軽に相談できる体制、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備を進めていく。

### 主担当部・課

子ども家庭部 子育て支援課

### 関係課

保険年金課、保健総務課、保健予防課、健康支援課、福祉総務課、子ども家庭相談課、保育課、青少年課、公園緑地課、生涯学習課

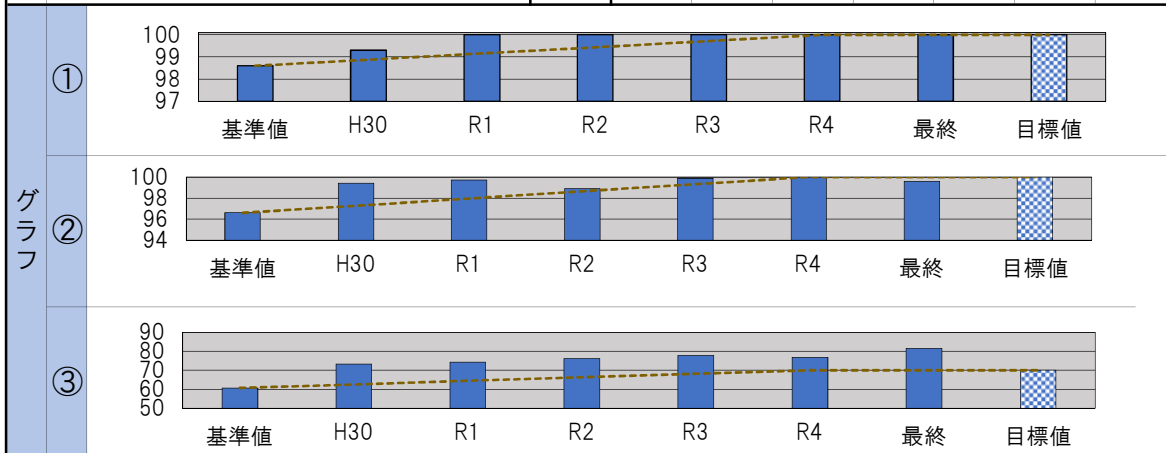


Plan 1 健やかにいきる

施策3 適切な医療を受けられる体制を整えます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 市立病院の医師の充足率 (%)	↗	98.6	99.3	100	100	100	100	100	100	A
② 市立病院の看護職員の充足率 (%)	↗	96.6	99.4	99.7	98.9	99.9	100	99.6	100	B+
③ 地域医療機関から市民病院への紹介率 (%)	↗	60.7	73.3	74.4	76.2	77.8	76.9	81.5	70.0	A

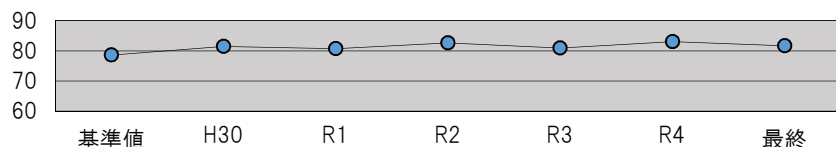


評価結果  
**A**  
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
自分に合った医療を受けていると思う人の割合	78.6	81.5	80.7	82.6	81.0	83.0	81.7	<b>b</b> 概ね良好

グラフ



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・持続可能な地域医療提供体制を確保するため経営強化プランを策定し、一宮市病院事業の経営強化に総合的に取り組むことが求められている。  
・新型コロナウイルス感染症拡大に起因する患者の受診控えや空床確保のため減少した医業収入を補填していたコロナ関連補助金は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行によりその多くが終了となった。

5. 施策評価

**Ab**

4. 指標の分析

①	医局による医師派遣が継続されたため、目標値を達成している。
②	退職補充ができなかったため、前年度現状値から0.4ポイント低下しているものの、目標値を概ね達成している。
③	新型コロナウイルスによる患者の受診控えが収まり、受診する患者が増加したため、前年度現状値から4.6ポイント上昇しており、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

A  
↑ 成果指標  
↓  
D

6. 進捗状況マトリクス		Ab 今回	Aa 前回

d ← 体感指標 → a

成果指標と体感指標の乖離なし

### 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
医療従事者の確保と技術の向上	医師・看護職員確保事業	市民病院事務局管理課	○	★★	★★
	医療従事者研修事業	市民病院事務局管理課	○	★★★★	★★
	院内保育所事業	市民病院事務局管理課	○	★★	★
	医師・看護職員確保事業	木曾川市民病院事務局業務課	○	★★★★	-
	医療従事者研修事業	木曾川市民病院事務局業務課	○	★★	★★
病院機能の充実	救命救急センター事業	市民病院事務局管理課	○	★★	★★
	救急医療・高度医療・特殊診療部門医療機器整備事業	市民病院事務局管理課	○	★★	★★
	地域周産期母子医療センター事業	市民病院事務局管理課	○	★★	★★
	ベッドサイド情報端末設置事業	市民病院事務局管理課	○	★★★★	-
	救急医療・高度医療・特殊診療部門医療機器整備事業	木曾川市民病院事務局業務課	○	★★★★	★★★★
	クリーンルーム改修事業	木曾川市民病院事務局業務課	○	★★★★	-
地域医療機関との連携	病診・病病連携事業	市民病院地域医療連携室	○	★★★★	★★
	病診・病病連携事業	木曾川市民病院事務局業務課	○	★★	-
休日等における診療体制の整備	休日急病診療所運営事業	保健総務課	○	★★★★	★
	尾張西北部広域第二次救急医療事業	保健総務課	○	★★★★	★★
	口腔衛生センター運営事業	保健総務課	○	★★	★★

### 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

### 9. 市民の意見

### 10. 今後の方向性・改善計画

施策の実現に向けて、引き続き各事業を継続する。

主担当部・課
病院事業部 市民病院事務局管理課

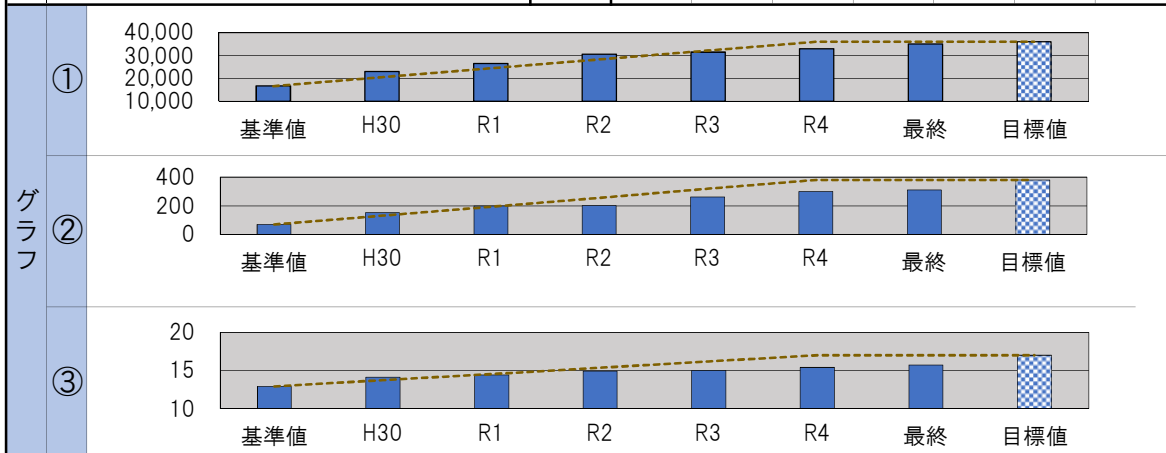
関係課
保健総務課、市民病院地域医療連携室、木曾川市民病院事務局業務課

Plan 1 健やかにいきる

施策4 高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します

1. 成果指標による評価

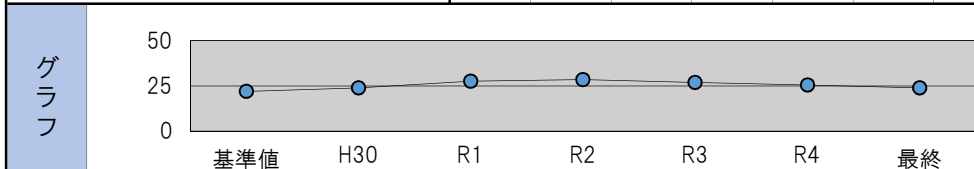
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① 認知症サポーター養成講座の累積受講者数(人)	↗	16,585	23,011	26,484	30,450	31,415	32,932	35,057	36,000	B+	
② 地域の高齢者が出かけたいような通いの場の箇所数(か所)	↗	70	151	199	203	261	299	311	380	B+	
③ 65歳以上で介護サービスを利用している人の割合(%)	↘	12.9	14.1	14.4	14.9	15.0	15.4	15.8	17.0	A	



評価結果  
**B**  
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
高齢者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	21.9	23.9	27.5	28.4	26.8	25.4	23.9	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると予測されている。認知症の人が希望を持って暮らせるように令和5年6月「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が制定された。  
・高齢化が進み、介護サービスを利用している人の割合が微増しているため、介護予防の重要性が高まっている。

5. 施策評価  
**Bb**

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことにより認知症サポーター養成講座の申し込みが増加し、前年度現状値から2,125人増加しており、目標値を概ね達成している。
	②	通いの場事業の周知及び地域の通いの場の発掘を推進し、前年度現状値から12か所増加しており、目標値に向けて概ね良好に推移している。
	③	介護予防事業の充実により、前年度現状値から0.4ポイント上昇(悪化)に留めており、目標値以下の維持に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス				
A ↑ 成果指標 ↓ D				
			<b>Bb</b> 前回・今回	
		d ←	体感指標	→ a
		成果指標と体感指標の乖離なし		

## 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
住み慣れた地域で安心して暮らすための仕組みづくり	地域福祉計画策定事業	福祉総務課	○	★★★★	★★★★
	在宅医療・介護連携推進事業	高年福祉課	○	★★	★★
	認知症初期集中支援推進事業	高年福祉課	○	★★★★	★★★★
	認知症地域支援推進員設置事業	高年福祉課	○	★★★★	★★★★
	認知症サポーター養成講座事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	家族介護用品給付事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	地域包括支援センター事業	高年福祉課	○	★★	★★
	成年後見制度利用支援事業	高年福祉課	○	★★	★★
	緊急連絡通報システム設置事業	高年福祉課	○	★★	★★
	配食サービス事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	ねたきり高齢者等見舞金支給事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	養護老人ホーム・生活支援ハウス事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	軽費老人ホーム利用料補助事業	高年福祉課	○	★★	★★
	高齢者福祉タクシー料金助成事業	高年福祉課	○	★	-
	認知症高齢者個人賠償責任保険事業	高年福祉課	○	★	-
高齢期をいきいきと過ごすための介護予防と生きがいづくり	あんしん介護予防事業	高年福祉課	○	★★	★★★★
	生活支援体制整備事業	高年福祉課	○	★★	★★★★
	就労支援・就労の場の確保事業	高年福祉課	○	★★	★★
	いきいきセンター事業	高年福祉課	○	★★★★	★★★★
	老人クラブ補助事業	高年福祉課	○	★★	★★
	シルバー入浴助成事業	高年福祉課	要検討	★	★★
	敬老事業	高年福祉課	○	★★	★
介護ニーズに対応するための介護保険事業の充実と適正化	適切な認定調査実施体制の確保事業	介護保険課	○	★★	★★
	介護基盤整備事業	介護保険課	○	★★	-
	介護サービス事業者との連携事業	介護保険課	○	★★	-
	介護給付費適正化事業	介護保険課	○	★★★★	★★
	低所得者に対する市独自減免事業	介護保険課	○	★★★★	★★

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容
シルバー入浴助成事業	令和4年9月をもって事業を廃止。

## 9. 市民の意見

## 10. 今後の方向性・改善計画

新型コロナウイルスの影響で地域住民を対象とした事業や活動が制限されていたが、現状では目標値に向けて概ね良好に推移していることから、現行事業を継続しつつ社会情勢に対応して内容を検討していく。

### 主担当部・課

福祉部 高年福祉課

### 関係課

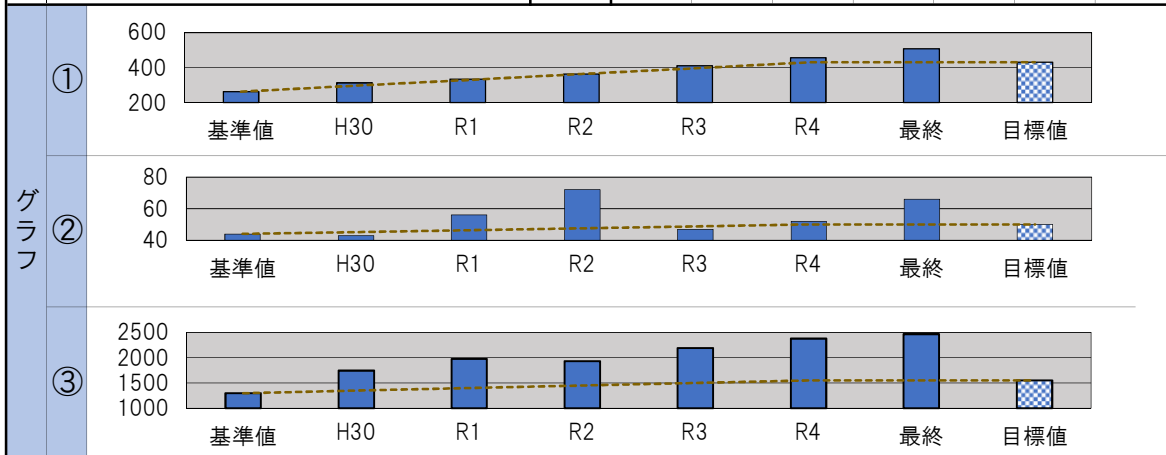
福祉総務課、介護保険課

Plan 1 健やかにいきる

施策5 障害者福祉の充実を図ります

1. 成果指標による評価

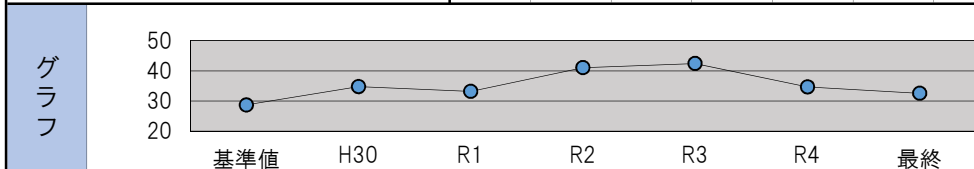
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① グループホームで生活している障害者の人数(人)	↗	262	313	334	364	411	455	508	430	A	
② 民間企業等へ就職した障害者の人数(人)	↗	44	43	56	72	47	52	66	50	A	
③ 療育支援を受けている障害児の人数(人)	↗	1,296	1,741	1,979	1,930	2,191	2,375	2,466	1,550	A	



評価結果  
**A**  
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
障害者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	28.7	34.8	33.2	41.1	42.4	34.7	32.6	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・施設入所者および長期入院者等の地域移行が推進されており、その受け皿としてグループホームは必要な社会資源となっている。
- ・事業主に対して法定雇用率が平成30年度から引き上げられており、障害者雇用が推進されている。

5. 施策評価

**Ab**

4. 指標の分析

①	グループホームが増えているため、前年度現状値から53人増加しており、目標値を達成している。
②	法定雇用率が引き上げられたため、前年度現状値から14人増加しており、目標値を達成している。
③	放課後等デイサービス事業所等の社会資源が増えているため、前年度現状値から91人増加しており、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
	Ab 前回・今回
A ↑ 成果指標	
D ↓ 成果指標	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離なし	



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
差別の解消および権利擁護の推進	障害者虐待防止センター事業	福祉総合相談室	○	★★	★★★★
	成年後見制度利用支援事業	福祉総合相談室	○	★	★
	啓発事業	障害福祉課	○	★★	-
	成年後見制度利用支援事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
地域生活支援の充実	障害者医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	★★
	地域福祉計画策定事業	福祉総務課	○	★★★★	★★★★
	相談支援事業	福祉総合相談室	○	★	★
	計画相談支援事業	障害福祉課	○	★★	★
	共同生活援助(グループホーム)事業	障害福祉課	○	★★	★
	施設入所支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	共同生活援助支援事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	いずみ福祉園等指定管理事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	日常生活用具給付事業	障害福祉課	○	★★	★★
	補装具費給付事業	障害福祉課	○	★★	★★
	移動入浴委託事業	障害福祉課	○	★★	★★
	配食サービス事業	障害福祉課	○	★★	★★
	重度訪問介護事業	障害福祉課	○	★★	★
	居宅介護事業	障害福祉課	○	★★	★★
	同行援護事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	行動援護事業	障害福祉課	○	★★	★
	移動支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	福祉タクシー料金助成事業	障害福祉課	○	★★	★★
	短期入所事業	障害福祉課	○	★★	★
	日中一時支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	社会福祉施設等施設整備費補助事業	障害福祉課	○	★★	★★
	生活介護事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	自立訓練事業(生活訓練)	障害福祉課	○	★★★★	★
	療養介護事業	障害福祉課	○	★★	★★
	地域活動支援センター事業	障害福祉課	○	★★	★★★★
	障害者手当給付事業	障害福祉課	○	★★	★★
	障害者自立支援医療(更生医療)給付事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	高額障害福祉サービス費等給付事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	障害者通所交通費給付事業	障害福祉課	要検討	★★	★★
	民間社会福祉施設運営費補助事業	障害福祉課	○	★★	★
重度障害者受入れ補助事業	障害福祉課	○	★★	-	
雇用・就労の推進	就労移行支援事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	就労継続支援事業	障害福祉課	○	★★	★
	就労定着支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
療育・保育環境の充実	児童発達支援センター機能強化事業	福祉総合相談室	○	★★★★	-
	障害児相談支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	児童発達支援事業	障害福祉課	○	★★	★
	放課後等デイサービス事業	障害福祉課	○	★★	★
	保育所等訪問支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★★★
	児童発達支援センター事業	いずみ学園	○	★★	★★
	心身障害児親子通園事業(すぎの子教室・たけのこ園)	いずみ学園	○	★★	★
心身障害児親子通園事業(チューリップ教室・はとぼっぼ)	いずみ学園	○	★	★★★★	

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容
障害者通所交通費給付事業	令和4年度をもって事業を廃止。

## 9. 市民の意見

## 10. 今後の方向性・改善計画

障害者の民間企業等へ就業については、より多くの方が就業いただけるように雇用・就労の推進施策を推進する。また、グループホームや放課後等デイサービス等の地域生活支援あるいは療育環境の充実の項目については、特に強度の行動障害を持つ方、重度の障害を持つ方、医療的ケアが必要な障害児・者に係る施策の充実に向けて、引続き事業を推進する。

### 主担当部・課

福祉部 障害福祉課

### 関係課

保険年金課、福祉総務課、福祉総合相談室、保育課、いずみ学園

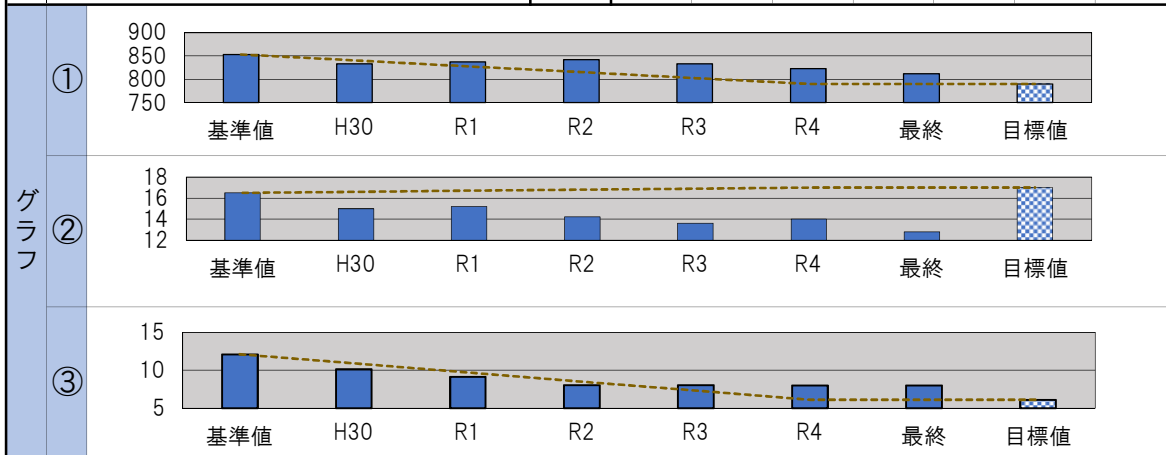


Plan 2 快適にくらす

施策6 ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します

1. 成果指標による評価

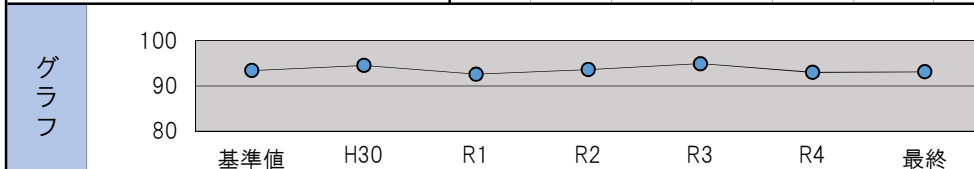
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値						目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 市民一人あたり一日分のごみの排出量 (g)	↘	853	833	837	842	833	823	812	790	B-
② ごみのリサイクル率 (%)	↗	16.5	15.0	15.2	14.2	13.6	14.0	12.8	17.0	D
③ 最終処分場の利用可能残余年数 (年月)	↗	12.11	10.11	9.11	8.04	8.02	8.00	8.01	6.11	A



評価結果  
**B**  
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
リサイクルや分別など、ごみを適正に排出していると思う人の割合	93.4	94.5	92.6	93.6	94.9	93.0	93.1	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 環境破壊による地球温暖化や資源枯渇、資材高騰、国際情勢の影響からの資源物循環体制の悪化が話題となり、資源に対する関心は高くなっている。
- ・ 国では、資源の効率的な利用やリサイクルを進めることで環境への負荷が少ない「循環型社会」を形成することを目指している。
- ・ 家庭では、ごみと資源の分別に対する意識が定着しリサイクルの重要性が認知されており、また企業による包装・梱包容器の減量化や民間によるリサイクル活動が盛んになっている。

5. 施策評価  
**Bb**

4. 指標の分析

成果指標	①	ごみと資源の排出量は前年度現状値から11g減少(改善)しているものの、目標値から乖離している。
	②	民間事業者による回収の実施・回収ボックスの設置により回収量が減少したため、前年度現状値から1.2ポイント低下しており目標値から大きく乖離している。
	③	効果的なごみ処理と資源化を進めるとともに、焼却残渣を民間最終処分場等に搬入することにより、前年度現状値から1月増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス				
A ↑ 成果指標 ↓ D				
			<b>Bb</b> 今回	
			<b>Cb</b> 前回	
		d ← 体感指標 → a		
		成果指標と体感指標の乖離なし		

## 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
ごみの排出マナー・減量意識の向上	ごみ減量啓発事業	廃棄物対策課	○	★★★★	★
	ごみ減量モニター事業	廃棄物対策課	○	★★	★★
	産業廃棄物適正処理推進事業	廃棄物対策課	○	★	★★★★
ごみの適正かつ効率的な処理	可燃ごみ収集事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	不燃ごみ収集事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	粗大ごみ収集事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	ごみボックス設置補助事業	収集業務課	○	★★★★	-
	焼却施設運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	リサイクルセンター運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	最終処分場運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	最終処分場延命化事業	施設管理課	○	★★	★★
資源のリサイクルの推進	資源回収事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	空き缶・金属類リサイクル事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	プラスチック製容器包装リサイクル事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	ペットボトルリサイクル事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	小型家電リサイクル事業	収集業務課	○	★★	-

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

## 9. 市民の意見

## 10. 今後の方向性・改善計画

昨年度は、冊子「資源とごみの分け方・出し方辞典」を8年ぶりに改訂を実施し全戸配付するとともに、ごみ分別アプリを「さんあ〜る」にリニューアルを行いスマートスピーカーに対応させた。またYouTube「プラスチックごみの分別」の配信も実施することで、資源とごみの分別等の啓発活動を進めた。今後はリユース（再利用）促進サイト「おいくら」の活用のほか、フェイスブック「ピンちゃん・カンちゃん」、市広報への掲載等も引き続き行い、ごみの減量・リサイクル率の向上につなげていきたい。また、最終処分場の利用可能残余年数については、目標値に向けて良好に推移しているため、今後も現在のごみ処理等を継続していきたい。

主担当部・課
環境部 廃棄物対策課

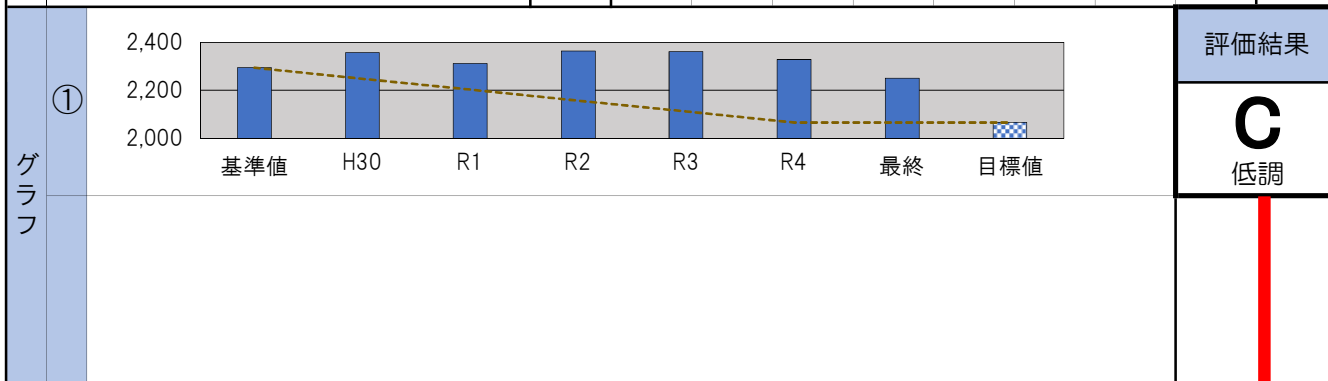
関係課
収集業務課、施設管理課

Plan 2 快適にくらす

施策7 地球温暖化防止に取り組みます

1. 成果指標による評価

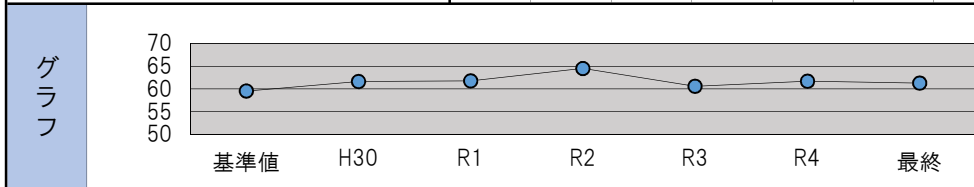
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① 温室効果ガス排出量(二酸化炭素換算)(千t)	↓	2,294	2,357	2,312	2,365	2,362	2,329	2,251	2,066	C-	



評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値							評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終		
地球温暖化防止に配慮した生活をしていると思う人の割合	59.5	61.6	61.8	64.5	60.6	61.7	61.3	<b>b</b> 概ね良好	



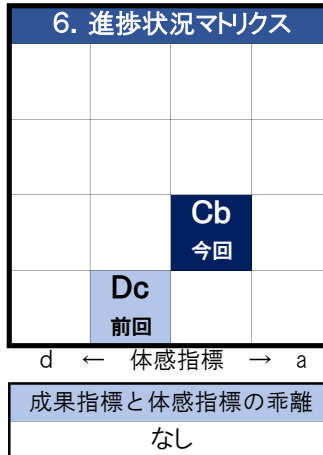
3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・日本は、パリ協定に定める目標(世界全体の気温上昇を2℃より十分下回るよう、更に1.5℃までに制限する努力を継続)等を踏まえ、2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言した。  
 ・政府は、2021年10月に「第6次エネルギー基本計画」を閣議決定し、2030年度の再生可能エネルギーの割合を36~38%(従来計画22~24%)に大きく引き上げ、再エネの主力電源化を進める方針を示した。  
 ・地域では、2050年カーボンニュートラルを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明する自治体が増加している。また、企業では、ESG金融の発展に伴い、気候変動に関する情報開示や目標設定など「脱炭素経営」に取り組む企業が増加し、サプライチェーンを通じて、地域の企業にも波及している。

5. 施策評価  
**Cb**

4. 指標の分析

成果指標	① 産業部門、民生家庭部門、民生業務部門、廃棄物部門、農業部門において温室効果ガス排出量が減少したため、前年度現状値から78千t減少(改善)しているものの、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
低炭素なまちづくりおよびスマートシティの推進	温室効果ガス排出量の削減事業	環境政策課	○	★★	★★★★
	地球温暖化対策設備導入促進補助事業	環境政策課	○	★★	★
	一宮市地域新電力会社設立事業	環境政策課	○	★★	-
	公共施設等再生可能エネルギー設備導入調査事業	環境政策課	○	★★★★	-
	公共交通利用促進事業	地域交通課	○	★★	★
	道路照明灯LED化事業	地域交通課	○	★★★★	-
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★
	民有地緑化推進補助事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	公園照明灯LED化事業	公園緑地課	○	★★★★	-
地球にやさしいライフスタイルの選択	環境学習事業	環境政策課	○	★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見											
	<table border="1"> <tr> <th>評価結果</th> <th>割合</th> <th>評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等</th> </tr> <tr> <td>○ 十分である</td> <td>11.1%</td> <td rowspan="3">           ・補助政策が市民に浸透していない。            ・市としての取り組みの見える化が欲しい。            ・市民が自ら情報をつかむ努力をする。            ・選挙で環境政策を重視した人を選ぶ。         </td> </tr> <tr> <td>△ どちらともいえない</td> <td>38.9%</td> </tr> <tr> <td>× 不十分である</td> <td>50.0%</td> </tr> </table>	評価結果	割合	評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等	○ 十分である	11.1%	・補助政策が市民に浸透していない。 ・市としての取り組みの見える化が欲しい。 ・市民が自ら情報をつかむ努力をする。 ・選挙で環境政策を重視した人を選ぶ。	△ どちらともいえない	38.9%	× 不十分である	50.0%
	評価結果	割合	評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等								
	○ 十分である	11.1%	・補助政策が市民に浸透していない。 ・市としての取り組みの見える化が欲しい。 ・市民が自ら情報をつかむ努力をする。 ・選挙で環境政策を重視した人を選ぶ。								
△ どちらともいえない	38.9%										
× 不十分である	50.0%										

10. 今後の方向性・改善計画

地域新電力会社の設立や公共施設等のLED化など市が自ら行う取組は着実に進めているが、その取組が市民になかなか見えていない。省エネルギーや再生可能エネルギーの導入に対する啓発に力を入れ、補助金の活用を促すとともに、緑のカーテンの育成や省エネ家電の購入など、省エネ活動をはじめ脱炭素につながる活動のきっかけとなる啓発活動を実施する。

令和5年2月にいちのみやゼロカーボンシティ宣言を行った本市の脱炭素化をさらに加速するため、公共施設への再生可能エネルギーの導入を進めるとともに、「いちのみや気候変動対策アクションプラン2030」を改訂して新たな削減目標に向け、民生家庭部門、運輸部門を中心に脱炭素社会の実現に向けた行動様式の変容を促す取り組みの推進を図る。

主担当部・課
環境部 環境政策課

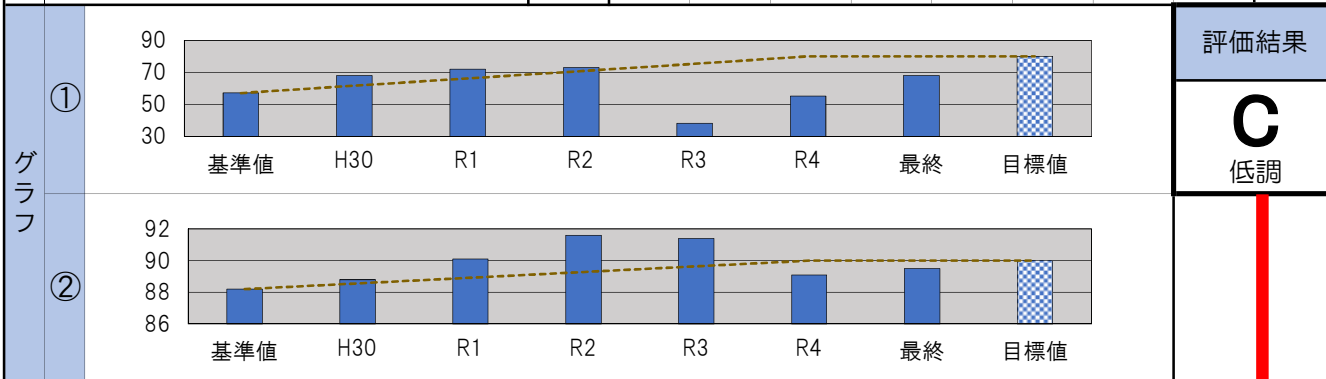
関係課
地域交通課、公園緑地課

Plan 2 快適にくらす

施策8 環境教育を推進します

1. 成果指標による評価

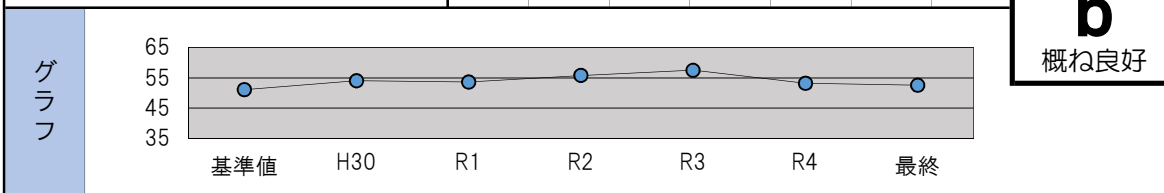
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 環境に関する講座などの開催回数(回)	↗	57	68	72	73	38	55	68	80	C+
② エコスクール運動参加者の環境意識向上度(%)	↗	88.2	88.8	90.1	91.6	91.4	89.1	89.5	90.0	B-



評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
環境に対して責任や役割を意識している人の割合	51.1	54.0	53.6	55.8	57.5	53.2	52.5	<b>b</b> 概ね良好

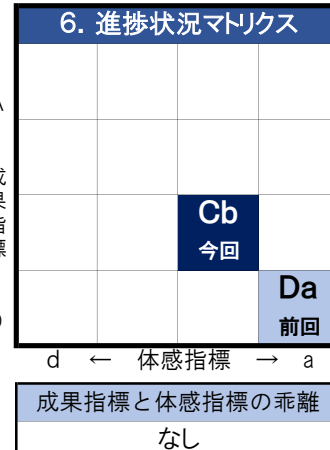


3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・世代ごとに特色を持たせた環境学習等の拡充および連携・協働の推進が求められている。
- ・発達段階に応じた教育や学習機会を提供し、脱炭素社会への理解を深める必要がある。
- ・指導者や専門的な技術、知識を持つ人材を育成する必要がある。

4. 指標の分析

成果指標	① 環境学習講座や幼児環境教育の開催回数が前年度現状値から13回増加し、新型コロナウイルス感染症の影響拡大以前の状態まで回復しつつあるものの、目標値からは乖離している。
	② 前年度現状値から0.4ポイント上昇した。新型コロナウイルス感染症の影響拡大以前の状態まで回復しつつあり、目標値を概ね達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。



5. 施策評価  
**Cb**



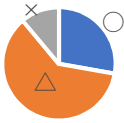
7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
環境学習の機会の提供	環境学習事業	環境政策課	○	★	★★
	エコハウス138環境学習事業	施設管理課	○	★	★
環境意識の向上	環境情報発信啓発事業	環境政策課	○	★★	-
次世代リーダーの育成	エコスクール運動推進事業	廃棄物対策課	○	★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

	評価結果	評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	十分である 27.8%
△	どちらともいえない 61.1%	
×	不十分である 11.1%	

10. 今後の方向性・改善計画

幼児、学校、それぞれの段階に応じた環境教育を推進し、次世代リーダーの育成を進める。直接体験の機会の確保とともに、デジタルを含めた情報発信を充実することで、環境活動への取り組みを促す対象の拡大を図り、連携と協働の基盤づくりを進める。

主担当部・課
環境部 環境政策課

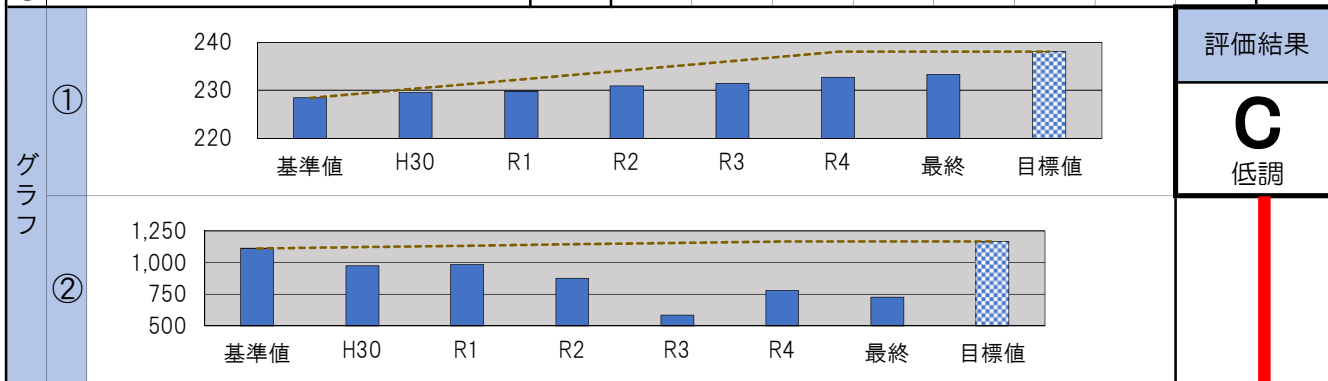
関係課
廃棄物対策課、施設管理課

Plan 2 快適にくらす

施策9 水と緑を活かしたまちをつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 都市公園面積 (ha)	↗	228.40	229.49	229.84	230.94	231.46	232.70	233.34	238.04	B-
② 水辺空間を活用したイベントの参加者数および施設の利用者数 (千人)	↗	1,112	976	985	877	584	781	726	1,167	D

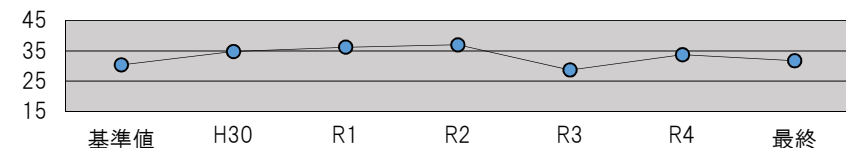


評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人の割合	30.3	34.7	36.2	37.0	28.7	33.7	31.7	<b>b</b> 概ね良好

グラフ



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

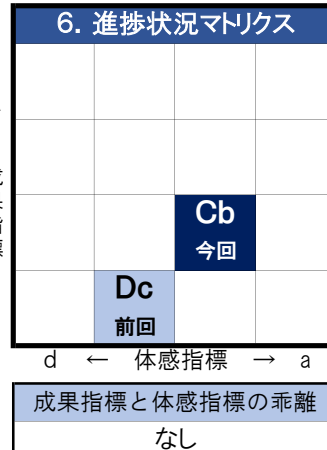
・愛知県が策定した広域緑地計画において、公園整備については、量だけではなく「緑の質を高めていくことが求められています」と記載されている。  
・新型コロナウイルス感染症による社会に及ぼす影響は、回復基調にあるものの、イベント参加者数は以前の数まで戻っていない。

5. 施策評価

**Cb**

4. 指標の分析

成果指標	① 青木川河川敷公園、大江川緑道等の整備が進み、前年度現状値から0.64ha増加しているが、目標値には達していない。
成果指標	② 新型コロナウイルス感染症の影響や公園という屋外施設であることから天候にも左右され、前年度現状値から55千人減少しており、目標値から大きく乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。



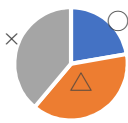
## 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
水と緑のオープンスペースの整備推進と利活用	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★
	木曽川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★★	-
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★	-
	ツインアーチ138維持管理事業	公園緑地課	○	★★★★	★
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★	★★
	県営農業農村整備事業(遊歩道)	治水課	○	★★★★	★★
民有地の緑化推進	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	入学記念樹配付事業	公園緑地課	○	★★	★
	民有地緑化推進補助事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
潤いのある美しい緑地の保全と緑化の推進	都市公園・街路樹維持管理事業	公園緑地課	○	★	★
	市民参加による公園管理事業	公園緑地課	○	★★	★★
	市民ボランティアによる公園花壇管理事業	公園緑地課	○	★★	★★
	花いっぱい運動事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	ホテルも生息できる環境創出事業	公園緑地課	○	★★	★
	県営農業農村整備事業(農業用水管)	治水課	○	★★	★
	農業農村多面的機能支払補助事業	治水課	○	★★★★	★★
	北方地区基盤整備事業	治水課	○	★★★★	★
	単独土地改良事業	治水課	○	★★★★	★★

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

## 9. 市民の意見

	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	十分である	
	△	どちらともいえない	・木曽三川公園のあたりでは緑が多いが、家の周りではあまり見られない。 ・水辺のイベントが少ない。 ・雑草を取って花を植える。 ・イベント・施設を利用する。
	×	不十分である	

## 10. 今後の方向性・改善計画

引き続き、青木川河川敷公園を始めとした都市公園等の整備を推進しつつ、水と緑に親しめるように富田山公園の再整備を進める。  
 また、公園利用を促進させるために、水辺空間を活用したミズベリング138事業等を民間主催のイベントも含め、SNS等を活用して、市民へのPRを行う。

### 主担当部・課

まちづくり部 公園緑地課

### 関係課

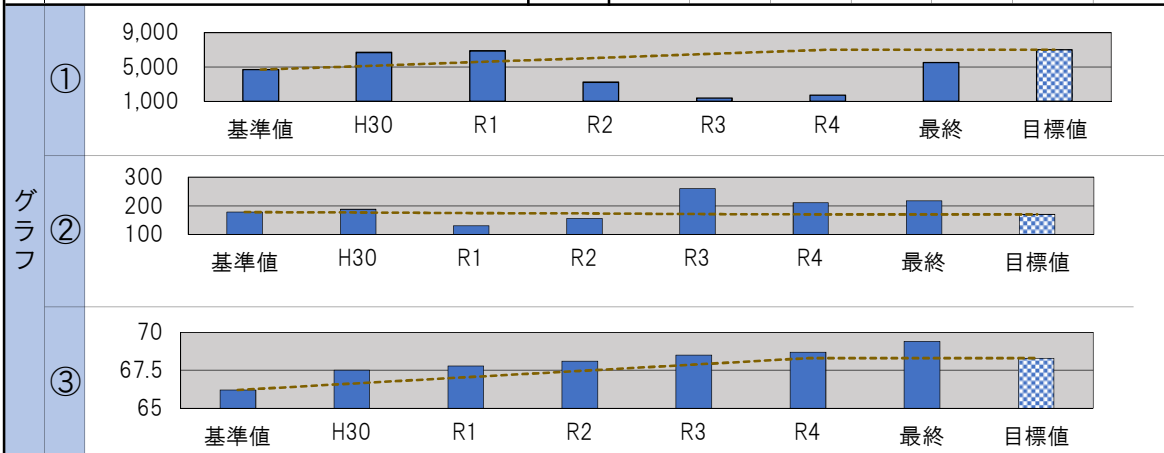
治水課

Plan 2 快適にくらす

施策10 良好な生活環境を確保します

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数(人)	↗	4,687	6,693	6,869	3,217	1,371	1,709	5,519	7,000	C+	
② 典型7公害の苦情件数(件)	↘	178	188	130	156	259	211	218	170	D	
③ 下水道普及率(%)	↗	66.2	67.5	67.8	68.1	68.5	68.7	69.4	68.3	A	

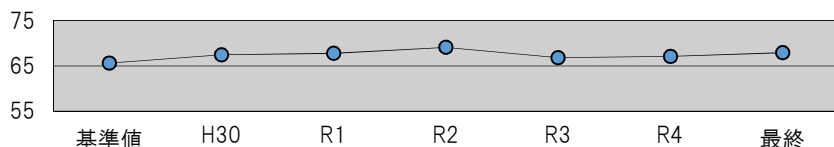


評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
生活環境が良好であると思う人の割合	65.6	67.4	67.8	69.1	66.8	67.1	67.9	<b>b</b> 概ね良好

グラフ



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ コロナ禍における外出自粛等の行動制限が緩和され、様々な社会活動の再開がみられる。
- ・ 通学路や生活道路周辺の清掃活動が地域のボランティアにより定期的に実施されるなど、環境美化に関する市民の意識が高まっている。
- ・ 騒音や悪臭の感じ方は、個々の感覚によるところが大きいため、案件によっては、規制基準内のレベルのものでも苦情として寄せられる。

5. 施策評価

**Cb**

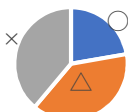
4. 指標の分析

成果指標	①	コロナ禍における外出自粛等の行動制限が緩和され、前年度現状値から3810人増加しているものの、目標値から乖離している。
	②	テレワークやオンライン会議など勤務形態の多様化や社会活動の回復に伴い、依然として生活環境等の苦情が多数寄せられているため、前年度現状値から7件増加(悪化)しており、目標値から大きく乖離している。
	③	汚水管の整備が進捗したため、前年度現状値から0.7ポイント上昇しており、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	
D	<b>Cb</b> 前回・今回
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
良好な生活環境づくり	生活衛生・葉事事業	保健予防課	○	★★★★	★
	食品衛生事業	保健衛生課	○	★★★	★★
	動物愛護事業	保健衛生課	○	★★★★	★★
	空き缶等ごみ散乱防止事業	環境政策課	○	★★	-
	路上喫煙防止事業	環境政策課	○	★★★★	★★★★
	環境調査・監視推進事業	環境保全課	○	★★★★	★
	公害苦情相談事業	環境保全課	○	★★★★	★★
	キノガワフユスリカ対策事業	環境保全課	○	★★★★	★★
	道路維持・修繕事業	維持課	○	★★★★	-
	水路維持・修繕事業	維持課	○	★★★★	-
	生活関連治水事業	治水課	○	★★	★
	土地改良施設維持管理適正化事業	治水課	○	★★★★	-
公共下水道事業などの推進	合併処理浄化槽設置補助事業	廃棄物対策課	○	★★	★★
	公共下水道整備事業	下水道整備課	○	★★	★
	公共下水道への切り替え促進事業	給排水設備課	○	★★	★
有害鳥獣等駆除の充実	不快害虫発生抑制事業	環境保全課	○	★★★★	★★
	有害鳥獣駆除事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見		
	評価結果	評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	十分である 22.2%
△	どちらともいえない 38.9%	・カラス対策のためごみ出しを気をつける。
×	不十分である 38.9%	・町内会などの清掃活動に参加する。

**10. 今後の方向性・改善計画**

コロナ禍による外出自粛要請などの行動制限がなくなったことにより、清掃活動の再開が予想されるため、広報等の媒体を活用して、清掃活動ボランティアの支援やポイ捨てごみを減らす啓発活動を進める。

計画どおり污水管の整備を進める。

下水処理区域以外の地域における公共用水域の水質改善のため、合併処理浄化槽設置を推進する。

引き続き水質汚濁や悪臭の原因となる淀みを解消できるよう用排水路等の改修工事や側溝・水路内の堆積物の除去を進めていく。

**主担当部・課**

環境部 環境保全課

**関係課**

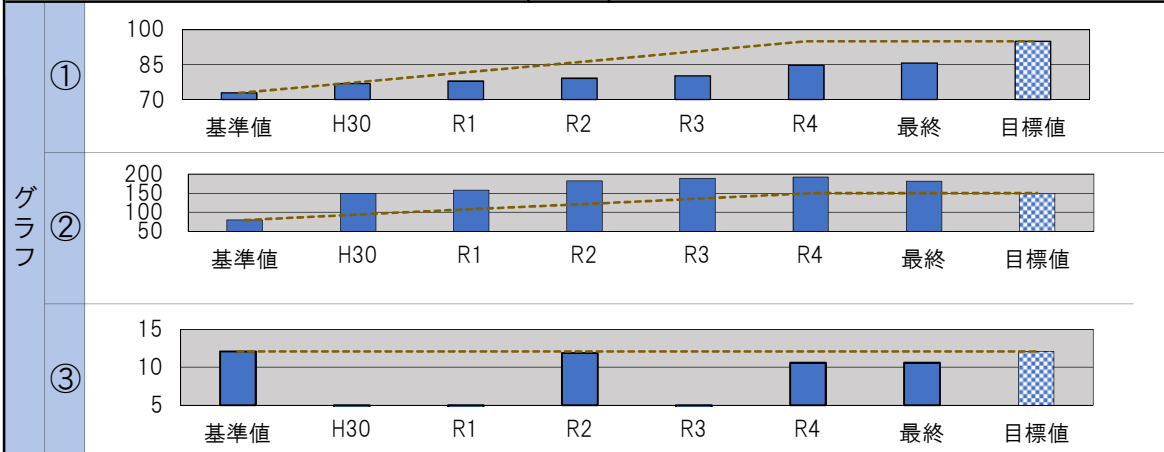
保健予防課、保健衛生課、環境政策課、廃棄物対策課、農業振興課、維持課、治水課、下水道整備課、給排水設備課

Plan 2 快適にくらす

施策11 総合的な住宅対策に取り組みます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値						目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 住宅の耐震化率 (%)	↗	72.8	76.8	77.9	79.1	80.2	84.7	85.6	95.0	B-
② 木造住宅解体工事費の補助件数 (件)	↗	80	150	158	182	189	192	181	150	A
③ 空き家率 (%)	→	12.1	-	-	11.9	-	10.6	10.6	12.1	A

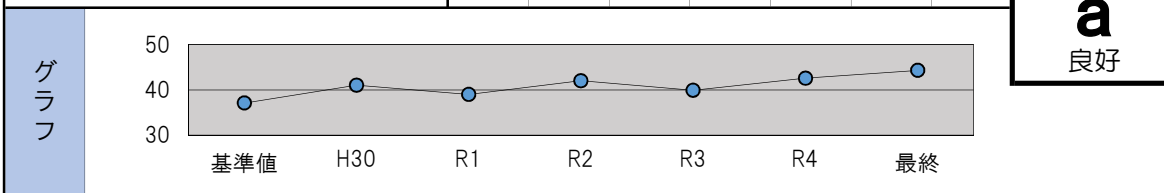


評価結果

**A**  
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
住宅が耐震や老朽化の観点から安心であると思う人の割合	37.1	41.0	39.0	42.0	39.9	42.6	44.3	<b>a</b> 良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・大規模地震の危険性が高い地域となっており、建物倒壊による被害や経済被害等を減少させるために、建物の耐震化が重要な課題である。また各地で地震が起こっており地震に対する意識が高まっている。  
 ・コロナ禍が落ち着いたことで、耐震改修工事等にも影響を及ぼしている。  
 ・全国的には空き家の増加が問題となっているが、一宮市では空き家等が増えていない現状である。

4. 指標の分析

成果指標	①	旧耐震の民間木造住宅解体補助の他、耐震改修など各種補助事業により、前年度現状値から0.9ポイント上昇しており、目標値を概ね達成している。
	②	前年度現状値から11件低下しているものの、広報への掲載、町内回覧等による周知により目標値を達成している。
	③	老朽空き家解体補助等の対策事業により、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		継続した各種補助事業等の実施により、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ1.7ポイント、7.2ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

			<b>Aa</b> 前回・今回
A ↑成果指標↓			
	d ← 体感指標 → a	成果指標と体感指標の乖離なし	

5. 施策評価

**Aa**

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果						
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果			
			必要性	有効性	効率性	
安全・安心に住み続けることのできる住まいづくり	公営住宅整備事業	住宅政策課	○	★★★★	-	
	民間木造住宅解体補助事業	住宅政策課	○	★★	★★	
	民間木造住宅耐震診断事業	住宅政策課	○	★★	★★	
	民間木造住宅耐震改修補助事業	住宅政策課	○	★★	★★	
	要安全確認計画記載建築物耐震改修等補助事業	住宅政策課	○	★★★★	-	
空き家等利活用の推進	空き家等対策事業	住宅政策課	○	★★	★★	
	相続登記啓発事業	住宅政策課	○	★	-	
良好な居住環境の創出	コンパクトなまちづくり推進事業	都市計画課	○	★★	-	
	土地区画整理事業	区画整理課	○	★★★★	★★	
	外崎地内橋梁整備事業	区画整理課	○	★	-	

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

10. 今後の方向性・改善計画
<p>成果指標では概ね良好に推移しており、引き続き住宅の耐震化の促進を図る。空き家に関しては、所有者や相続人に対して管理不全の空き家にならないよう適切な維持管理に努めていただくと共に、相続登記を促し、周辺に影響を及ぼす危険性の高い空き家の改善を推進していく。</p>

主担当部・課
<p>建築部 住宅政策課</p>

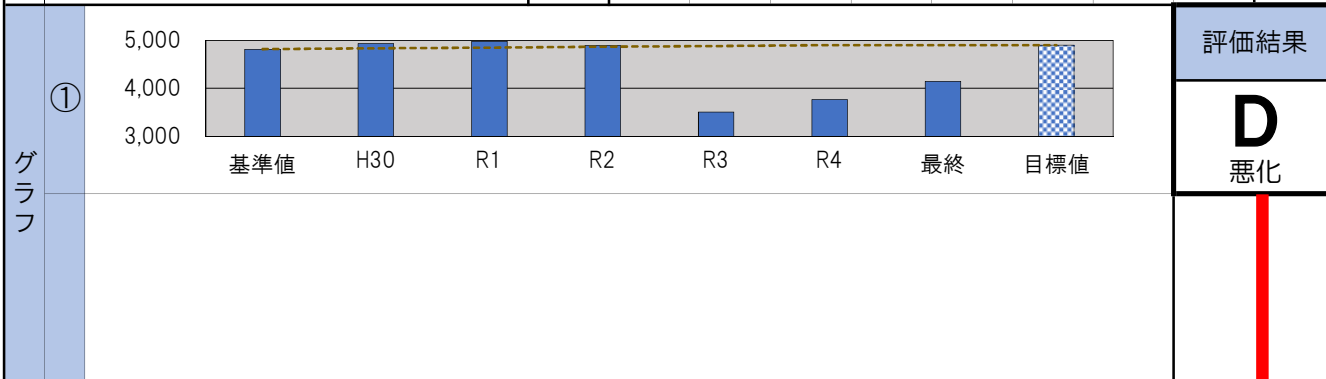
関係課
<p>都市計画課、区画整理課</p>

Plan 2 快適にくらす

施策12 公共交通網の整備を進めます

1. 成果指標による評価

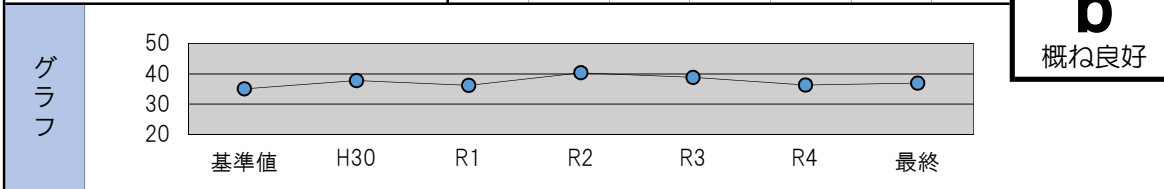
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 市内バスの年間利用者数(千人)	↗	4,816	4,930	4,979	4,893	3,505	3,767	4,148	4,900	D



評価結果  
**D**  
悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
市内の公共交通網が充実していると思う人の割合	35.0	37.8	36.2	40.3	38.8	36.3	36.9	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・新型コロナウイルス感染症による外出の自粛や通勤方法の変更等、公共交通機関の利用を控える傾向が続いている。
- ・免許返納者や自転車運転が困難な高齢者の増加等により、公共交通の必要性は高まっている。
- ・事業者はドライバーの確保が難しく安定した事業継続の見込みがつかなくなっている。更には燃料費高騰に起因した財政の逼迫も重なり、事業規模の縮小が予測される。

5. 施策評価  
**Db**

4. 指標の分析

成果指標	① ウィズコロナに対応した環境整備及び住民の外出への認識の変化に伴い、前年度現状値から381千人増加している。利用者は回復傾向にあるが、目標値には達していない。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A ↑ 成果指標 ↓	
D	
	<b>Db</b> 前回・今回
d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離なし	



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
体系的な公共交通の整備	一宮市地域公共交通会議開催事業	地域交通課	○	★★	★★★★
	i-バス運行事業	地域交通課	○	★★	★
	バス路線維持対策事業	地域交通課	○	★★	★★★★
公共交通の利用促進	i-バス運行事業	地域交通課	○	★★	★
	バス路線維持対策事業	地域交通課	○	★★	★★★★
	公共交通利用促進事業	地域交通課	○	★★	★
公共交通を支える仕組みの確立	地域ワークショップ開催事業	地域交通課	○	★★★★	-
	第3次一宮市公共交通計画策定事業	地域交通課	○	★★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見		
	評価結果	評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	十分である
△	どちらともいえない	50.0%
×	不十分である	27.8%

10. 今後の方向性・改善計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民や来訪者にわかりやすい情報提供を積極的に行い、現状の公共交通網の利便性の周知を継続し、公共交通機関の利用促進を継続して行う。</li> <li>地域の移動ニーズや交通弱者が抱える問題を分析し、公共交通網の見直しや公共交通機関を利用しやすい環境整備等、外出の機会を増やす取組みを計画的に行う。</li> </ul>

主担当部・課
まちづくり部 地域交通課

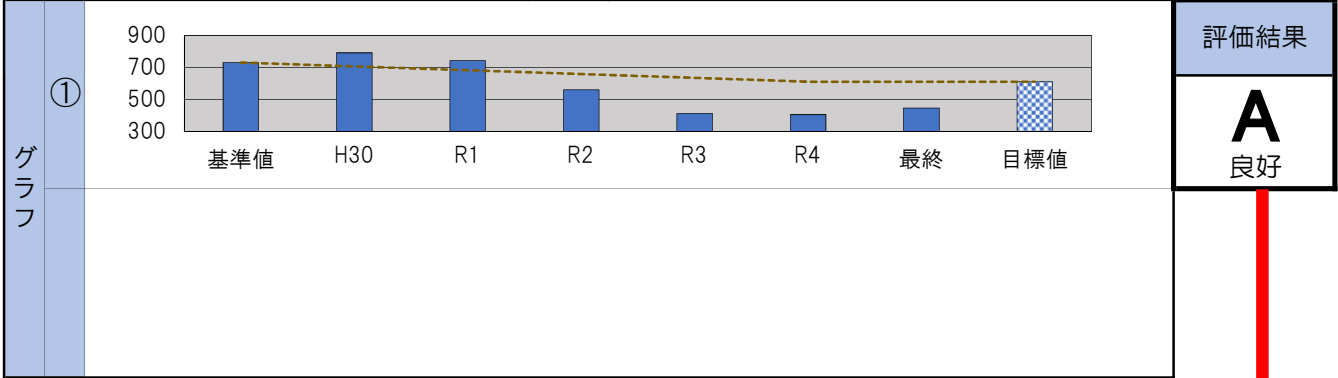
関係課
—

Plan 2 快適にくらす

施策13 歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します

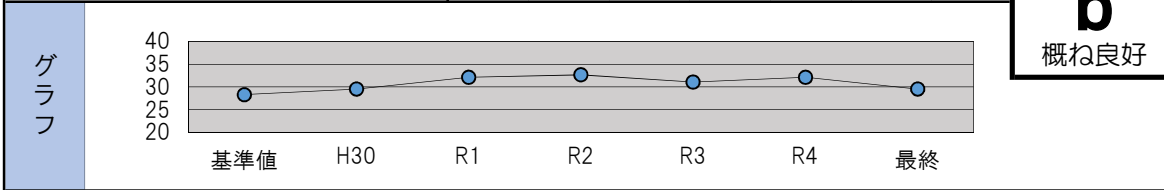
1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 歩行者・自転車関連の交通事故件数(件)	↓	730	790	742	558	412	404	445	610	A



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
歩行者や自転車が、安心して通行できていると思う人の割合	28.3	29.5	32.1	32.7	31.1	32.1	29.5	b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・自転車は、日常生活における身近な移動手段やサイクリング等のレジャー手段として多くの人に利用されている。  
 ・近年では、健康や環境への意識の高まりを背景に自転車のニーズが高まっている。一方で交通事故が減少傾向にあるなか、自転車対歩行者の交通事故は横ばいの状況であり、自転車の通行ルールの徹底を図るため、道路交通法の改正により、自転車の歩道通行可能要件の明確化やヘルメット着用の努力義務化、自転車運転による危険防止のための講習に関する規定等が整備された。  
 ・また、自転車による交通事故の減少と、自転車事故による被害者の保護等を目的として、各地の自治体で自転車条例の制定が増えつつある。  
 ・児童や園児の痛ましい交通事故が相次いでおり、歩行者が安全に安心して通行できる道路交通環境の整備が求められている。

4. 指標の分析

成果指標	① 当初計画通り事業進捗が図れたため、前年度現状値から41件増加(悪化)しているものの、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回・今回	
A ↑ 成果指標 ↓ D			
		d ← 体感指標 → a	
		成果指標と体感指標の乖離なし	

5. 施策評価

**Ab**

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
人優先の安全で安心な歩行空間の整備	放置自転車対策事業	地域交通課	○	★★	★★
	通学路安全対策事業	地域交通課	○	★★★★	★★
	横断歩道橋保全事業	維持課	○	★★★★	★★★★
	歩道拡幅事業(西御堂線)	道路課	○	-	-
	通学路安全対策事業	学校教育課	○	★★	-
安全で快適な自転車利用環境の整備	駐輪場管理事業	地域交通課	○	★★★★	★★
	自転車通行空間整備事業	地域交通課	○	★★★★	★
危険箇所の減少	交通安全施設整備事業	地域交通課	○	★★★★	★★
	不法占用物撤去事業	道水路管理課	○	★★★★	-
	緊急輸送道路無電柱化事業	道路課	○	★★★★	★
	フェンス設置事業	治水課	○	★★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

10. 今後の方向性・改善計画
引き続き警察・関係機関と連携を図り、各事業を推進する。

主担当部・課
建設部 道路課

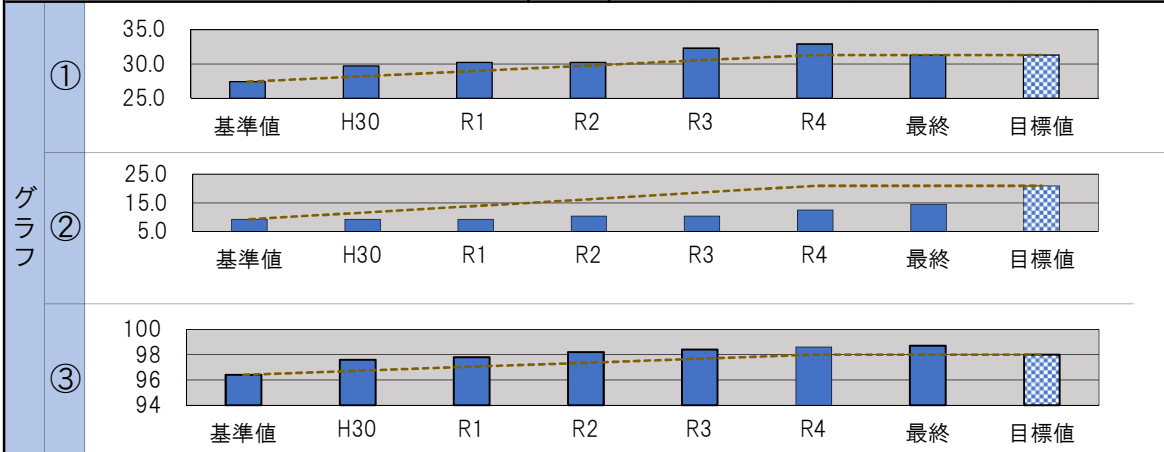
関係課
地域交通課、維持課、道水路管理課、治水課、学校教育課

Plan 3 安全・安心を高める

施策14 災害に強い社会基盤整備を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 基幹管路の耐震化率(%)	↗	27.4	29.7	30.2	30.2	32.3	32.9	31.3	31.3	A
② 主要橋梁の耐震化率(%)	↗	9.3	9.3	9.3	10.4	10.4	12.5	14.6	20.9	C+
③ ガス管の耐震化率(%)	↗	96.4	97.6	97.8	98.2	98.4	98.6	98.7	98.0	A

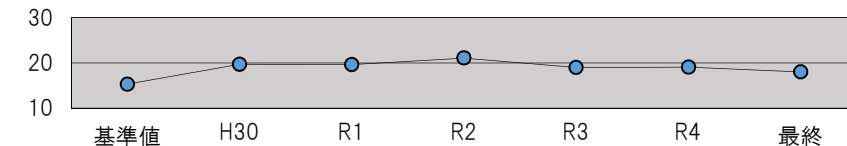


評価結果  
**B**  
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
災害に強いまちづくりができていると思う人の割合	15.3	19.7	19.6	21.1	19.0	19.1	18.0	<b>b</b> 概ね良好

グラフ



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・国や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。
- ・豪雨などによる甚大な被害も毎年各地で発生しており、今後も気候変動の影響による豪雨頻度の増加や台風の強大化等、自然災害のさらなる大規模化が懸念されている。
- ・防災に対する市民の関心は近年ますます高まっており、ハード面の整備についても関心がより高まっている。

5. 施策評価

**Bb**

4. 指標の分析

成果指標	① 令和4年度において昭和50年以前に布設された溶接継手の鋼管を非耐震管に変更したため、前年度現状値から1.6ポイント低下しているものの、目標値を達成している。
成果指標	② 対象橋梁の耐震補強工事を実施したため、前年度現状値から2.1ポイント上昇している。
成果指標	③ 巨大地震等の自然災害発生に備えるためガス管の耐震化を進めており、前年度現状値から0.1ポイント上昇し、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A			
↑ 成果指標 ↓		<b>Bb</b> 前回・今回	
D			
	d ← 体感指標 → a		
	成果指標と体感指標の乖離なし		

## 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
災害時の交通路等の確保	道路附属物保全事業	地域交通課	○	★★★★	★
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	ブロック塀等撤去費補助金交付事業	建築指導課	○	★★	★★
	要安全確認計画記載建築物耐震改修等補助事業	住宅政策課	○	★★★★	★
	橋梁保全事業	維持課	○	★★★★	★
	緊急輸送道路無電柱化事業	道路課	○	★★★★	★
	下水道管改良事業(老朽化対策)	下水道整備課	○	★★★★	★★
	水道管改良事業(基幹管路)	上水道整備課	○	★★★★	★★★★
	水道管改良事業(応急給水栓)	上水道整備課	○	★★★★	★
	水道管劣化診断事業	管路保全課	○	★★★★	★★★★
	佐千原浄水場第2ポンプ棟建設事業	施設保全課	○	★★★★	★★★★
	佐千原浄水場中央監視設備更新及び運転管理事業	施設保全課	○	★★★★	★★★★
公共建築物および避難所の整備	防災施設充実強化事業	危機管理課	○	★★★★	★★
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★
浸水被害の軽減	高潮ハザードマップ作成事業	危機管理課	○	★★	-
	エア遮断機整備事業(外崎地下道)	維持課	○	★★★★	-
	総合治水対策事業(河川改修)	治水課	○	★★★★	★★
	総合治水対策事業(流域貯留施設等)	治水課	○	-	-
	総合治水対策事業(河川等情報関連)	治水課	○	★★★★	★★
	総合治水対策事業(雨水ポンプ場修繕改築)	治水課	-	-	-
	緊急農地防災事業	治水課	○	★★★★	★
	県営農業農村整備事業(排水路・排水機場)	治水課	○	★★★★	★★★★
	生活関連治水事業	治水課	○	★★	★
	雨水排水路整備事業	治水課	○	★★★★	-
	かんがい用水改良事業(築込地区ほか)	治水課	○	★★★★	-
	公共下水道雨水管渠整備事業	下水道整備課	○	★	★★★★

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

## 9. 市民の意見

## 10. 今後の方向性・改善計画

成果指標は概ね良好に推移しており、各種事業を引き続き推進し改善していく。なお、市管理橋梁は法令に基づく点検・診断を行い、その結果に基づく措置を行うことにより、常時良好な状態を保っている。

### 主担当部・課

総合政策部 危機管理課

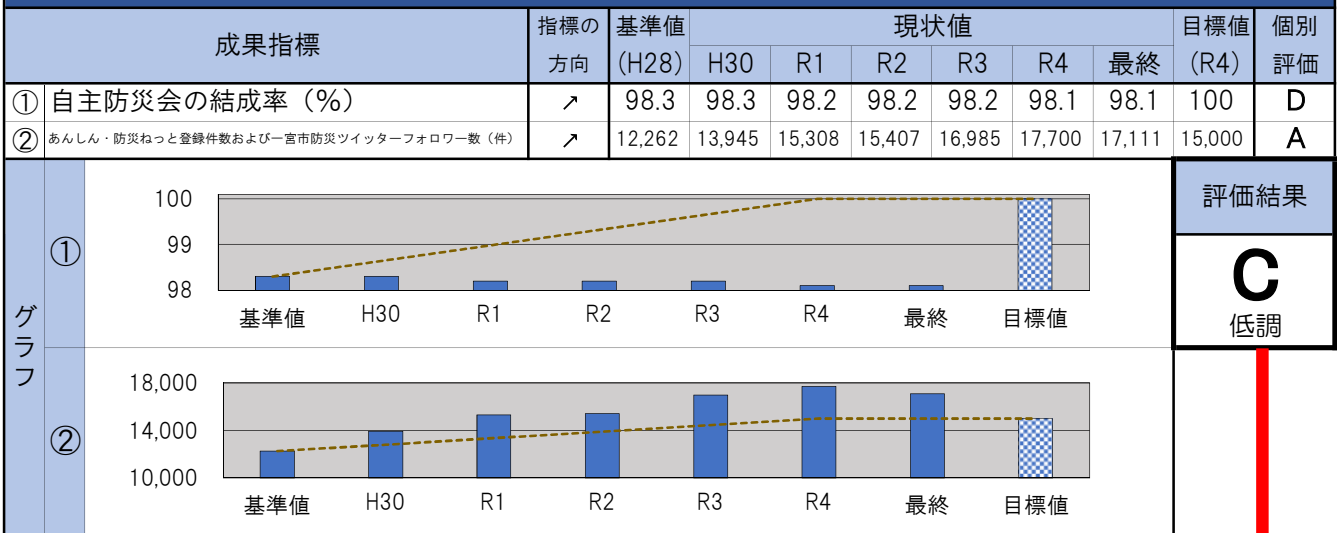
### 関係課

地域交通課、公園緑地課、建築指導課、住宅政策課、維持課、道路課、治水課、上水道整備課、下水道整備課、管路保全課、施設保全課

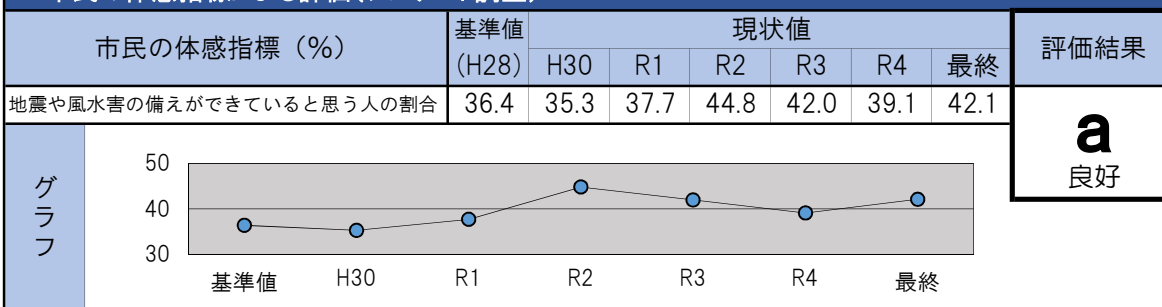
Plan 3 安全・安心を高める

施策15 自主防災力の向上を図ります

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・国や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。
- ・豪雨などによる甚大な被害も毎年各地で発生しており、今後も気候変動の影響による豪雨頻度の増加や台風の強大化等、自然災害のさらなる大規模化が懸念されている。
- ・防災に対する市民の関心は近年ますます高まっており、新型コロナウイルス感染症の影響により中止が続いていた連区や町内会、企業での防災訓練や防災教育などが再開されてきている。

5. 施策評価

Ca

4. 指標の分析

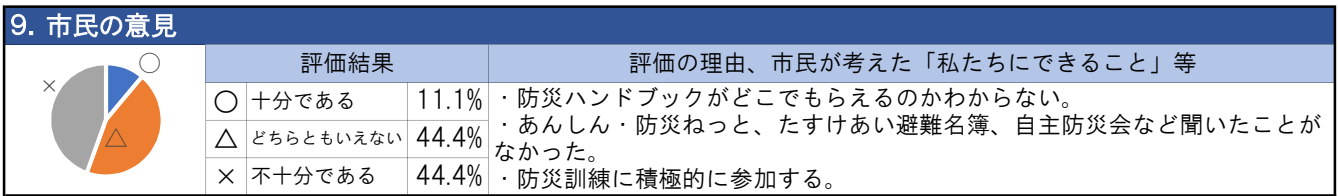
成果指標	① 前年度現状値から横ばいであり、引き続き基準値は下回っているものの、自主防災会はなお100%に近い高い割合の町内会で結成されている。
成果指標	② あんしん・防災ねっとの登録者でメール不達者を整理したため、前年度現状値から589件減少したものの、あんしん・防災ねっとの登録者とX(防災ツイッター)のフォロワー数を合わせた目標値は引き続き達成している。
市民の体感指標	近年の災害の頻発化、激甚化を受けて防災意識が向上したためか、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ3ポイント、5.7ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑				
成果指標		Cb 前回	Ca 今回	
↓				
D				
		d ← 体感指標 → a		
	成果指標と体感指標の乖離なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
防災意識の高揚	防災訓練事業	危機管理課	○	★	-
	防災啓発事業	危機管理課	○	★★★	★
	総合的な防災ハンドブックの活用事業	危機管理課	○	★★★	-
地域防災力の向上	自主防災組織育成事業	危機管理課	○	★	-
	災害時たすけあい隊(災害時要援護者支援事業)	福祉総務課	○	★	★
	災害時たすけあい隊(災害時要援護者支援事業)	高年福祉課	○	★★	-
災害時の情報提供	防災情報伝達事業	危機管理課	○	★★	★
	たすけあい避難名簿(避難行動要支援者名簿)管理事業	福祉総務課	○	★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容



### 10. 今後の方向性・改善計画

自主防災会は引き続き高い割合で結成されており、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いていた防災訓練や防災講話等の自主防災活動が再開されてきている。あんしん・防災ねっと及びX(防災ツイッター)をはじめ自主防災意識の向上のため、各種事業の積極的な啓発を行い、主要な事業を引き続き推進していく。

**主担当部・課**  
総合政策部 危機管理課

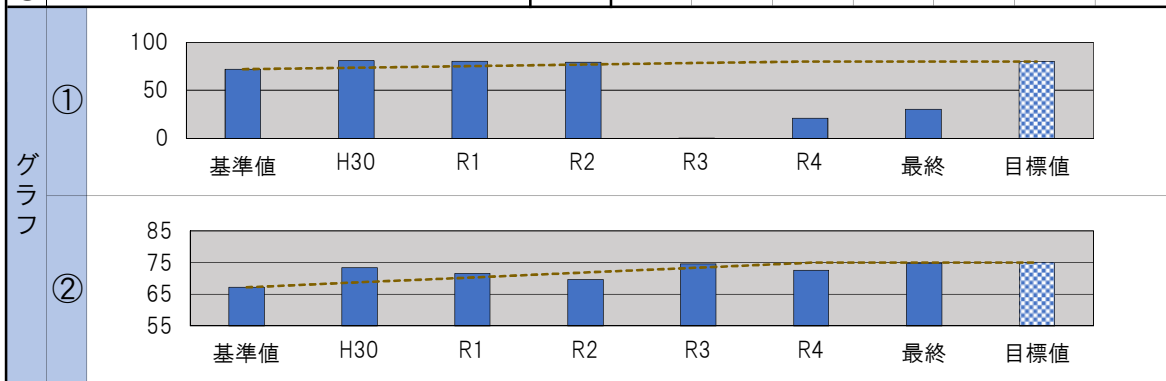
**関係課**  
福祉総務課、高年福祉課

Plan 3 安全・安心を高める

施策16 火災や救急に対する体制の強化を進めます

1. 成果指標による評価

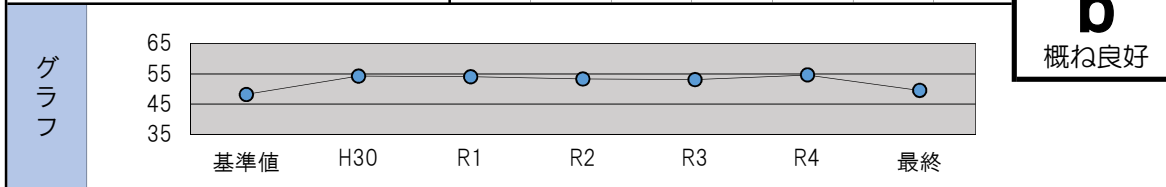
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① 消火・消防訓練実施率(町内会単位)(%)	↗	72	80.8	80.1	79.1	0.2	21.1	30.3	80.0	D	
② 応急手当の実施率(%)	↗	67.2	73.4	71.6	69.7	74.6	72.6	74.8	75.0	B+	



評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
消防・救急体制が整っていると思う人の割合	48.2	54.2	54.0	53.2	53.1	54.6	49.5	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

消火・消防訓練実施率について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響が残り、町内会が実施する消火器取扱訓練が積極的に行われなかったことが主要な要因である。

5. 施策評価

**Cb**

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染拡大防止の影響が残り、町内会の消火器取扱訓練や防火防災訓練が自粛傾向にあったが、社会全体の活動が「ウイズ・コロナ」に変化し、前年度現状値から9.2ポイント上昇するも、目標値からは大きく乖離している。
	②	新型コロナウイルス感染拡大防止の影響が残る中、感染防止対策を徹底し救命講習や救急法を継続的に実施しているため、前年度現状値から2.2ポイント上昇しており、目標値を概ね達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A			
↑			
成果指標		<b>Cb</b> 今回	<b>Ca</b> 前回
↓			
D			
	d	← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離なし			



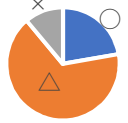
### 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
火災予防・救急救命活動の啓発	住宅用火災警報器設置促進事業	消防本部予防課	○	★★★	★
	消火器取扱指導事業	消防本部予防課	○	★★★	-
	各種救命講習等実施事業	消防本部消防救急課	○	★★★	★★
消防職員の育成	消防職員の教養・訓練事業	消防本部総務課	○	★★	★
	救急救命士養成事業	消防本部消防救急課	○	★★	★★
消防施設・設備の充実	消防水利整備事業	消防本部消防救急課	○	★★★	★
	消防自動車等整備事業	消防本部消防救急課	○	★★★	★★★★
消防団活動の充実・活性化	消防団の普及啓発事業	消防本部総務課	○	★	★★
	消防団員の加入促進事業	消防本部総務課	○	★★	★

### 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

### 9. 市民の意見

	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	△	
○	十分である	22.2%	・町内会でみんなが消火訓練に参加できる体制を考えてほしい。 ・AEDマップを設置してほしい。 ・急に備えて日頃から近所の人と話し合う。 ・持病がある場合はヘルプマークを持つ。
△	どちらともいえない	66.7%	
×	不十分である	11.1%	

### 10. 今後の方向性・改善計画

新型コロナウイルス感染症への認識が、「ウイズ・コロナ」から「アフター・コロナ」となり、各種行事やイベントへの参加制限もなくなるため、消防本部公式SNSなどを活用し、市民に対して積極的に情報発信するとともに、訓練や講習等への参加を呼びかけていく。

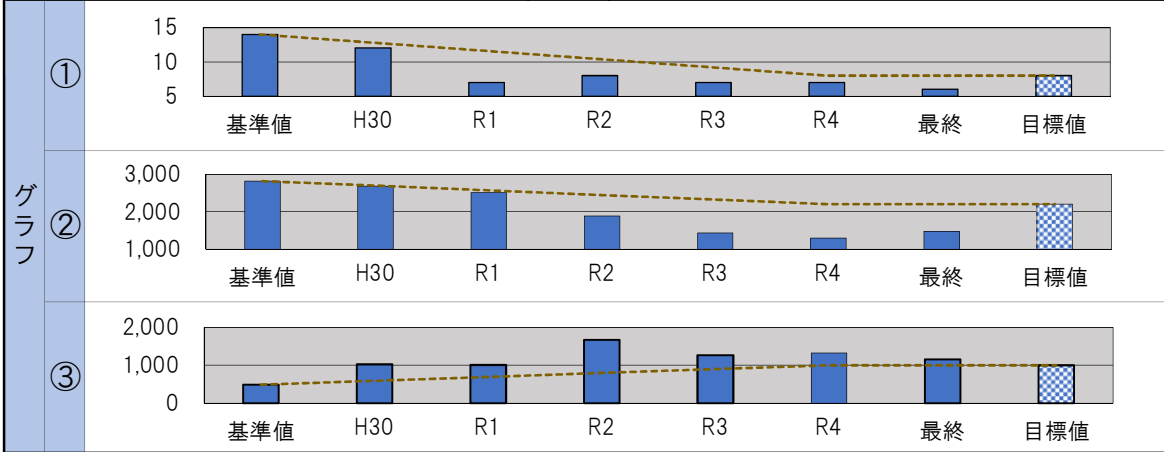
<b>主担当部・課</b>  消防本部総務課	<b>関係課</b>  消防本部予防課、消防本部消防救急課
------------------------------	-------------------------------------

Plan 3 安全・安心を高める

施策17 交通事故を減らす取組を進めます

1. 成果指標による評価

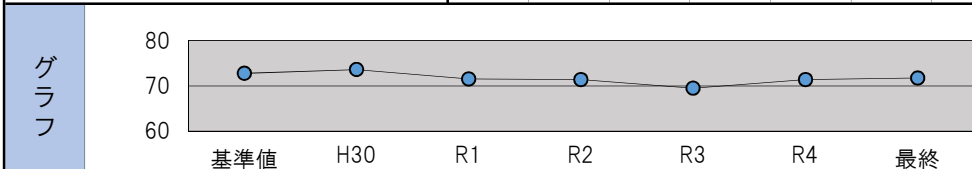
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① 交通事故による死者数(人)	↘	14	12	7	8	7	7	7	6	8	A
② 交通事故による負傷者数(人)	↘	2,816	2,679	2,510	1,887	1,436	1,299	1,479	2,200	2,200	A
③ 運転免許証を自主返納した高齢者数(人)	↗	489	1,022	1,005	1,672	1,268	1,321	1,153	1,000	1,000	A



評価結果  
**A**  
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
交通事故の危険を感じたことがある人の割合	72.8	73.6	71.5	71.4	69.5	71.4	71.7	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・愛知県の交通事故死者数は平成30年まで16年連続全国最多であり、令和元年に最多を脱したものの依然高い水準で推移しており、本市でも毎年多くの人が交通事故により尊い命を落としており極めて厳しい状況が続いている。  
 ・愛知県は自動車の保有台数が全国1位で本市の保有台数も県内上位であるため、交通量が多いということもあるが、交通ルールを守らないために発生する事故も多いのが実状である。  
 ・交通事故件数が減少傾向にあったが下げ止まり感がみられる。今後さらに超高齢社会が進展し、高齢者が当事者となる交通事故による死者数や負傷者数が増加することが危惧される。

5. 施策評価  
**Ab**

4. 指標の分析

成果指標	①	警察、地域住民及び各種団体等と連携した啓発活動や、小学校や保育園等で交通安全教育の普及等を実施したため、前年度現状値から1人減少(改善)しており、目標値を達成している。
	②	警察、地域住民及び各種団体等と連携した啓発活動や、小学校や保育園等で交通安全教育の普及等を行ったため、前年度現状値から180人増加(悪化)しているものの、目標値を達成している。
	③	交通系ICカード(manaca)等や交通安全啓発品の配付による免許証返納支援事業の周知を実施したため、前年度現状値から168人減少しているものの、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス	
	Ab 前回・今回
A ↑ 成果指標	
D ↓ 成果指標	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
交通安全啓発の推進	交通安全運動推進事業	市民協働課	○	★★★★	★★★★
	交通安全運動推進組織の育成事業	市民協働課	○	★★★★	★★★
子どもへの交通安全教室の推進	交通安全教育推進事業(子ども対象)	市民協働課	○	★★	★
高齢者の事故防止の推進	交通安全教育推進事業(高齢者対象)	市民協働課	○	★★	★
	高齢者運転免許証自主返納支援事業	市民協働課	○	★★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

10. 今後の方向性・改善計画

引き続き、季節ごとの交通安全市民運動に合わせた啓発や出前講座を行うほか、一宮警察署や地域の住民と連携し、幅広い年代層に効果的な啓発活動を実施する。

子どもの頃からの交通安全教育の重要性の観点から、全小学校を対象に交通安全教室を開催するように関係機関と連携をとる。

高齢者に防犯交通安全指導員による居宅訪問を行い、直接交通事故防止を訴える活動を継続する。あわせて、加齢に伴う身体機能の低下を自覚した高齢者が、運転免許証の自主返納をしやすい環境をつくる。

主担当部・課
総合政策部 市民協働課

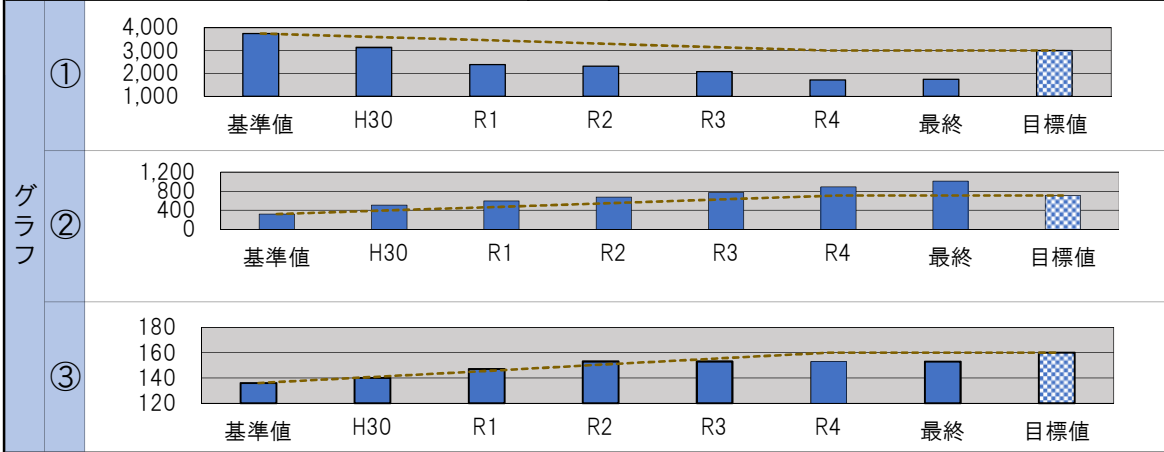
関係課
—

Plan 3 安全・安心を高める

施策18 防犯対策を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① 犯罪発生件数(件)	↘	3,741	3,139	2,390	2,310	2,079	1,707	1,744	3,000	A	
② 町内会等が設置した防犯カメラの台数(台)	↗	322	506	600	681	769	888	1,010	710	A	
③ 自主防犯パトロール隊の結成数(団体)	↗	136	140	147	153	153	153	153	160	B-	

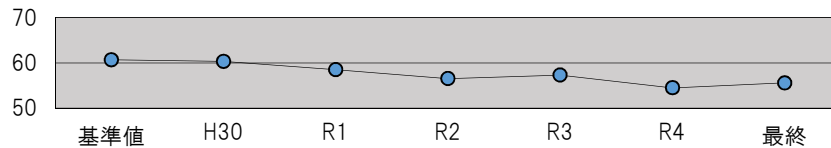


評価結果  
**A**  
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
犯罪への不安を感じたことがある人の割合	60.7	60.3	58.5	56.6	57.3	54.5	55.6	<b>b</b> 概ね良好

グラフ



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・本市の犯罪認知件数(刑法犯)は、地域住民・警察・行政の取り組みにより、平成16年のピーク時から減少し令和3年には4分の1以下となっているものの、県内警察別での認知件数は引き続き毎年ワーストランキングの上位となっている。  
 ・犯罪認知件数が減少傾向にあったものの下げ止まり感がみられる。今後さらに超高齢社会が進展し、高齢者が特殊詐欺の被害に遭うなど、犯罪件数が増加することが危惧される。  
 ・近年、子どもが襲われたり連れ去られたりする事件が発生しており、さらなる子どもの見守り活動が必要とされる。

5. 施策評価  
**Ab**

4. 指標の分析

成果指標	①	警察、地域住民及び各種団体等と連携した啓発活動や、地域防犯教育の普及活動の実施のため、前年度現状値から37件減少(改善)しており、目標値を達成している。
	②	町内会等が行った防犯カメラの設置費用の一部補助や、防犯カメラの維持費の定額補助に加え、これらの補助事業の周知を行ったため、前年度現状値から122台増加しており、目標値を達成している。
	③	自主防犯パトロール隊に登録した個人、団体への防犯資器材等の貸与や事業の周知を行ったため、前年度現状値から横ばいであるものの、目標値を概ね達成している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス		Ab 今回	Aa 前回
A ↑成果指標 ↓			
		d ← 体感指標 → a	
		成果指標と体感指標の乖離なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
防犯啓発の推進	高齢者訪問事業	市民協働課	○	★★	★
	防犯巡回パトロール業務委託事業	市民協働課	○	★★★★	★
	防犯教室事業	市民協働課	○	★★★★	★★★★
防犯カメラ等の設置の推進	共同防犯体制強化補助事業	市民協働課	○	★★★★	★
	防犯カメラ設置補助事業	市民協働課	○	★★★★	★
	青色防犯パトロール車へのドライブレコーダー貸与事業	市民協働課	○	★★	-
自主防犯団体の結成の推進	自主防犯活動支援事業	市民協働課	○	★★★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

10. 今後の方向性・改善計画

引き続き、季節ごとに行われる安全なまちづくり県民運動に合わせた防犯活動、年間を通じた出前講座による防犯啓発を、幅広い年代層に実施していく。  
 全小学校を対象に防犯教室を開催し、子どもへの防犯教育を実施する。  
 子供の見守りや地域防犯のため、自主防犯パトロール隊の活動を支援していく。  
 防犯カメラの設置に対する補助を継続し、地域へ防犯カメラ設置の促進を図る。

主担当部・課
総合政策部 市民協働課

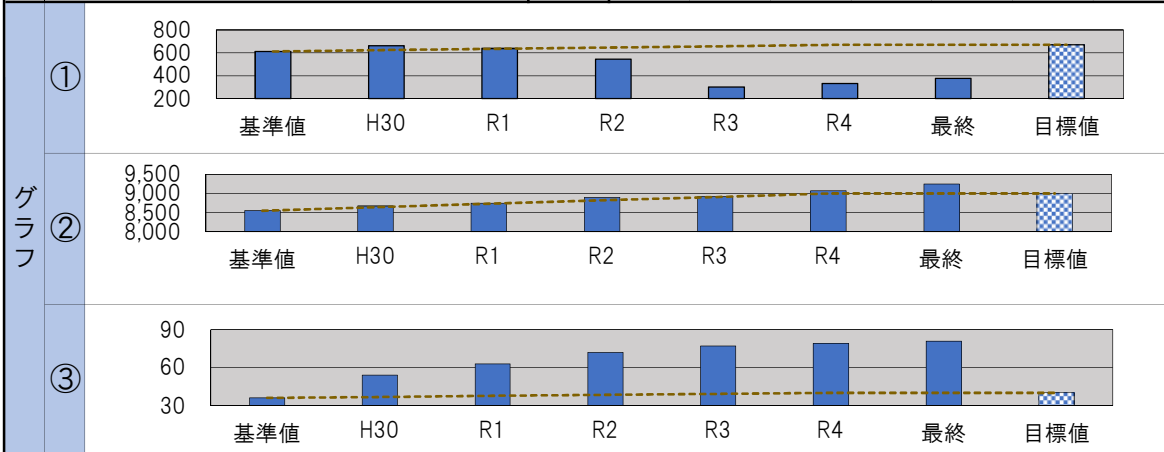
関係課
—

Plan 4 活力を生み出す

施策19 既存産業や次世代産業の育成を支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 中小企業振興融資の助成件数(件)	↗	611	663	637	544	300	332	375	670	D
② 法人数(事業所)	↗	8,550	8,672	8,746	8,899	8,923	9,068	9,244	9,000	A
③ 奨励金を交付した企業の新增設の累積件数(事業所)	↗	36	54	63	72	77	79	81	40	A



評価結果  
**B**  
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
一宮市の企業は活力があると思う人の割合	7.3	9.3	9.9	9.5	10.1	10.3	10.4	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・コロナ禍がもたらした世界的な経済停滞からの回復場面で、ロシアによるウクライナ侵攻が更に経済に影響を落とすこととなった。その影響による資源価格は各方面で高止まりし、各国のインフレ対策に基づく金利上昇が日本における大幅な円安をもたらした。急激な円安により輸入物価の上昇は近年まれにみる水準に達し、地域中小事業者においても、輸入物価上昇分の末端価格への転嫁が進まない状況にあり、また雇用問題からなる賃金上昇も利益を圧迫する要因となっている。今後の世界動向を見極めた金融支援や技術支援が必要である。

4. 指標の分析

成果指標	①	コロナ禍で近年落込んでいた事業者の設備投資や運営経費、人的経費への投資が少しずつ回復基調にあり、それに伴い融資件数が前年度現状値から43件増加しているものの、融資金額は大型案件に乏しく、先行きの不透明感を一掃するに至っていない事から依然として目標値から大きく乖離している。
	②	コロナ禍の影響を大きく受けた事業所の業態転換による事業者数の増加や新規開業需要によって、前年度現状値から176事業所増加しており、目標値を達成している。
	③	コロナ禍においても好調な業種などが継続して設備投資を行ったため、前年度現状値から2事業所増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓				
			<b>Bb</b> 今回	<b>Ba</b> 前回
		d ← 体感指標 → a		
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価  
**Bb**

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
地場産業の持続的な発展	ジャパン・テキスタイル・コンテスト事業	産業振興課	○	★★	★
	FDC尾州モノづくり・プロモーション支援事業	産業振興課	○	★★	★★
	(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター運営負担金交付事業	産業振興課	○	★★★	★★
各種事業所への支援と育成	いちのみや応援基金推進事業	行政課	○	★★	★
	商工団体等事業費補助事業	産業振興課	○	★★	★
	特許及び実用新案出願支援事業	産業振興課	○	★	★
	中小企業振興融資預託事業	産業振興課	○	★★	★★
	中小企業振興融資等補助事業	産業振興課	○	★★	★★
	中小企業相談所補助事業	産業振興課	○	★★	★★
	企業立地促進事業	産業振興課	○	★★	★★★★
産業の多角化	企業立地促進事業	産業振興課	○	★★	★★★★
	次世代産業育成支援事業	産業振興課	○	★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

--

10. 今後の方向性・改善計画

今後の経済動向を見極め金融支援のメニューの変更や新設、最新技術の情報提供など支援を行っていく。
---

<b>主担当部・課</b>
活力創造部 産業振興課

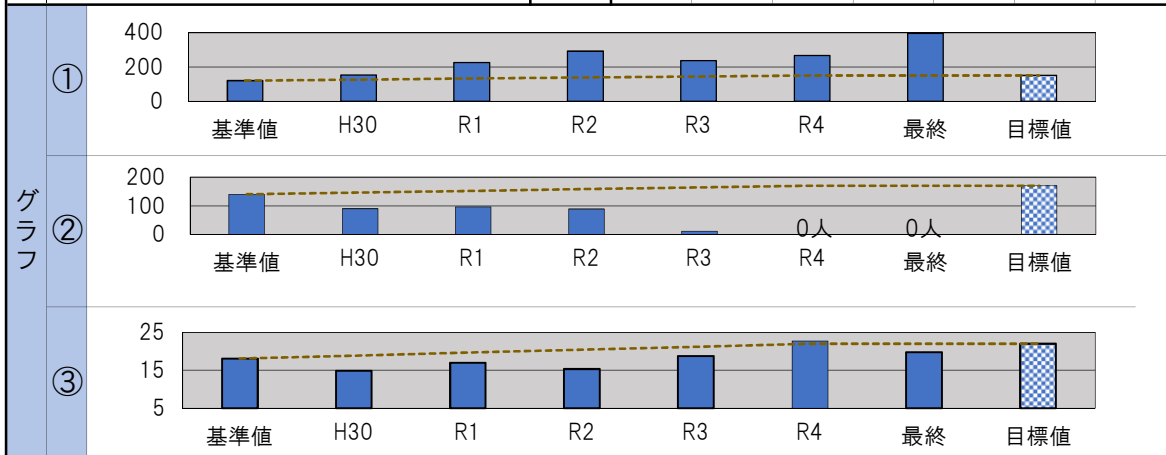
<b>関係課</b>
行政課

Plan 4 活力を生み出す

施策20 意欲を持って働けるよう就労支援を進めます

1. 成果指標による評価

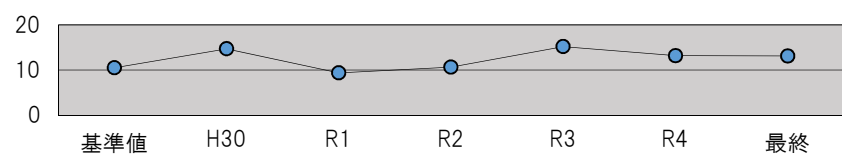
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 就職支援フェア来場人数(人)	↗	120	153	225	292	236	266	396	150	A
② 離職者職業訓練の助成件数(件)	↗	140	90	97	89	12	0	0	170	D
③ 市内の企業で働いている60歳以上の高齢者の割合(%)	↗	18.1	14.8	17.0	15.3	18.8	22.7	19.8	22.0	C+



評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
就労支援を必要とする人への支援がなされていると思う人の割合	10.5	14.7	9.4	10.6	15.2	13.2	13.1	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

有効求人倍率は1.0前後を推移しており、コロナ禍やウクライナ情勢が影を落とし依然として先が見通せない状況である。企業側も人手不足の中にあつての雇用確保は、今後の事業継続に於ける問題ではあるが、急激な円安による輸入物価の高騰は原材料高へと波及し、末端価格への転嫁も進まない状況の中で、人的投資余力もままならない中小企業は多く存在している。

5. 施策評価

**Cb**

4. 指標の分析

①	新型コロナ離職者や就職氷河期世代への失業対策等、各種労働政策によるフェア開催の紹介などに後押しされ、前年度現状値から130人増加しており、目標値を達成している。
②	令和2年度末で当事業を停止。
③	国や市の労政事業による生涯現役就労促進が徐々に浸透しているものの、前年度現状値から2.9ポイント減少しており、目標値を達成できなかった。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			
			<b>Bb</b> 前回
			<b>Cb</b> 今回
	d	← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離			なし



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
障害者の就労、高齢者の継続雇用の推進	障害者特別雇用奨励金支給事業	産業振興課	○	★★	★★★★
若者の就職支援の拡大	若者就職支援事業	産業振興課	○	★★★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見				
	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等	
	○	十分である	5.6%	・派遣やパートでいたくない人の支援が必要。
△	どちらともいえない	38.9%	・看護・介護・医療のフェアで、人気の企業に偏らない工夫が必要。	
×	不十分である	55.6%	・市の方が仕事を求めている企業等をもっと紹介してほしい。	
			・年齢に左右されない意欲につながる資格を取っておく。	

10. 今後の方向性・改善計画

引き続き経済環境、雇用環境、労働環境などを注視し、市で行う「就職フェア」のテーマに即効性をもって柔軟に対応し、就労支援に繋げたい。長期的には、障害者雇用、生涯現役、就職氷河期、事業承継などの各種労政課題に、市で助成金や補助金、臨床心理士によるお悩み相談など引き続き取り組み、市民の福利に貢献する。

主担当部・課
活力創造部 産業振興課

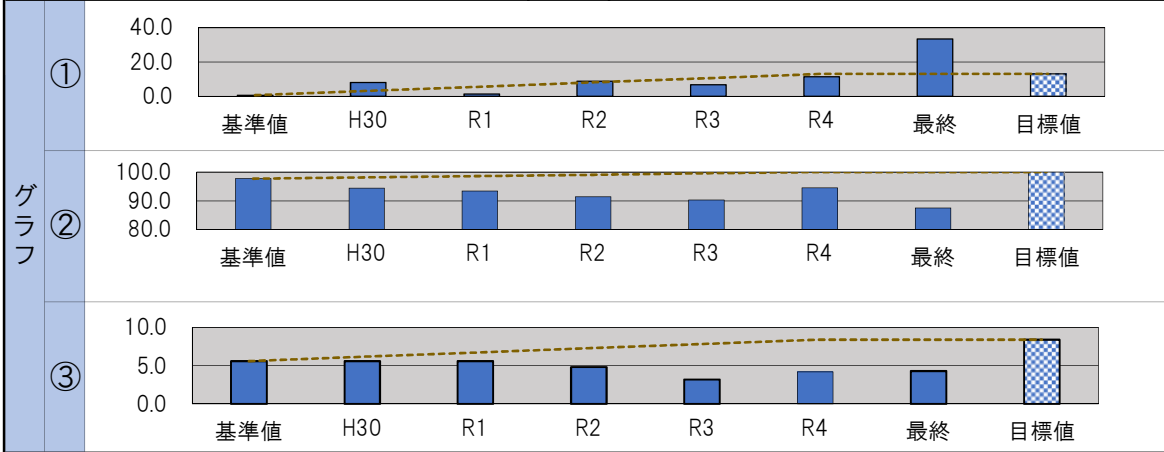
関係課
—

Plan 4 活力を生み出す

施策21 女性の活躍できる環境をつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 育児休業取得率(男性)(%)	↗	0.6	7.9	1.3	8.6	6.6	11.3	33.3	13.0	A
② 育児休業取得率(女性)(%)	↗	97.7	94.4	93.4	91.4	90.3	94.5	87.5	100	D
③ 就職を希望する女性の就職率(%)	↗	5.6	5.6	5.6	4.8	3.2	4.2	4.3	8.4	D



評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
男女差なく働けると感じている人の割合	65.0	72.1	62.2	67.9	65.6	67.7	66.9	<b>b</b> 概ね良好

① 男女差なく働けると感じている人の割合

項目	基準値	H30	R1	R2	R3	R4	最終
値	65.0	72.1	62.2	67.9	65.6	67.7	66.9

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方などに代表される、固定的な性別による役割分担意識は徐々に解消されつつあるが、依然として根強く残っており男女の不平等感の原因となっている。  
 ・新型コロナウイルス感染症の拡大による雇用への影響は大きく、望むときに希望する職に就くための支援や、継続して就業するための環境の整備などに加え、社会全体として働き方そのものを見直す転換期にある。

5. 施策評価

**Cb**

4. 指標の分析

成果指標	①	前年度現状値から22ポイント上昇しており目標値を達成している。働き方の多様化に加え、令和4年10月に育児・介護休業法が改正され、男性が育児休業を取得しやすい仕組みが整ったことも要因の一つと考えられる。
	②	新型コロナウイルス感染症拡大によりテレワーク勤務が定着するなど、性別に関わらず働き方が多様化している。前年度現状値から7ポイント低下しており、目標値から大きく乖離しているが、母数が少ないための誤差も低下の原因と考えられるため、注視して推進していく必要がある。
	③	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和3年度は大きく下落していたが、令和4年度は1ポイント回復している。今年度については、前年度現状値から0.1ポイント上昇しているものの、目標値から大きく乖離している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A					
↑			<b>Cb</b>		
↓			前回・今回		
D					
	d	←	体感指標	→	a
	成果指標と体感指標の乖離なし				

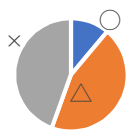
### 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
女性のチャレンジ支援	女性再就職応援セミナー開催事業	政策課	○	★★	-
ワーク・ライフ・バランスの推進	男女共同参画情報紙発行事業	政策課	○	★★★★	★★★★
	認知症介護家族支援事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	介護基盤整備事業	介護保険課	○	★★	-
	放課後児童クラブ運営事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	保育園の施設整備事業	保育課	○	★★★★	★
	私立保育園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★
	認定こども園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	保育事業	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★★★
	小規模保育改修費等支援補助事業	保育課	○	★★★★	★★★★
放課後子ども教室事業	青少年課	○	★★	★★★★	

### 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

### 9. 市民の意見

	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	記号	割合	
○	十分である	11.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業におまかせで市として促進していると感じにくい。</li> <li>長時間、遅い時間まで預けられる園が少ない。</li> <li>病気の看病で夫が休むことに理解がない。</li> <li>男性も育児休業を取るようになる。</li> </ul>
△	どちらともいえない	44.4%	
×	不十分である	44.4%	

### 10. 今後の方向性・改善計画

女性が活躍できる環境の整備に向けて、男女を問わず、働き方そのものの見直しや、男性の家庭参画を後押しするなど、引き続き固定的な役割分担意識の変革やワーク・ライフ・バランスの推進をはかる。

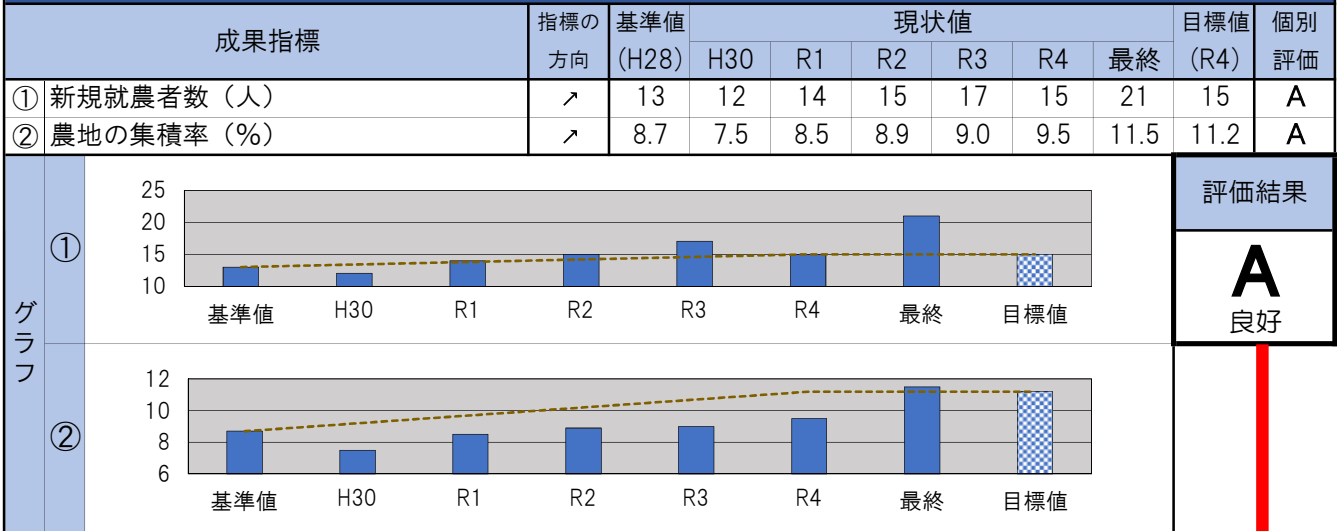
主担当部・課
総合政策部 政策課

関係課
高年福祉課、介護保険課、子育て支援課、保育課、青少年課

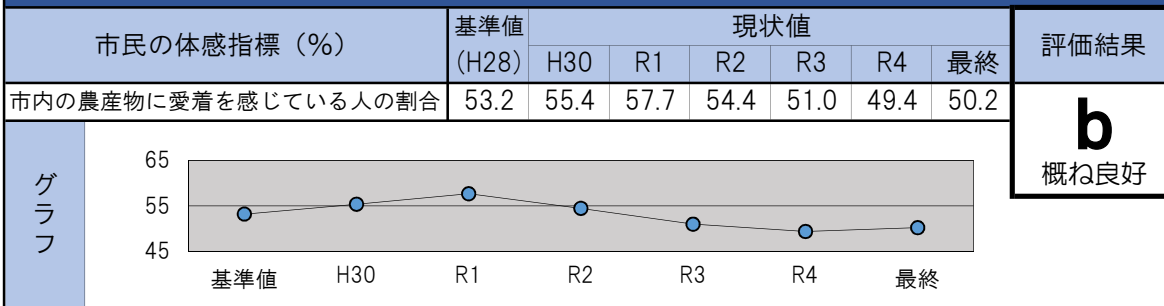
Plan 4 活力を生み出す

施策22 魅力があり持続的発展性のある農業を支援します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・水田地帯では、直播による作期の分散、機械の更新により省力化を図ることで規模を拡大し経営の安定を図っている。一方、騒音やほこり、農業の散布に対する苦情が多く作業効率の悪い住宅地の農地は敬遠される。
- ・多くの初期投資が必要な稲作での新規参入は難しく、畑作(野菜)での参入においても、まとまった農地が少ないことから園芸施設を利用するなど面積あたりの収益率を高める必要があり新規参入は限定される。
- ・国による各種支援策については規模の大きい生産組織に重点を置いたものが多く、都市近郊の比較的小規模の農業は置き去りになっている。
- ・急速な開発による優良農地の減少により営農意欲の減退が進んでいる。

5. 施策評価

Ab

4. 指標の分析

成果指標	① 積極的な就農支援により新規就農者数は目標値に対し大きく増やすことができた。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 今回	
A ↑ 成果指標	今回	Ab 今回	
	前回	Bb 前回	
		d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離なし			

**7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果**

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
農地の集積・集約化、安心・安全な農産物の推進	農地集積・集約化対策事業	農業振興課	○	★★	★★★★
	地域農政総合推進事業	農業振興課	○	★★★★	-
	環境保全型農業直接支払補助事業	農業振興課	○	★★	★
	残留農薬分析補助事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★
担い手の確保と育成の推進	新規就農総合支援事業	農業振興課	○	★★	★
	農業後継者育成補助事業	農業振興課	○	★★★★	★
	一宮市女性農業者会議補助事業	農業振興課	○	★★★★	★
	はつらつ農業塾事業	農業振興課	○	★★★★	★★
	農漁業近代化資金利子補給補助事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★
農家の経営安定の推進	6次産業化・地産地消推進事業	農業振興課	○	★	★
	水田農業構造改革対策促進補助事業	農業振興課	○	★★	★
	家畜防疫対策補助事業	農業振興課	○	★★★★	★

**8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)**

事業名	見直しの内容

**9. 市民の意見**

**10. 今後の方向性・改善計画**

成果指標は目標値を達成できたが農業従事者の年齢は高止まりしており、新たな担い手を育てなければならない。新たな担い手は「はつらつ農業塾」において募集、研修を行い育成、就農時や就農後の支援を充実することで確保していく必要がある。

既存の農業者に対しては、コスト削減や規模拡大を図る積極的な農業者への支援や農地の集積を推進することで経営体質の強化を図る。

また、市民に対しては「いちのみや野菜プロジェクト」を通して地産地消や地元農産物のPRを行う。

主担当部・課
活力創造部 農業振興課

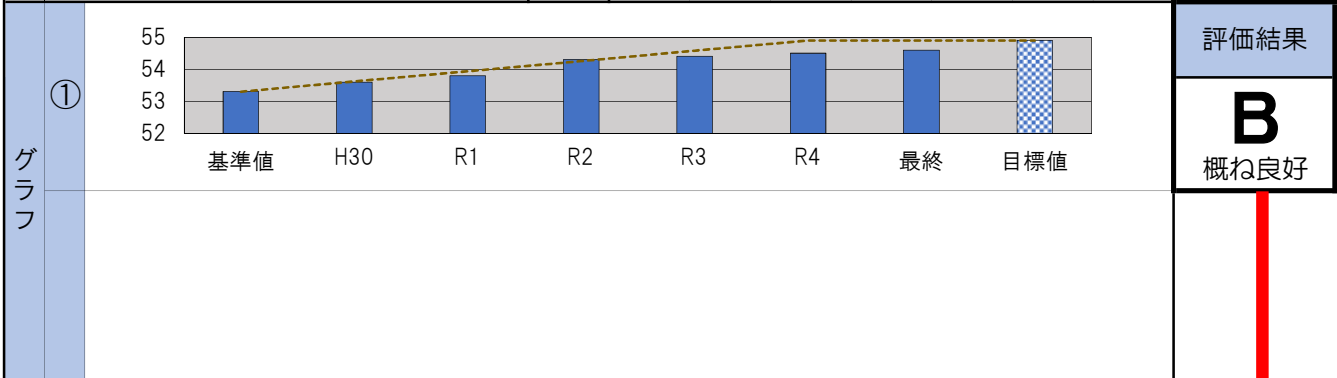
関係課
—

Plan 4 活力を生み出す

施策23 幹線道路の整備を進めます

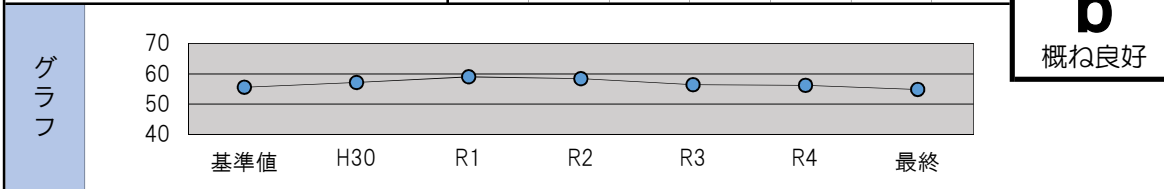
1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 市(周辺部)の都市計画道路の整備割合(%)	↗	53.3	53.6	53.8	54.3	54.4	54.5	54.6	54.9	B+



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
幹線道路が整備されていると思う人の割合	55.6	57.1	59.0	58.4	56.4	56.2	54.8	b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・ 毎年のように全国的に大規模な自然災害が多発しており、災害時の迅速な救援活動や物資の運搬、その後の復旧に欠かせない緊急輸送道路のネットワーク強化が求められている。  
 ・ 児童や園児の痛ましい交通事故が相次いでおり、歩行者が安全に安心して通行できる道路交通環境の整備が求められている。  
 ・ 道路ストックの老朽化が深刻になっており、定期的な点検による補修など効果的な道路管理が課題となっている。

5. 施策評価

**Bb**

4. 指標の分析

成果指標	① 事業の進捗が図られたため、前年度現状値から0.1ポイント上昇しており、目標値を概ね達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標		<b>Bb</b> 前回・今回	
D ↓ 成果指標			
	d ←	体感指標	→ a
	成果指標と体感指標の乖離なし		

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
幹線道路の新設	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名岐道路)	都市計画課	○	★★★★	★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名鉄尾西線高架化)	都市計画課	○	★★★★	★
	関係自治体等と連携した幹線道路整備促進事業(スマートインターチェンジ)	都市計画課	○	★★★★	-
	幹線道路整備事業(木曾川古知野線)	道路課	○	★★★★	★★★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(菟原多気線)	道路課	○	★★★★	★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(北尾張中央道)	道路課	○	★★★★	★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(新濃尾大橋)	道路課	○	★★★★	★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名古屋江南線)	道路課	○	★★★★	★★
	木曾川玉野線道路改築事業用地買戻事業	道路課	○	★★★★	-
幹線道路の保全	橋梁保全事業	維持課	○	★★★★	★
	幹線道路舗装改良事業	道路課	○	★★★★	★
幹線道路の改良	歩道拡幅事業(西御堂線)	道路課	○	-	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

10. 今後の方向性・改善計画

令和5年度以降も目標の達成に向け、引き続き関係機関と連携を図り各事業を推進する。

主担当部・課
建設部 道路課

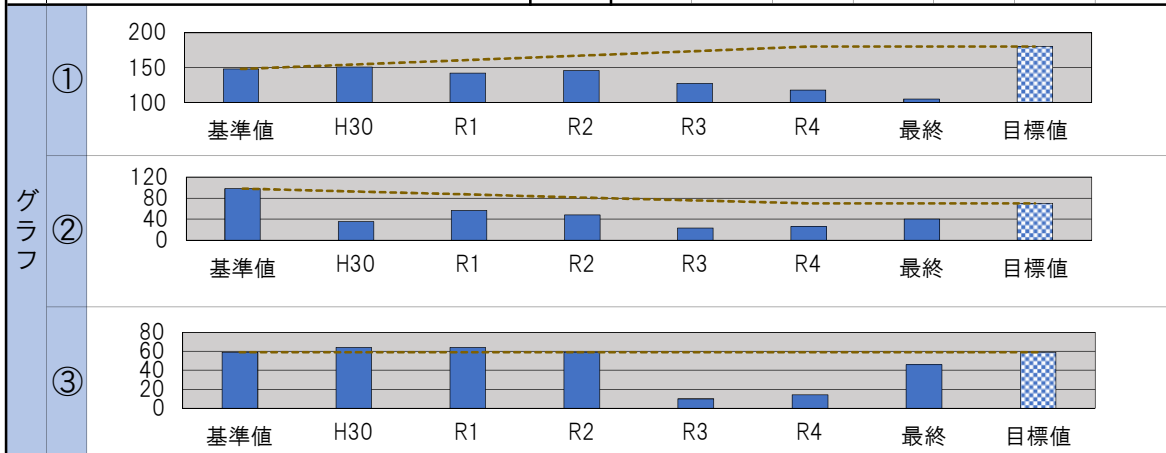
関係課
都市計画課、維持課

Plan 5 未来の人財を育てる

施策24 子どもから青少年まで健全に育つ環境をつくりま

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値						目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 子ども・若者総合相談窓口の相談者数 (人)	↗	148	151	142	146	127	118	105	180	D
② 初発型非行の検挙人数 (人)	↘	98	35	56	48	23	26	40	70	A
③ 子ども会事業の実施数 (回)	→	59	64	64	59	10	14	46	59	D

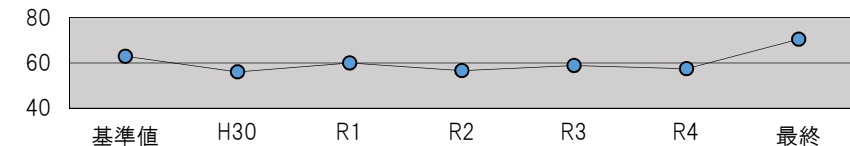


評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
子どもが社会性を身につけていると思う人の割合	62.9	56.0	60.0	56.6	58.8	57.5	70.5	<b>b</b> 概ね良好

グラフ



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・市民のライフスタイルや価値観の多様化、プライバシー意識の高まりなどにより、地域のつながりが希薄化し、地域の子どもの育てる力が低下している。  
 ・スマートフォンやインターネット等の普及により簡単に有害な情報を手に入れられるようになり、見知らぬ他人との接触機会が生じるなど、未成年の非行や犯罪被害に多大な影響を及ぼしている。  
 ・核家族化に少子化、疑似体験などの高度な情報化、SNSなどのコミュニケーションツールの浸透により、子どもたちが実際の体験活動を通して他者との交流を深める機会が少なくなっている。

5. 施策評価

**Cb**

4. 指標の分析

成果指標	①	各学校のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが充実し、小中学生の相談が減少したため、前年度現状値から13人減少しており、目標値から大きく乖離している。
	②	コロナ禍でも外出する機会が増え、子どもの動きが活発になったため、前年度現状値から14人増加(悪化)しているものの、目標値を達成している。
	③	前年度現状値から32回増加しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部の事業を開催中止にしたことにより、目標値から大きく乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A			
↑ 成果指標 ↓		<b>Cb</b> 前回・今回	
D			
	d ← 体感指標 → a		
	成果指標と体感指標の乖離なし		

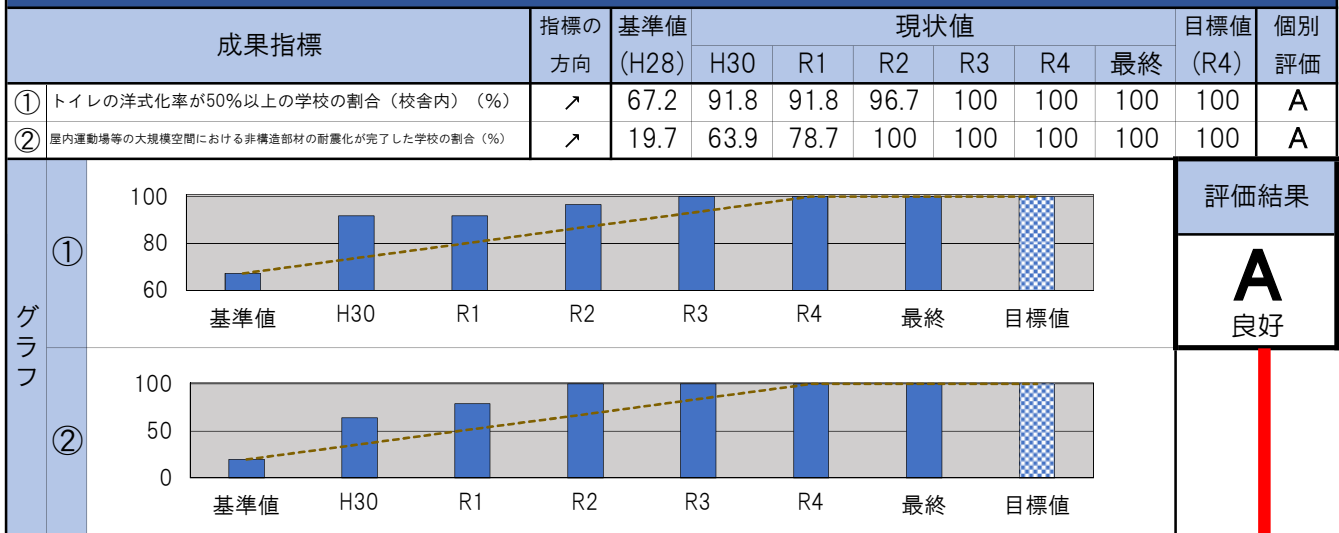




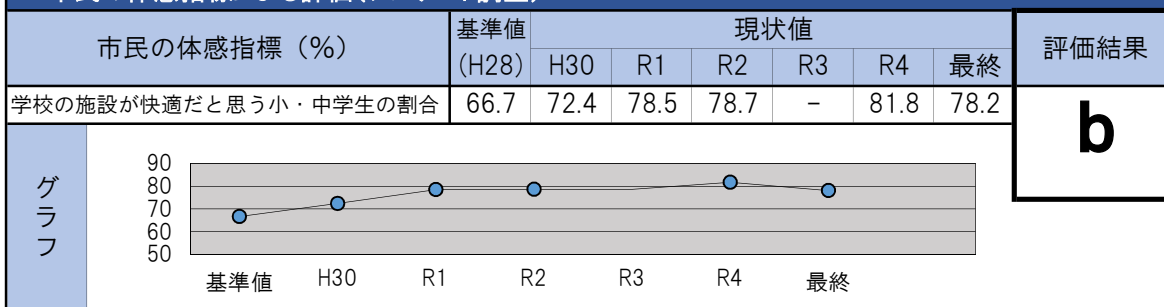
Plan 5 未来の人財を育てる

施策25 学校教育施設を整備します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・家庭において洋式トイレが主流になっている現状を踏まえ、洋式化率の向上が強く求められている。
- ・近年の猛暑などから、県内他市町村においても屋内運動場や特別教室への空調設備の整備が進んでいる。
- ・学校施設について、効率的な老朽化対策による長寿命化の推進が求められている。

5. 施策評価

Ab

4. 指標の分析

成果指標	① 校舎内におけるトイレの洋式化率は全校で50%以上となったため、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 今回	Aa 前回
A ↑ 成果指標 ↓ D	A		
	B		
	C		
	D		
		d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離なし			

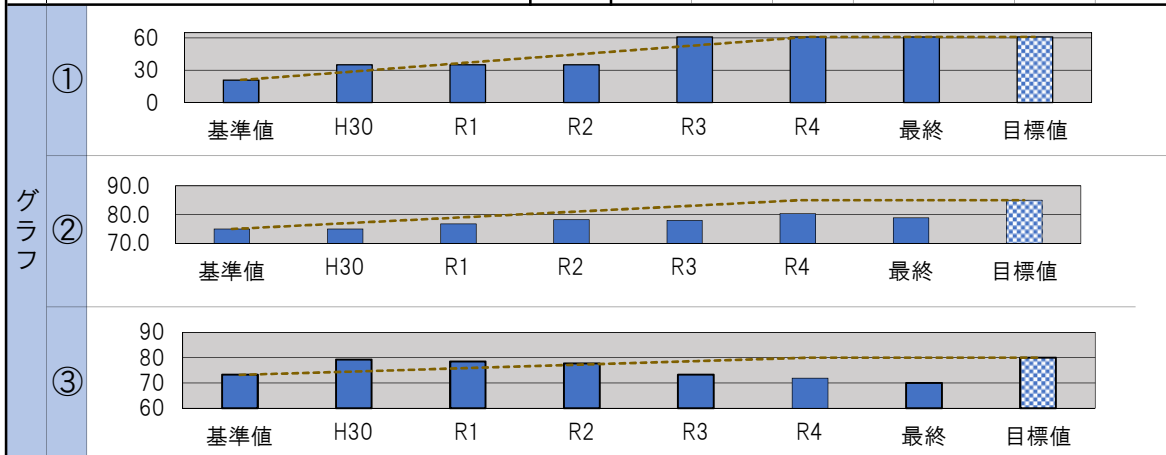


Plan 5 未来の人財を育てる

施策26 特色ある教育活動を実施します

1. 成果指標による評価

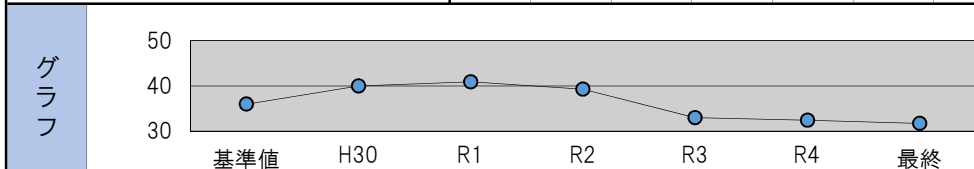
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① プログラミング教育の実施校数(校)	↗	21	35	35	35	61	61	61	61	A	
② 教員の情報機器活用研修の履修率(%)	↗	75.0	75.0	76.8	78.2	78.0	80.4	78.9	85.0	C+	
③ 英語テストで8割以上正解できた児童の割合(%)	↗	73.2	79.3	78.5	77.8	73.2	71.9	70.0	80.0	D	



評価結果  
**C**  
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
特色ある教育活動が行われていると思う人の割合	36.0	40.0	40.9	39.3	33.0	32.4	31.7	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・学習指導要領の改訂から、小学校でのプログラミング教室の必修化、GIGAスクール構想の一人一台端末の導入など、情報教育のより一層の充実が求められている。また、情報活用能力が言語活動能力などと同じように学習の基盤になることが位置付けられたため、教職員も情報化に対応していく必要がある。  
 ・学習指導要領の改訂により、小学校では令和2年度から、5・6年生において外国語が教科として全面实施されるなど、英語学習の必要性が年々高まっている。

5. 施策評価  
**Cb**

4. 指標の分析

成果指標	①	全校にPepperが導入され、Chromebookでもプログラミングをすることができる教材を使うことが可能であることから、全校で実施され目標値を達成した。
	②	「未来の教室クリエイティブ委員会」「情報教育委員会」などを中心として、教員研修が行われた。一方で、基礎的な研修を受ける受講生が減ったため、目標値には届かなかった。また、各校にICT支援員が月に2回派遣されており、気軽にサポートしてもらうことができる環境が整った。これらが影響し、前年度現状値から1.5ポイント低下しており、目標値から乖離している。
	③	前年度現状値から1.9ポイント減少しており、目標値から大きく乖離しているが、英語が教科化されたことにより、テストの難易度が変わったため、一概にできた児童の割合が少なくなったとはいえない。目標値を達成するために、英語活動は継続して行っており、また教員の指導力向上を図るための研修も積極的に行っている。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス				
A ↑ 成果指標 ↓ D	体感指標 a			
	b		Bb 前回	
	c		Cb 今回	
	d			
成果指標と体感指標の乖離なし				



Plan 5 未来の人財を育てる

施策27 する・みる・ささえるスポーツ活動を支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① スポーツ活動をする市民の数(万人)	↗	254.2	250.2	265.9	222.8	141.8	175.5	198.8	260	D
② スポーツ指導者およびスポーツボランティア登録者数(人)	↗	3000	3725	3413	3572	1238	986	2141	3200	D

グラフ	①		評価結果 <b>D</b> 悪化
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
スポーツに親しむ機会が多くあると思う人の割合	21.5	24.3	27.1	26.1	21.7	22.3	25.4	<b>b</b> 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・新型コロナウイルス感染症の影響による生活スタイルが徐々に戻りつつある中、様々な事業や行事が再開となり、人と距離を上手に取りながら行動するようになった。スポーツ施設の利用控えも回復傾向にある。  
 ・スポーツイベント開催に伴う感染拡大への不安はまだ消えず、規模を縮小して実施せざるを得ない状況である。

5. 施策評価

**Db**

4. 指標の分析

成果指標	① 市民が外出を控える傾向もあり、スポーツ活動への参加控えはあるものの、前年度現状値から約23万人増加しており、基準値は達成していないが、目標値に向けて良好に推移している。
成果指標	② スポーツイベント、審判・指導者講習会への参加控えはあるものの、前年度現状値から1,155人増加しており、基準値は達成していないが、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A			
↑			
成果指標			
↓			
D			<b>Db</b> 前回・今回
	d	←	体感指標
			→
			a
	成果指標と体感指標の乖離なし		

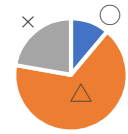
## 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
競技スポーツの推進	学校体育施設開放事業	スポーツ課	○	★★	★★
	市民大会開催事業	スポーツ課	○	★★	★★
	スポーツの普及・選手育成事業	スポーツ課	○	★★★★	★★
	体育施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	★
	スポーツ施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	★
	指定管理施設整備事業	指定管理課	○	★★★★	★★★★
生涯スポーツの推進	生涯スポーツ振興事業	スポーツ課	○	★	-
	地域スポーツ振興事業	スポーツ課	○	★★	-
	学校体育施設開放事業	スポーツ課	○	★★	★★
	体育施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	★
	スポーツ施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	★
	指定管理施設整備事業	指定管理課	○	★★★★	★★★★
各種スポーツ大会などの観戦の推進	広域スポーツ大会運営補助事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	ビッグプロジェクト等誘致推進事業	スポーツ課	○	-	-
	関西・一宮セブンズラグビーフットボール事業	スポーツ課	要検討	★★	-
指導者の確保	スポーツ指導者養成事業	スポーツ課	○	★★	★★
	スポーツ推進委員研修事業	スポーツ課	○	★	-

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

## 9. 市民の意見

	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	△	
○	十分である	11.1%	・スポーツ関連の施設へのアクセスがあまりよくない。 ・地域のスポーツの集まりの情報が得られない。 ・インクルーシブ施設が欲しい。 ・体育館に行ってみる。
△	どちらともいえない	66.7%	
×	不十分である	22.2%	

## 10. 今後の方向性・改善計画

スポーツ施設、指導者講習会などについて、安全・安心に利用及び開催できるように主催団体を支え、スポーツの振興を図る。  
 「する・みる・ささえる」スポーツ活動を普及するため、より市民が参加しやすく楽しんでもらえるよう各事業を推進していくとともに、トップレベルの大会等を誘致できるよう努める。

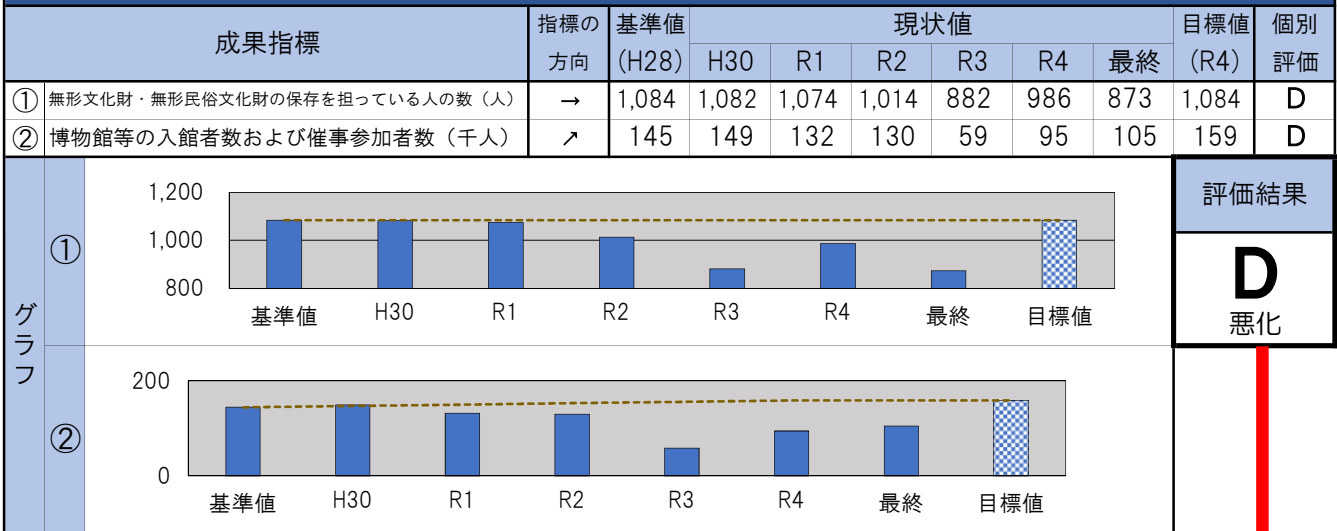
主担当部・課
活力創造部 スポーツ課

関係課
指定管理課

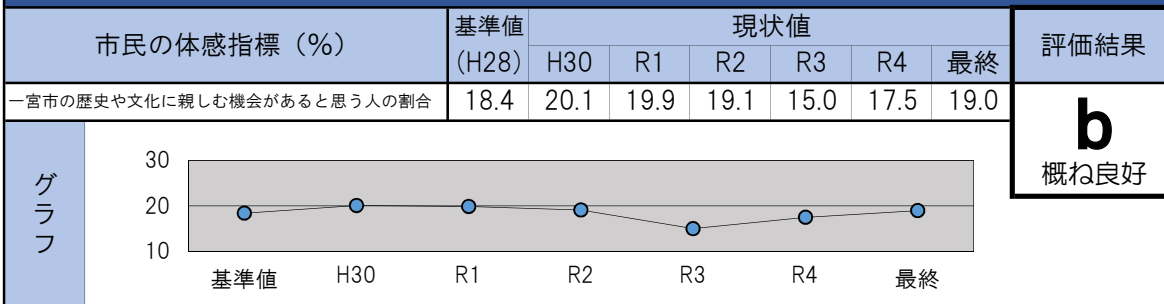
Plan 5 未来の人財を育てる

施策28 歴史・文化に親しめる環境を整えます

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・文化財関係では、新型コロナウイルス感染症が、5類感染症移行となったことにより、感染状況をみながらも従来通りの祭礼等を実施した団体が増えたが、数年間中止したことにより復活が難しく今年度も中止となった団体も見受けられた。  
 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大等が続く中、感染防止対策を徹底した上での開館を続けた(緊急事態宣言下では、一部の催し物の中止を行った)が、入館者数は伸び悩んだ。

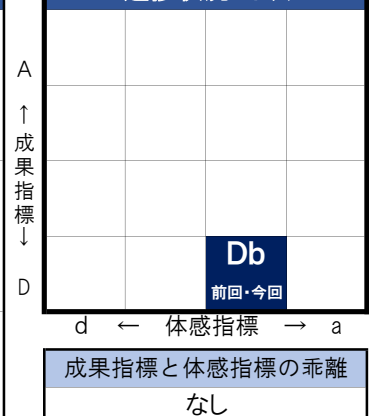
5. 施策評価

Db

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度から祭礼等の中止が相次いでいたことにより、新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行となっても、従来通りのものに復活することが難しい団体もいるため、前年度現状値から113人減少しており、目標値から大きく乖離している。
	②	外出する機会は増えてきたが、前年度現状値から10千人増加しているものの、目標値から大きく乖離している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス





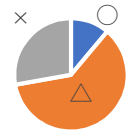
## 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある催事の企画とPRの推進	博物館展示事業	博物館管理課	○	★★★	★
	博物館管理事業	博物館管理課	○	★★	★★
	歴史民俗資料館展示事業	博物館管理課	○	★★	★
	歴史民俗資料館管理事業	博物館管理課	○	★★★	★★
	美術館展示事業	博物館管理課	○	★★	★
	美術館管理事業	博物館管理課	○	★	★★
	生涯学習出前講座事業	博物館管理課	○	★	-
	国際芸術祭「あいち2022」一宮会場記念事業	博物館管理課	○	★★★	-
	市川房枝生家跡顕彰施設整備事業	博物館管理課	○	★★	-
	美濃路高札場整備事業	博物館管理課	○	★	-
	一宮市美術展開催事業	生涯学習課	○	★★	★
	文化団体への各種事業委託事業	生涯学習課	○	★★★	★★★★
	民俗芸能発表会事業	生涯学習課	○	-	-
文化財の計画的な維持管理	指定文化財管理事業	博物館管理課	○	★★★	★
	文化財保護補助事業	博物館管理課	○	★★	★
	民俗芸能伝承推進事業	博物館管理課	○	★★	★
	民俗芸能伝承保存補助事業	博物館管理課	○	★	★

## 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

## 9. 市民の意見

	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等
	○	△	
○	十分である	11.1%	・若い時は、なかなか歴史・文化に向けた心の余裕がない。 ・歴史的場所の保存があまりされていない。 ・i-バスで行けるようにしてほしい。 ・子どもに文化に親しんでもらう(絵をかかせるなど)。
△	どちらともいえない	61.1%	
×	不十分である	27.8%	

## 10. 今後の方向性・改善計画

博物館では、これまで市内全42小学校3年生の社会科授業の一環として、企画展「くらしの道具」での展示説明を実施してきたが、令和3年度、館内のWi-Fi環境整備等により、オンライン配信授業を安定的に実施できるようにした。また講演会のYouTubeでの配信も行った。

博物館等では、魅力ある展覧会等の催し物の企画・実施を継続し、入館者数増加への努力を続けていくとともに、社会動向を注視し、オンライン環境を活用した催事などにも引き続き取り組んでいく。

文化財関係では、保存会との連絡を密にし、支援を継続してゆく。

### 主担当部・課

活力創造部 博物館管理課

### 関係課

生涯学習課

# 第7次総合計画 令和5年度 施策評価シート

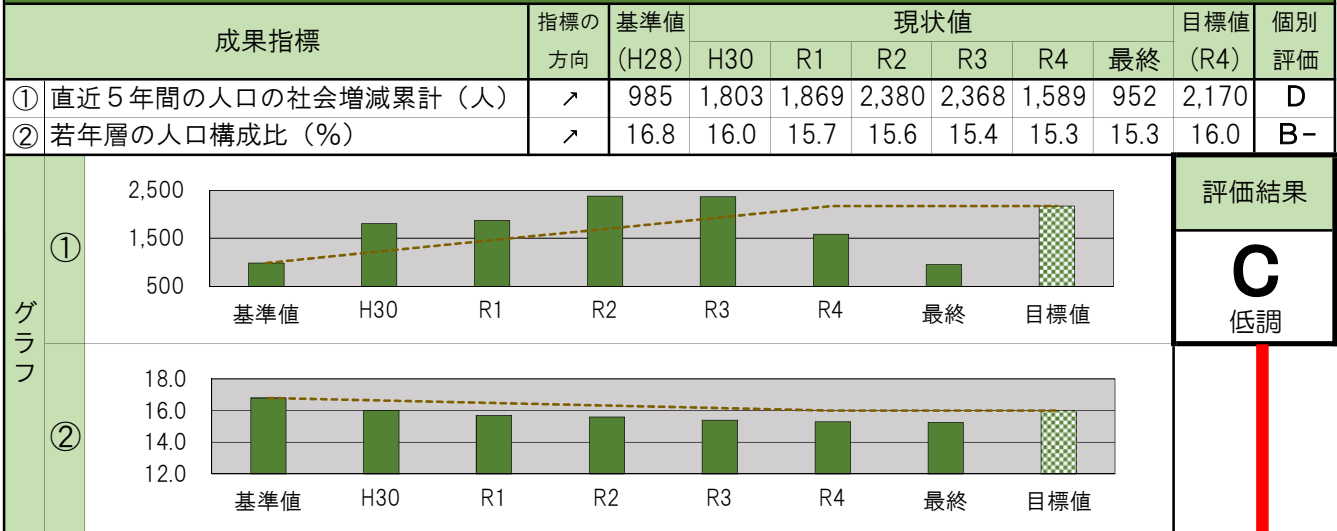
## Management 1

## 人を呼び込む ～シティプロモーション～

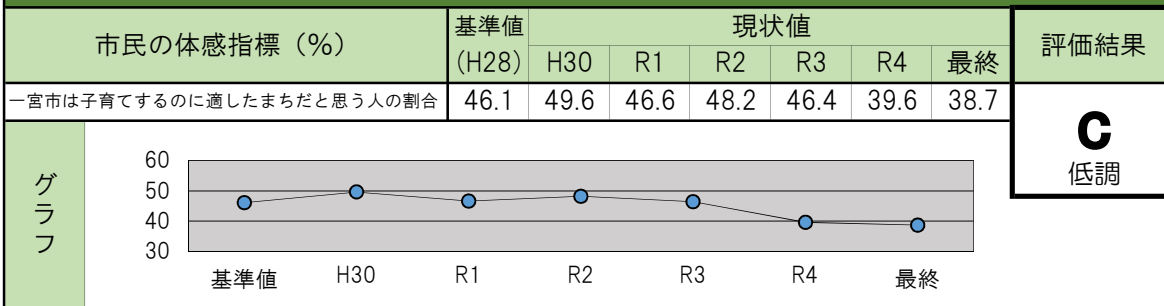
### 施策 1

### 子育て世代に選ばれるまちをつくります

#### 1. 成果指標による評価



#### 2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



#### 3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・日本の総人口は平成20年をピークに減少。愛知県は、平成28年より自然減に転じ、社会増減数としては社会増の状況が続いており、令和3年には一旦社会減に転じたものの、令和4年は再び社会増となった。しかしながら総人口としては減少が続いている。
- ・一宮市の人口においても、平成24年をピークにゆるやかな減少が続き、令和3年には、経済環境や新型コロナウイルス感染症の影響を受け、社会減に転じており、令和4年には再び社会増となったものの、自然減が加速し人口減少が続いている。
- ・全国的に若年層での東京圏への転出超過が続いており、一宮市も同様の傾向である。
- ・働き方の変化により、子育て環境の整備が求められている。
- ・全国的に移住対策を行う自治体が多く、競争は激化している。
- ・本市の基幹産業である繊維産業は、安価な輸入品の増大等の影響により規模が縮小傾向にある。

#### 5. 施策評価

**Cc**

#### 4. 指標の分析

成果指標	① 令和3年は社会減となったが、令和4年は再び社会増となり、指標としては直近5年間の人口の社会増減累計のため、前年度現状値から637人減少しているものの、転入超過を維持することはできた。ただし目標値に対しては悪化している。
成果指標	② 前年度同様、総人口の減少率以上に若年層人口の減少率が大きかったため、前年度現状値と同数値となっており、引き続き目標値に対して悪化している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ0.9ポイント、7.4ポイント低下し、悪化している。

A  
↑ 成果指標  
↓

6. 進捗状況マトリクス	
Bd 前回	
Cc 今回	

d ← 体感指標 → a

成果指標と体感指標の乖離なし



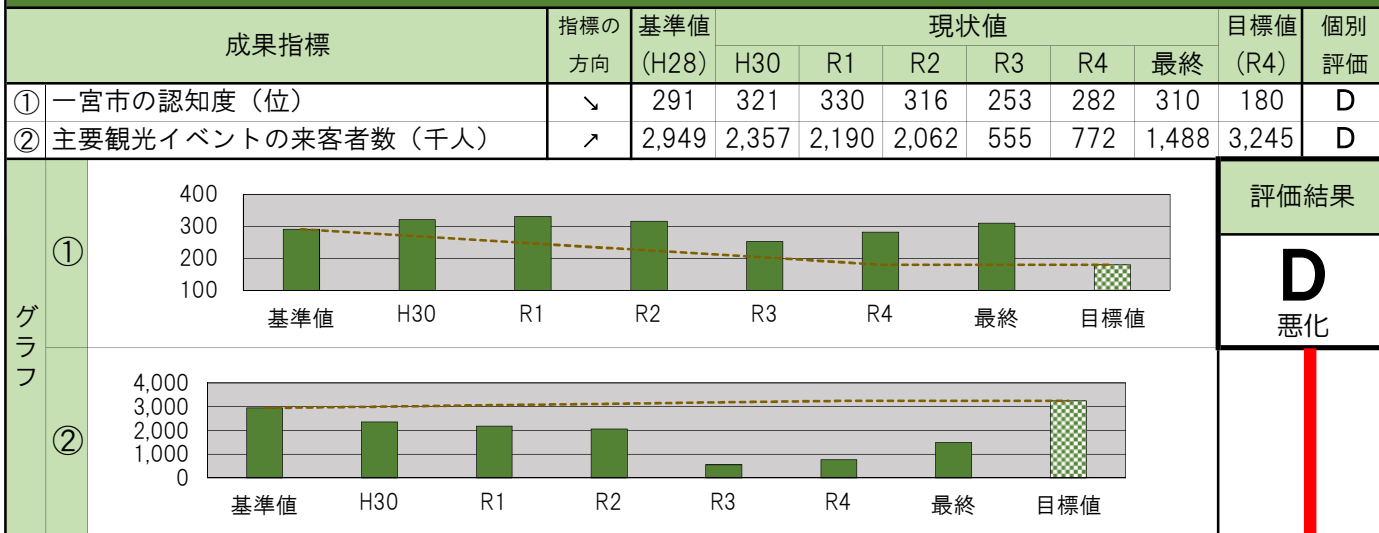
Management 1

人を呼び込む ～シティプロモーション～

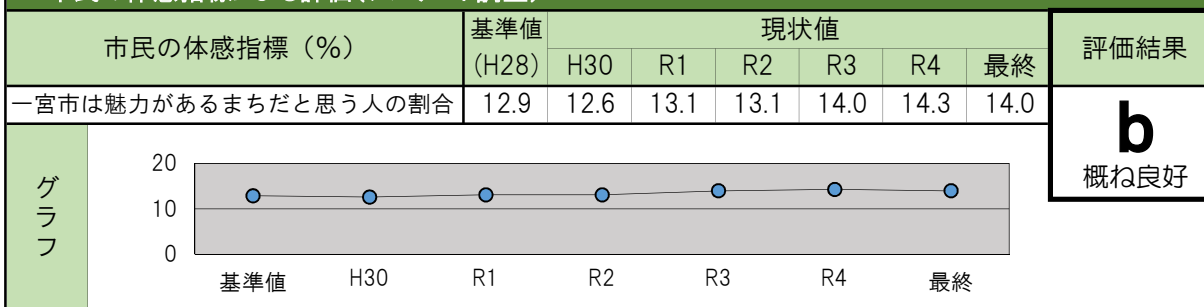
施策2

訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつくります

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・全国的に自治体によるシティプロモーションは激化している。
- ・類似イベントの乱立とレジャーの多様化により、既存の祭りなどの来客数は減少傾向にある。
- ・コロナの感染状況や天候の影響により来客数は大きく左右される。
- ・基準値の調査対象となる平成27年は、市長の交代や七夕まつりの60回記念事業として「東京デイズ ニーリゾート・スペシャルパレード」を実施するなど、例年に比べメディアへの露出が多かった。
- ・コロナ禍を機に、イベントの廃止や縮小を含め実施方法等の見直しがされている。

5. 施策評価

**Db**

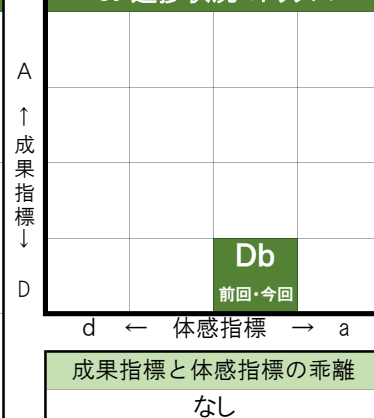
4. 指標の分析

① 市制施行100周年や中核市へ移行したR3以降、メディアへ大きく取り上げられる話題が少なかったため、前年度現状値から28位悪化しており、目標値から大きく乖離している。

② 新型コロナウイルス感染症の影響から少しずつ回復しているが、濃尾大花火の廃止や縮小開催のイベント等もあり、前年度現状値から716千人増加しているものの、目標値から大きく乖離している。

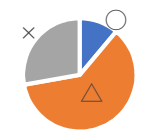
市民の体感指標 前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある集客イベントの開催	市制施行100+1周年記念事業	政策課	○	★★	★★★★
	おりもの感謝祭一宮七夕まつり事業	観光交流課	○	★	-
	花火大会事業	観光交流課	○	★★	-
	一宮イルミネーション事業	観光交流課	○	★★	★★
	一宮モーニングプロジェクト事業	観光交流課	○	★★	★★
	びさいまつり事業	観光交流課	○	★★	★
	萩原チンドン祭り事業	観光交流課	○	★	-
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★	★★
	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	観光情報等の発信	ウェブサイト等の運営事業	広報課	○	★★★★
いちのみやフィルムコミッション事業		観光交流課	○	★★	★★
市の新しい魅力発見のための観光資源の活用	フリーWi-Fi(無料公衆無線LAN)サービス拡大事業	デジタル推進室	○	★★	★
	観光案内所運営事業	観光交流課	○	★★	★★
	観光協会ウェブサイト事業	観光交流課	○	★★★★	★★
	イベント実施団体等への補助事業	観光交流課	○	★★	★
	まちなかウォークアブル推進事業	都市計画課	○	★★★★	★★★★
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見				
	評価結果		評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等	
	○	十分である	11.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 138タワーパークイベントはとて面白いので、広報をもっとしてほしい。</li> <li>・ 尾州を推してはいるが実際の織物を見たことがない。</li> <li>・ 市外への発信が少ない。</li> <li>・ 市外の友人も誘ってイベントに参加してみる。</li> </ul>
	△	どちらともいえない	61.1%	
	×	不十分である	27.8%	

**10. 今後の方向性・改善計画**

各種事業の周知や市観光協会のSNSの活用により、認知度の向上を図る。  
 既存イベントの相互周知や、市公式ウェブサイト上での積極的なPRにより、来場者の増加を図る。  
 国際芸術祭「あいち2022」開催により高まった機運を継続していくためのアート要素を取り入れたイベントや、地場産業の「尾州」を活用した新規事業を実施することで、認知度の向上と来客者の増加を図る。

**主担当部・課**

活力創造部 観光交流課

**関係課**

広報課、政策課、デジタル推進室、都市計画課、公園緑地課

Management 2

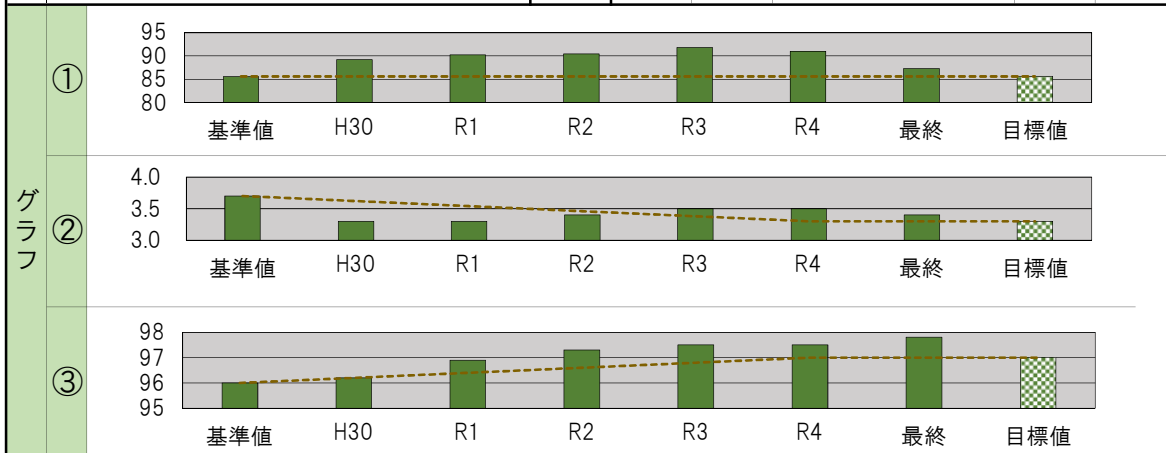
持続可能で未来につなげる

施策3

健全な財政運営に努めます

1. 成果指標による評価

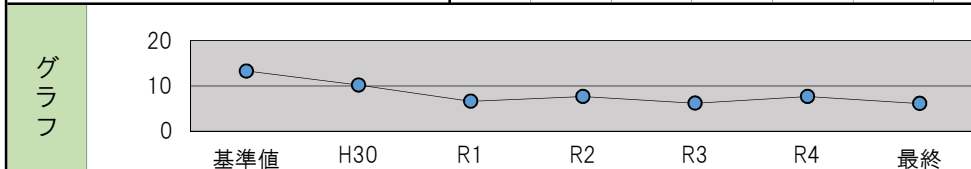
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 経常収支比率(%)	→	85.6	89.2	90.2	90.4	91.8	91.0	87.3	85.6	B+
② 実質公債費比率(3か年平均)(%)	↘	3.7	3.3	3.3	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	B+
③ 市税徴収率(%)	↗	96.0	96.2	96.9	97.3	97.5	97.5	97.8	97.0	A



評価結果  
**B**  
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
市の提供するサービスで必要以上のサービスがあると思う人の割合	13.3	10.2	6.6	7.7	6.2	7.7	6.1	<b>a</b> 良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 経済状況について、新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、経済活動の正常化に伴う成長が期待されるが、人材不足や物価等コストの上昇などにより、先行きが不透明な状態が続いている。
- ・ 地方全体の地方交付税総額は平成30年度を底に令和元年度からは増加に転じ、さらに当市では令和3年度の中核市移行に伴い地方交付税額は増加している。
- ・ 市税の徴収率は、平成21年度以降上昇を継続しており、滞納残高は着実に減少している。

5. 施策評価  
**Ba**

4. 指標の分析

成果指標	①	人件費、公債費などの支出の伸びに対して、地方交付税や、臨時財政対策債などにより収入の伸びが上回ったため、前年度現状値から3.7ポイント減少(改善)したが、依然として目標値は達成できていない。
	②	年々増加する臨時財政対策債の残高の影響により、元利償還金は増加しているものの、市税等の収入も増加しており、前年度現状値から0.1ポイント減少(改善)した。
	③	令和元年度から導入した納税推進センターによる現年滞納分の早期催告、職員による債権差押や公売等の滞納処分を強化したことにより、前年度実績値から0.3ポイント上昇し、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	基準値との比較において、市民ニーズに沿ったサービスが提供できたことにより、7.2ポイント低下(改善)している。	

6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	Ba 前回・今回
D	
d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
計画的、効率的な財政運営	行政評価事業	政策課	○	★★	★★★★
	行政改革推進事業	行政課	○	★★★★	-
	財務書類4表作成分析事業	財政課	○	★★	★
財源の安定確保	地方創生推進事業	政策課	○	★★★★	★★
	滞納整理事業	納税課	○	★★	★
	納税啓発事業	納税課	○	★★★★	★★
	市税納税推進事業	納税課	○	★★	★★
財政状況の分析・開示	財務書類4表作成分析事業	財政課	○	★★	★
	健全化判断比率等作成分析事業	財政課	○	★★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見

10. 今後の方向性・改善計画

新型コロナウイルス感染症の影響による景気後退により一時落ち込んだ税収は緩やかに増加すると予想されるものの、物価高騰による各種経費の増加のほか、扶助費などの義務的経費の伸びも続く見込みであることから、指標は横ばいからやや悪化が想定される。このような状況を踏まえ、令和5年度から令和9年度を計画期間とする新たな「一宮市中期財政計画」を策定し、財政調整基金残高の確保と市債残高の圧縮を目標に掲げ、持続可能な財政運営に努めていく。

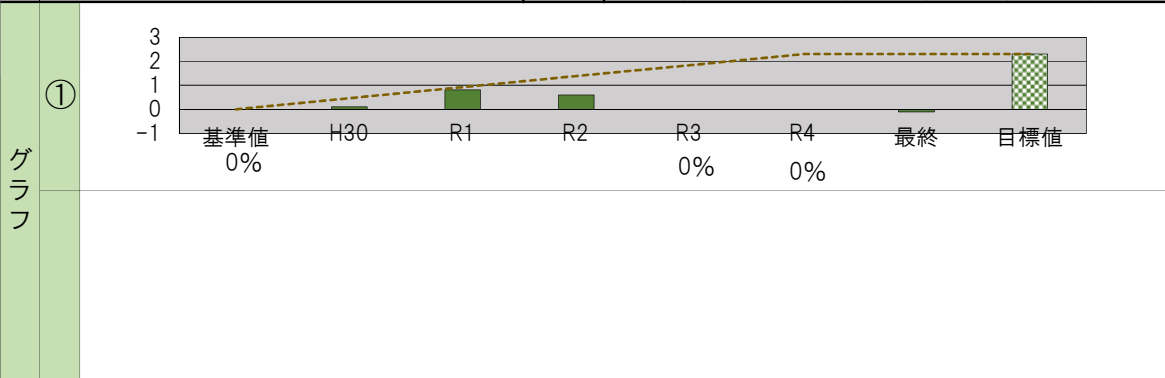
また、今後も財源の安定確保のため、納税の啓発や滞納整理事業を継続していくとともに、「選択」と「集中」を意識した事業の積極的な見直しを行い、歳出の圧縮に努めていく。

主担当部・課
財務部 財政課

関係課
政策課、行政課、納税課

1. 成果指標による評価

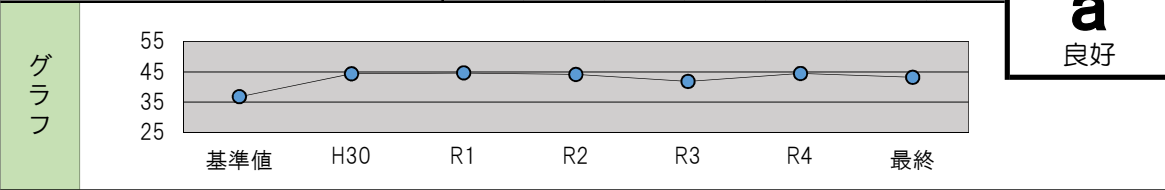
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値							目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① 公共施設の延べ床面積縮減率 (%)	↗	0	0.1	0.8	0.6	0	0	-0.1	2.3	D	



評価結果
<b>D</b> 悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
公共施設を不自由なく利用できている人の割合	36.8	44.3	44.6	44.1	41.8	44.4	43.2	<b>a</b> 良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・平成24年に発生した中央自動車道トンネルの天井板崩落事故がきっかけとなり、高度経済成長期に整備された公共施設が一斉に更新時期を迎えることに対する世間の不安が高まっている。  
 ・各自治体は、人口減少により税収の増加が見込めない中で、施設の維持管理経費の縮減、適正配置及び長寿命化への対応等が求められている。  
 ・総合管理計画策定の要請(総務省)を受けて、本市では平成28年11月に「公共施設等総合管理計画」を策定し、令和3年3月に公共建築物の個別施設計画として「施設のあり方計画」を策定した。

5. 施策評価
<b>Da</b>

4. 指標の分析


成果指標	① 令和4年度の延床面積は、普通財産の処分等により縮減した一方、引き続き待機児童解消のための児童館整備等により増加した。結果として、縮減率は前年度現状値からマイナスとなり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準地との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス			
A			
↑ 成果指標 ↓			Ca 前回
D			Da 今回
	d ← 体感指標 → a		
成果指標と体感指標の乖離あり			



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
公共施設の長寿命化対策の推進	公共施設等総合管理計画進捗管理事業	資産経営課	○	★★	-
大規模修繕や建替えの計画的な実施	公共施設等総合管理計画進捗管理事業	資産経営課	○	★★	-
統廃合や複合化による施設総量の縮減	公共施設等総合管理計画進捗管理事業	資産経営課	○	★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見			
	評価結果	評価の理由、市民が考えた「私たちにできること」等	
	○ 十分である	0.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果指標がわかりづらい。</li> <li>・ 建築年数経った公共施設が多い。古くて不安。</li> <li>・ 民営化して維持管理する。</li> <li>・ 施設はクラウドファンディング的に募金を呼び掛ける。</li> </ul>
	△ どちらともいえない	38.9%	
× 不十分である	61.1%		

10. 今後の方向性・改善計画

政策的に必要な施設整備等による延床面積の増加は止むを得ない面があるが、今後、施設所管課とともに、令和3年度に改定した「公共施設等総合管理計画」及び令和2年度に各部が策定した「施設のあり方計画」に従い、遊休施設の解体や処分、公共施設等の複合化、適正管理による延床面積の縮減を推進していく必要がある。

主担当部・課
財務部 資産経営課

関係課
—

Management 2

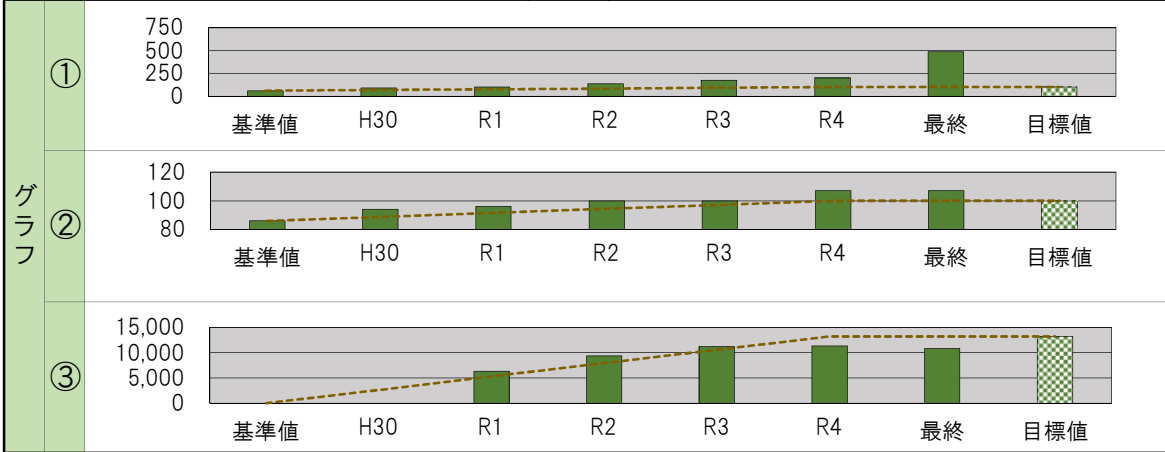
持続可能で未来につなげる

施策5

情報通信技術（ICT）を積極的に利活用します

1. 成果指標による評価

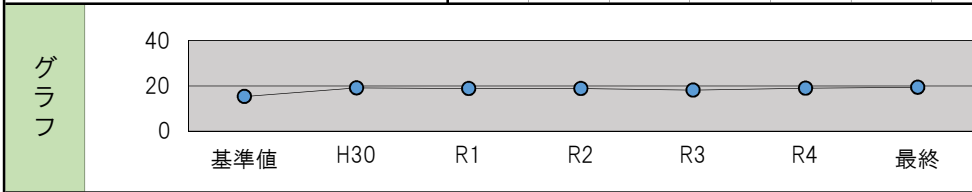
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値							目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終			
① オープンデータ公開件数（件）	↗	60	91	101	136	174	199	483	100	A	
② いちのみやフリーWi-Fi（無料公衆無線LAN）アクセスポイント数（か所）	↗	86	94	96	100	100	107	107	100	A	
③ インターネットを利用した税のクレジットカード納付件数（件）	↗	0	-	6,300	9,400	11,200	11,300	10,800	13,200	B+	



評価結果  
**A**  
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
一宮市のインターネット関連のサービスが充実していると思う人の割合	15.3	19.1	18.8	18.8	18.2	19.0	19.4	<b>b</b> 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・総務省が定めている「自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画」において、「オープンデータの推進・官民データ活用の推進」が取組事項の一つとして掲げられており、より一層オープンデータの公開を進める必要がある。
- ・国においても、外国人観光客等が観光・災害時に利用しやすいWi-Fi環境を実現するため、観光・防災拠点への環境整備を推進している。
- ・多様化するライフスタイルに対応した収納方法を確保することで、納税者の利便性を向上させる必要がある。

5. 施策評価  
**Ab**

4. 指標の分析

①	オープンデータに関する啓発を行ったことにより、前年度現状値から284件増加しており、目標値を達成している。
②	安定的に稼働しており、引き続き目標値を達成している。
③	前年度現状値から500件減少しているものの、他のキャッシュレス決済の件数は増加しているため、納税者の利便性向上という目標は達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
	Ab 前回・今回
A ↑ 成果指標 ↓	
	d ← 体感指標 → a
	成果指標と体感指標の乖離なし

### 7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
ICTを活用した行政サービスの推進	フリーWi-Fi(無料公衆無線LAN)サービス拡大事業	デジタル推進室	○	★★	★
	テレビ電話による通訳サービス事業	デジタル推進室	○	★	★
	マイナポータル事業	デジタル推進室	○	★★★★	★
	クレジットカード納付事業	納税課	○	★★	★
	スマート窓口システム導入事業	市民課	○	★★★★	-
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	健康支援課	○	★★★★	-
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	子育て支援課	○	★★★★	★
	蔵書検索・予約システム運営事業	図書館管理課	○	★★★★	★★
	交通系ICカード支払事業	会計課	○	★★★★	★
オープンデータによる市民等との協働	利活用のできるオープンデータ公開事業	デジタル推進室	○	★★	-
	大学・民間企業との協働事業	デジタル推進室	○	★★	-

### 8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

### 9. 市民の意見

### 10. 今後の方向性・改善計画

成果指標①のオープンデータ公開件数については、施策の実現を目指し、引き続き公開の促進を行う。  
 成果指標②のアクセスポイント数については目標を達成したため、後期基本計画では「電子申請で受け付けた手続数」に指標を変更した。今後は電子申請の普及を図り、一層の市民の利便性向上を目指す。  
 成果指標③の税のクレジットカード納付件数については、納税者の利便性向上を目指し、他のキャッシュレス決済の普及とあわせて今後も事業を継続していく。

**主担当部・課**  
 総務部 デジタル推進室

**関係課**  
 納税課、市民課、健康支援課、子育て支援課、図書館管理課、会計課

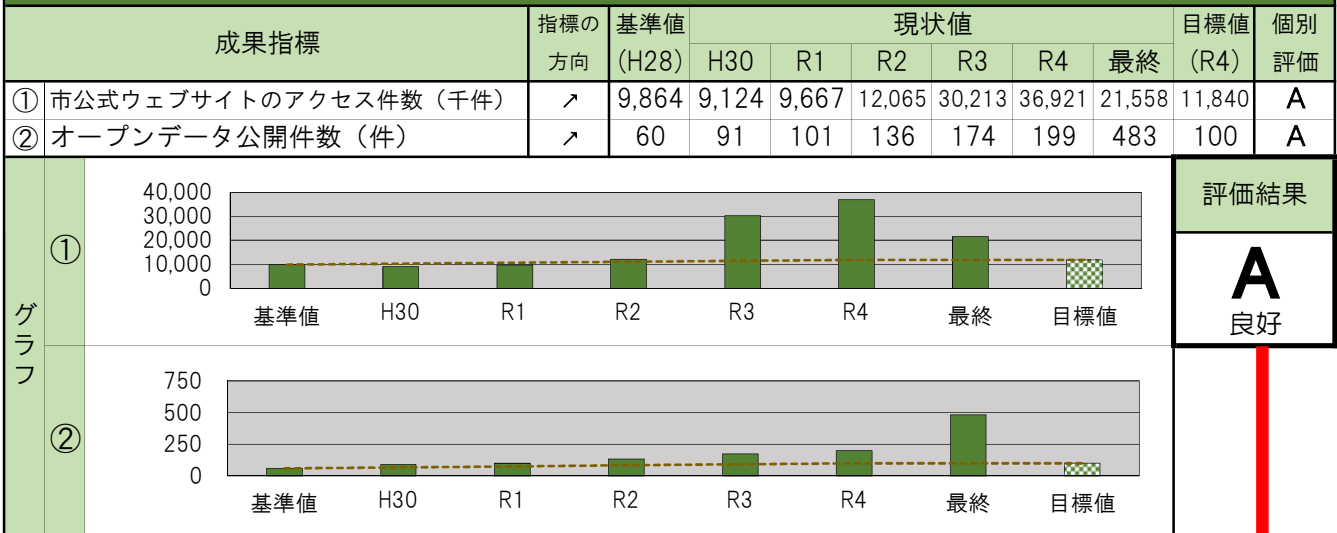
Management 2

持続可能で未来につなげる

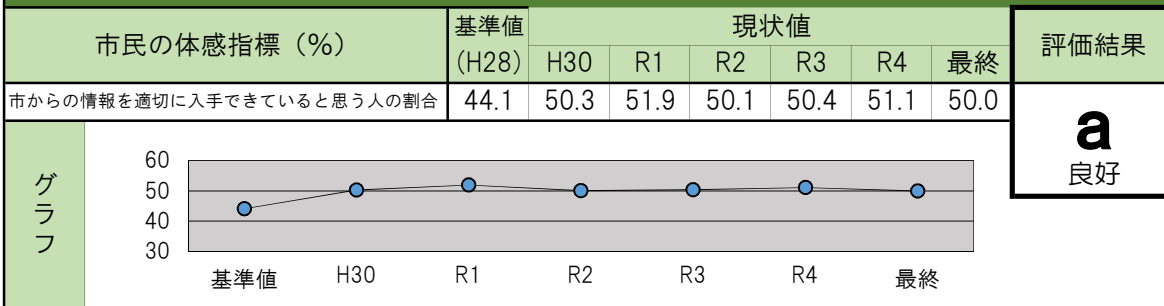
施策6

適切な情報発信を行います

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・インターネットの普及により、行政情報を得る手段はウェブサイトによる検索が一般的になっている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に関する事業は縮小傾向にあり、関心が低くなっている。
- ・若い世代を中心として、SNSを利用した積極的な情報発信が行われている。
- ・総務省が定めている「自治体デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進計画」において、「オープンデータの推進・官民データ活用の推進」が取組事項の一つとして掲げられており、より一層オープンデータの公開を進める必要がある。

5. 施策評価

Aa

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染症は収束傾向にあり、それに伴う情報も減少してきたため、前年度現状値から15,363千件減少しているものの、目標値を達成している。
	②	オープンデータに関する啓発を行ったことにより、前年度現状値から284件の大幅な増加となっており、目標値を達成している。
市民の体感指標		広報紙に加え、ケーブルテレビやコミュニティFMを活用した広報、SNSによる情報発信など、積極的な情報発信により、前年度現状値との比較において1.1ポイント低下しているものの、基準値との比較において5.9ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

			Aa 前回・今回
A ↑ 成果指標			
D ↓ 成果指標			
		d ← 体感指標 → a	
		成果指標と体感指標の乖離なし	

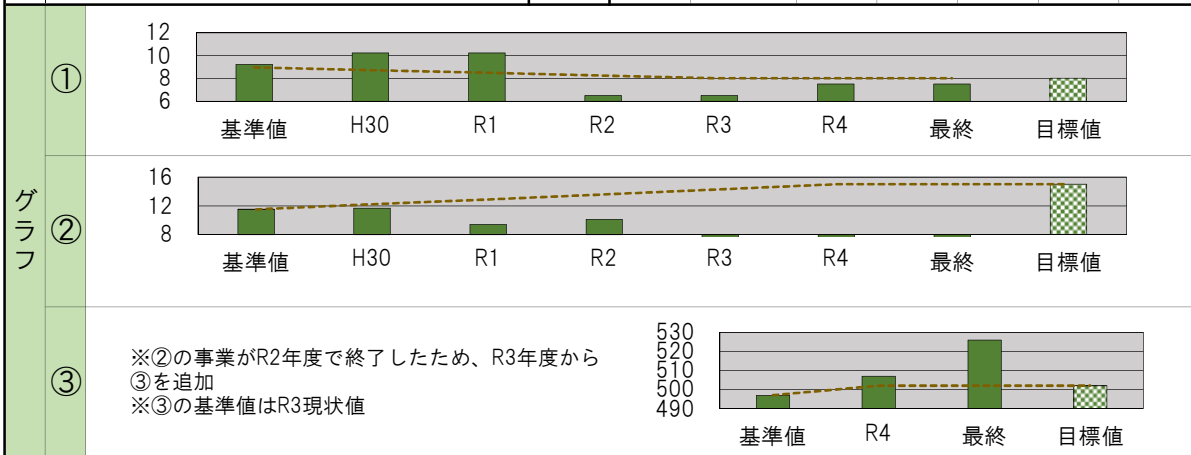


Management 2 持続可能で未来につなげる

施策7 市民との協働を進めます

1. 成果指標による評価

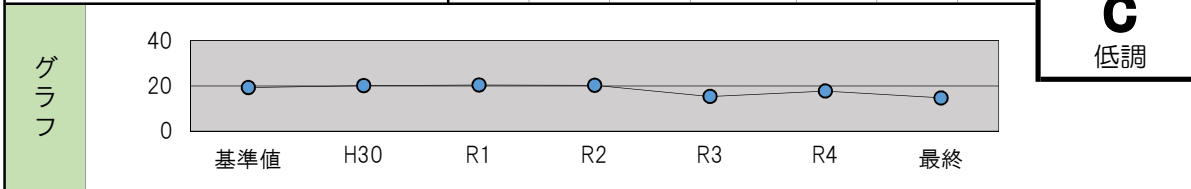
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値						目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4	最終		
① 無作為選出制度における名簿登録者の割合 (%)	↗	9.2	10.2	10.2	6.5	6.5	7.5	7.5	8.0	C+
② 市民が選ぶ市民活動支援制度の選択届出率 (%)	↗	11.5	11.7	9.4	10.1	-	-	-	15.0	-
③ 市民活動支援センター登録団体数 (団体)	↗	497	-	-	-	497	507	526	502	A



評価結果  
**B**  
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値						評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	最終	
市民と市が協力してまちづくりに取り組んでいると思う人の割合	19.2	20.1	20.4	20.3	15.4	17.7	14.7	<b>C</b> 低調



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 少子高齢化の進展や防犯・防災など地域課題が増大・多様化し、全てを行政サービスで対応することは困難である。
- ・ 定年退職者等の「能力も時間もある市民」が増えており、地域での活躍が期待されている。
- ・ 災害支援等でボランティアやNPOの活動が世間に認知されてきている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が徐々に落ち着き、町内会活動が再開されたり、新たにNPO活動を始める団体が出てきたりするなど、以前の状況に戻りつつある。

5. 施策評価  
**Bc**

4. 指標の分析

成果指標	① 無作為選出制度における名簿登録については隔年で実施しているため、現状値は前年度と変化なし。なお、令和4年度は名簿登録者の募集チラシのデザインを一新し、電子申請・届出システムでの応募も可能としたことで、1ポイント上昇しているものの、目標値から乖離している。
	② 令和2年度で事業終了したため、現状値なし。
	③ 新規登録団体が多かったことで、登録抹消を差し引いても、前年度現状値から19団体増加しており、目標値を達成している。
市民の体感指標	新型コロナウイルス感染症により活動が制限されていたため、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ3ポイント、4.5ポイント低下し、低調に推移している。なお、市民や市の活動が徐々に再開していることから、今後は指標の改善が期待される。

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	体感指標	
	d	a
A		
↑	<b>Bc</b> 今回	<b>Bb</b> 前回
↓		
D		
成果指標と体感指標の乖離なし		



## 参考 アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際はその手間や費用を考慮して適切な数を抽出し調査を行います。そのため、アンケートの回答結果に誤差が生じます。それを標本誤差といい、次の計算式によって算出できます。

なお、k は信頼率による定数で、一般的に信頼率 95%とすることが多く、その場合 k=1.96 となります。信頼率 95%とは、100 回同じ調査を行えば、95 回はその標本誤差の範囲内に収まるという意味です。

$$\text{(標本誤差)} = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団

n：有効回答数

k：信頼率による定数(※)

p：回答比率

※一般的に信頼率95%とすることが多く、その場合、k=1.96となる。

例えば、「あなたは携帯端末を持っていますか。」というアンケート調査を、380,000 人の市民の方から無作為に 3,000 人を選んで実施して、n:有効回答数が 1,600 人、「はい」と回答した割合が 82.0%であった場合、M:380,000、p:0.82、k:1.96 を当てはめて計算すると、標本誤差は約 1.88%となります。約±1.88%の誤差を生じることとなりますので、その回答は（95%の確率で）80.12%～83.88%（82±1.88%）の範囲内となります。

(注) 同じ設問を経年的に調査するときなどは、この標本誤差を踏まえて分析する必要があります。本市の行政評価においては、市民の体感指標ごとに標本誤差を考慮した評価および分析を実施しています。



# 指標数値の算出方法

## ■5つのプラン

プラン	施策	指標	算出方法
1 健やかにいきる	1	がん検診受診率	胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・乳がんの各がん検診受診者数の合計／当該がん検診対象者数の合計×100
		国民健康保険の特定保健指導の該当率	国民健康保険の特定保健指導の対象者数／特定健康診査の受診者数×100
		健康に暮らしていると感じている人の割合	市民アンケート調査で「心身ともに健康に暮らしている」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	2	待機児童数(保育園)	各年4月1日の保育園の待機児童数
		待機児童数(放課後児童クラブ)	各年4月1日の放課後児童クラブの待機児童数
		乳幼児健康診査の受診率	4か月・1歳6か月・3歳児の各健康診査受診者数の合計／当該健康診査対象者数の合計×100
		安心して子育てができていると思う人の割合	市民アンケート調査で「自分の家庭では、安心して子育てができている」と答えた人数／アンケート回答総数(※)×100 ※家庭に中学生以下の子どもがいる人対象
	3	市立病院の医師の充足率	各年4月1日の医師数／各年4月1日の必要な医師数×100
		市立病院の看護職員の充足率	各年4月1日の看護職員数／各年4月1日の必要な看護職員数×100
		地域医療機関から市民病院への紹介率	他の医療機関からの紹介患者数／初診患者数×100
		自分に合った医療を受けていると思う人の割合	市民アンケート調査で「市内の医療機関で自分に合った医療を受けることができている」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	4	認知症サポーター養成講座の累積受講者数	平成20年度以降の認知症サポーター養成講座の累積受講者数
		地域の高齢者が出かけたくなくなるような通いの場の箇所数	おでかけ広場、ふれあいクラブ、ふれあい・いきいきサロン、地域の通いの場の箇所数
		65歳以上で介護サービスを利用している人の割合	各年度9月に介護サービス(居宅、施設、地域密着型、総合事業(平成29年度以降))を利用した65歳以上の人数／各年度9月末現在の65歳以上の人口×100
		高齢者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	市民アンケート調査で「安心して暮らすことができる高齢者福祉サービスが整っていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数(※)×100 ※65歳以上の人対象
	5	グループホームで生活している障害者の人数	福祉課で把握している各年度3月における当該施設の利用者数
民間企業等へ就職した障害者の人数		愛知県で把握している、障害者施設から県内の民間企業等へ就職した市内の障害者数	
療育支援を受けている障害児の人数		福祉課で把握している各年度3月における障害児通所支援事業の利用者数	
障害者への福祉サービスが整っていると思う人の割合		市民アンケート調査で「障害者への福祉サービスが整っていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数(※)×100 ※障害者および周りに障害者がいる人対象	
2 快適にくらす	6	市民一人あたりの一日分のごみの排出量	1年間のごみと資源の総搬入量・回収量／年間日数／人口
		ごみのリサイクル率	資源化量(収集資源・町内回収資源・集団回収・拠点回収・中間処理)／1年間のごみと資源の総搬入量・回収量
		最終処分場の利用可能残余年数	前年度末処分場残容量(m <sup>3</sup> )／各年度埋立予定量(m <sup>3</sup> )
		リサイクルや分別など、ごみを適正に排出していると思う人の割合	市民アンケート調査で「リサイクルや分別など、ごみを適正に排出していると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	7	温室効果ガス排出量(二酸化炭素換算)	一宮市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)および国が定める策定マニュアルに基づき算出 ※国、県の公表データに基づき算出するため、表示年度と実績年度は異なります。
		地球温暖化防止に配慮した生活をしていると思う人の割合	市民アンケート調査で「地球環境に配慮した生活をしている」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	8	環境に関する講座などの開催回数	環境学習講座など環境に関連した学習機会の回数

プラン	施策	指標	算出方法
2 ：快適に くらす	8	エコスクール運動参加者の環境意識向上度	エコスクール運動アンケート調査で「以前より『地球にやさしい行動』をするようになった」と答えた児童・生徒数／エコスクール運動参加校数×60人(※)×100 ※実施校で各60人にアンケートを実施
		環境に対して責任や役割を意識している人の割合	市民アンケート調査で「次世代に引き継ぐべき環境に対して、何らかの責任や役割を意識している」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	9	都市公園面積	公園緑地課で集計する都市公園一覧表から算出
		水辺空間を活用したイベントの参加者数および施設の利用者数	138タワーパークのイベント期間中の入園者数と、木曾川河川敷の公園のイベント参加者および施設利用者数の合計
		水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人の割合	市民アンケート調査で「水と緑に親しめる場やイベントがあると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	10	ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数	清掃対策課で把握している清掃活動の参加人数
		典型7公害の苦情件数	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の公害を受けた市民からの相談件数
		下水道普及率	下水道供用開始区域内の人口／人口×100
		生活環境が良好であると思う人の割合	市民アンケート調査で「自分の住んでいる地域の、生活環境が良好であると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	11	住宅の耐震化率	新耐震基準で建設された住宅および旧耐震基準の住宅で耐震補強した住宅の総数／住宅総数
		木造住宅解体工事費の補助件数	木造住宅解体費を補助した件数
		空き家率	総務省「住宅・土地統計調査」での空き家率(5年ごとに把握)
		住宅が耐震や老朽化の観点から安心であると思う人の割合	市民アンケート調査で「住んでいる家が、耐震や老朽化の観点から安心である」と答えた人数／アンケート回答総数×100
12	市内バスの年間利用者数	市内を運行しているバス(名鉄バス、i-バス)の利用者数の各年度の合計	
	市内の公共交通網が充実していると思う人の割合	市民アンケート調査で「市内のバスや鉄道などの公共交通網が充実していると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100	
13	歩行者・自転車関連の交通事故件数	市内における、歩行者・自転車が関連した交通事故の発生件数	
	歩行者や自転車が、安心して通行できていると思う人の割合	市民アンケート調査で「普段利用している道路が、歩行者や自転車が安心して通行できていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100	
3 ：安全・安心を 高める	14	基幹管路の耐震化率	基幹管路耐震管延長／基幹管路総延長×100
		主要橋梁 <small>きょうりょう</small> の耐震化率	耐震対策済橋数／主要橋梁の橋数×100
		ガス管の耐震化率	震度6程度の地震に耐えられる低圧管の延長／低圧管の総延長×100
		災害に強いまちづくりができていると思う人の割合	市民アンケート調査で「一宮市は災害に強いまちづくりができていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	15	自主防災会の結成率	自主防災会のある町内会数／全町内会数×100
		あんしん・防災ねっと登録件数および一宮市防災ツイッターフォロワー数	あんしん・防災ねっとの緊急メール登録件数と一宮市防災ツイッターのフォロワー数の合計
	16	地震や風水害の備えができていると思う人の割合	市民アンケート調査で「家庭で、地震や風水害の備えをしている」と答えた人数／アンケート回答総数×100
		消火・消防訓練実施率(町内会単位)	防火防災訓練実施届出書に基づく訓練を実施した町内会の数／全町内会数×100
応急手当の実施率		バイスタンダーCPR(※)実施件数／心肺停止傷病者搬送人数(救急隊による目撃を除く)×100 ※救急現場に居合わせた人(発見者、同伴者等)が、心肺蘇生法を行い応急手当をすること	
	消防・救急体制が整っていると思う人の割合	市民アンケート調査で「消防・救急体制が整っていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100	

プラン	施策	指標	算出方法
3 安全・安心を高める	17	交通事故による死者数	各年末の交通事故による死者数
		交通事故による負傷者数	各年末の交通事故による負傷者数
		運転免許証を自主返納した高齢者数	各年度末の地域ふれあい課での高齢者運転免許証自主返納支援事業申請書の受理人数
		交通事故の危険を感じたことがある人の割合	市民アンケート調査で「自分の住んでいる地域で、交通事故の危険を感じたことがある」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	18	犯罪発生件数	各年末の刑法犯(殺人、強盗、窃盗などの刑法上の犯罪)の認知件数
		町内会等が設置した防犯カメラの台数	各年度末における町内会等が設置した防犯カメラの補助台数
		自主防犯パトロール隊の結成数	一宮市民パトロール隊に登録している団体数
	犯罪への不安を感じたことがある人の割合	市民アンケート調査で「自分の住んでいる地域で、犯罪の不安を感じたことがある」と答えた人数／アンケート回答総数×100	
4 活力を生み出す	19	中小企業振興融資の助成件数	中小企業振興融資を実行した事業者に対し、信用保証料の一部を助成した件数
		法人数	市税統計で公表される法人総数
		奨励金を交付した企業の新增設の累積件数	新設・増設をした事業者に対し、企業立地奨励金を交付した件数
		一宮市の企業は活力があると思う人の割合	市民アンケート調査で「一宮市の企業は元気で活力があると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	20	就職支援フェア来場人数	就職支援フェアの各種相談やセミナー、説明会に参加した人数
		離職者職業訓練の助成件数	離職者職業訓練助成を行った件数
		市内の企業で働いている60歳以上の高齢者の割合	各年度3月31日現在就労している60歳以上(臨時職員含む)の人数／各年度3月31日に就労している人(臨時職員含む)の人数×100(各種商工業団体、商工会議所、商工会に加入している企業にアンケート調査を実施)
		就労支援を必要とする人への支援がなされていると思う人の割合	市民アンケート調査で「就労支援を必要とする人に対して支援がなされていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数(※)×100 ※現在働いておらず、就職を希望する人対象
	21	育児休業取得率(男性)	市内の事業所を対象にしたアンケート調査で、対象となる子を養育している男性従業員のうち、育児休業を取得した人の割合(各種商工業団体、商工会議所、商工会に加入している企業にアンケート調査を実施)
		育児休業取得率(女性)	市内の事業所を対象にしたアンケート調査で、対象となる子を養育している女性従業員のうち、育児休業を取得した人の割合(各種商工業団体、商工会議所、商工会に加入している企業にアンケート調査を実施)
		就職を希望する女性の就職率	ハローワーカー宮での職業相談業務にて受け付け、就職できた女性の数／相談業務にて受け付けた女性の数×100
		男女差なく働けると感じている人の割合	市民アンケート調査で「職場で、男女の区別なく働くことができていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数(※)×100 ※働いている人(パート職員を含む)対象
	22	新規就農者数	認定新規就農者、新規認定農業者、新規家族経営協定による就農数の合計
		農地の集積率	利用権・中間管理権・特定農作業受委託契約で設定され集積された面積(m <sup>2</sup> )／全農地面積(m <sup>2</sup> )×100
	23	市内の農産物に愛着を感じている人の割合	市民アンケート調査で「市内の農作物に愛着を感じている」と答えた人数／アンケート回答総数×100
		市(周辺部)の都市計画道路の整備割合 幹線道路が整備されていると思う人の割合	市(周辺部)の都市計画道路の整備済延長(m)／市(周辺部)の都市計画道路の計画延長(m)×100 市民アンケート調査で「幹線道路が整備されていると思う」と答えた人数／アンケート回答総数×100

プラン	施策	指標	算出方法
5 ： 未 来 の 人 財 を 育 て る	24	子ども・若者総合相談窓口の相談者数	子ども・若者総合相談窓口で受けた電話・面談・訪問相談のうち対象者が30歳未満である場合の相談者の実人数(継続の相談者は、1回のみ計上)
		初発型非行の検挙人数	一宮警察署管内の非行少年等の補導概況のデータのうち、刑法犯少年の初発型非行の4罪種(万引き・オートバイ盗・自転車盗・占有離脱物横領)の検挙人数
		子ども会事業の実施数	一宮市児童育成連絡協議会が関連する子ども会事業およびジュニアリーダー事業での各種行事、研修会、派遣等の実施数の合計
		子どもが社会性を身につけていると思う人の割合	市民アンケート調査で「子ども(孫)が、社会性を身につけていると思う」と答えた人数/アンケート回答総数(※)×100 ※家庭に小・中学生の子どもがいる人対象
	25	トイレの洋式化率が50%以上の学校の割合(校舎内)	校舎内の全てのトイレの洋式化率が50%以上の市立小中学校数/市立小中学校数(61校)×100
		屋内運動場等の大規模空間における非構造部材の耐震化が完了した学校の割合	屋内運動場等の大規模空間(※)において非構造部材の耐震化が完了した市立小中学校数/市立小中学校数(61校)×100 ※文部科学省の基準で、屋内運動場および武道場など高さ6m超または床面積が200㎡超の空間をいう。
		学校の施設が快適だと思う小・中学生の割合	小学5・6年生および中学生対象の生活などの調査で「学校の校舎や屋内運動場は、快適だと思う」と答えた児童・生徒数/アンケート回答総数×100
	26	プログラミング教育の実施校数	プログラミング教育を実施している市立小中学校の数
		教員の情報機器活用研修の履修率	研修を履修した教職員数/総教職員数×100(各年度ごとの集計)
		英語テストで8割以上正解できた児童の割合	英語テストで8割以上正解できた小学3・4年生の児童数/小学3・4年生の全児童数×100
		特色ある教育活動が行われていると思う人の割合	市民アンケート調査で「子どもの通う学校で、特色のある教育活動が行われていると思う」と答えた人数/アンケート回答総数(※)×100 ※家庭に小・中学生の子どもがいる人対象
	27	スポーツ活動をする市民の数	市内の公共スポーツ施設の利用者数
		スポーツ指導者およびスポーツボランティア登録者数	資格取得のための講習会参加者数、スポーツ指導者数、ボランティア登録者数の合計
	28	スポーツに親しむ機会が多くあると思う人の割合	市民アンケート調査で「スポーツをしたり、観たり、スポーツをする人を支援するなど、スポーツ活動に触れる機会が多くあると思う」と答えた人数/アンケート回答総数×100
		無形文化財・無形民俗文化財の保存を担っている人の数	愛知県・一宮市指定文化財における保存会および一宮市民俗芸能連盟加盟団体である保存会の人数
		博物館等の入館者数および催事参加者数	博物館・三岸節子記念美術館・尾西歴史民俗資料館・木曾川資料館の年間入館者数、「一宮市美術展」・「いちのみや民俗芸能のつどい」をはじめとする文化団体委託事業・民俗芸能伝承推進事業の出品者・出演者・観覧者数、市民美術教室・生涯学習出前講座(博物館・三岸節子記念美術館・尾西歴史民俗資料館受付分)の参加者数、市民美術教室・生涯学習出前講座の参加者数の合計
	一宮市の歴史や文化に親しむ機会があると思う人の割合	市民アンケート調査で「市の歴史や文化に触れる機会がある」と答えた人数/アンケート回答総数×100	

## ■2つのマネジメント

マネジメント	施策	指標	算出方法
1 人呼び込む シティプロモーション	1	直近5年間の人口の社会増減累計	直近5年間の社会増減数(各年12月31日現在の年間転入者数－年間転出者数)の累計
		若年層の人口構成比	一宮市の年齢別人口のうち、25～39歳の市民の割合(各年4月1日時点)
	2	一宮市は子育てするのに適したまちだと思ふ人の割合	市民アンケート調査で「一宮市は子育てするのに適したまちだと思ふ」と答えた人数／アンケート回答総数×100
		一宮市の認知度	「地域ブランド調査 ハンドブック」の「調査全国ランキング(認知度)」での一宮市の順位
2 持続可能で未来につなげる	3	主要観光イベントの来客者数	「おりもの感謝祭一宮七夕まつり、濃尾大花火、国営木曾三川公園三派川地区センターイベント(年4回)、びさいまつり、チンドン祭り(年2回)、ホワイトイルミネーション、一豊まつり」の7つの各イベントの来場者数の合計
		一宮市は魅力があるまちだと思ふ人の割合	市民アンケート調査で「一宮市が市外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思ふ」と答えた人数／アンケート回答総数×100
		経常収支比率	経常経費充当一般財源等／(経常一般財源等歳入合計＋減収補てん債特例分＋臨時財政対策債)×100
		実質公債費比率(3か年平均)	$\frac{(A+B)-(C+D)}{E-D} \times 100$ A: 地方債の元利償還金 B: 地方債の元利償還金に準ずるもの C: AとBに充当される特定財源 D: AとBに係る普通交付税の基準財政需要額に算入された額 E: 標準財政規模
	4	市税徴収率	(市税収入額－還付未済額)／市税調定額×100
		市の提供するサービスで必要以上のサービスがあると思ふ人の割合	市民アンケート調査で「市の提供するサービスで、必要以上のサービスがあると思ふ」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	5	公共施設の延べ床面積縮減率	平成28年度当初の公共施設総延床面積からの縮減率 ※維持管理経費の削減額も延床面積の縮減効果相当面積として算入
		公共施設を不自由なく利用できている人の割合	市民アンケート調査で「公共施設を不自由なく利用できている」と答えた人数／アンケート回答総数×100
		オープンデータ公開件数	オープンデータカタログサイトで公開したオープンデータの件数
		いちのみやフリーWi-Fi(無料公衆無線LAN)アクセスポイント数	いちのみやフリーWi-Fi用市民向けアクセスポイントの設置箇所数
	6	インターネットを利用した税のクレジットカード納付件数	インターネットを利用した市税のクレジットカード納付件数
		一宮市のインターネット関連のサービスが充実していると思ふ人の割合	市民アンケート調査で「市のインターネット関連のサービスが充実していると思ふ」と答えた人数／アンケート回答総数×100
	7	市公式ウェブサイトのアクセス件数	パソコンサイト内の総アクセス件数と携帯サイト内の総アクセス件数の合計
オープンデータ公開件数		オープンデータカタログサイトで公開したオープンデータの件数	
市からの情報を適切に入手できていると思ふ人の割合		市民アンケート調査で「広報紙やインターネットなどを活用して、必要な情報を入手できている」と答えた人数／アンケート回答総数×100	
7	無作為選出制度における名簿登録者の割合	無作為選出制度(※)の登録者数／無作為選出制度の登録案内数×100 ※市民参加の推進のため、会議への参加等や、各種委員への委嘱等を、無作為に選出した市民にお願いする制度	
	市民が選ぶ市民活動支援制度の選択届出率	選択届出を行った市民の人数／選択届出を行う年度の1月1日現在の満18歳以上の市民の人数×100	
	市民活動支援センター登録団体数	市民活動支援センターの登録団体数	
	市民と市が協力してまちづくりに取り組んでいると思ふ人の割合	市民アンケート調査で「市民と市が協力してまちづくりに取り組んでいると思ふ」と答えた人数／アンケート回答総数×100	

算出方法中の事業担当課等の名称は平成30年3月末現在のものです。